

西原大塚遺跡 第220地点  
西原大塚遺跡 第222地点  
西原大塚遺跡 第227地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

埼玉県志木市教育委員会



## はじめに

志木市教育委員会  
教育長 柚木 博

ここに刊行する『西原大塚遺跡第220地点 西原大塚遺跡第222地点 西原大塚遺跡第227地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が平成30年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15カ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があるとと言えます。

さて、今回報告する調査地点の概要について触れてみることにします。

西原大塚遺跡第220地点の調査では、旧石器時代の石器集中地点、礫群が発見されました。小規模なまとまりではありますが、確実に当時の人々が生活した様子をうかがい知ることができました。また、中世以降では、土坑・井戸跡・道路状遺構が発見されました。中でも、道路状遺構が井戸跡に向かって延びている状況が確認できたことは、「井戸へ通じる道」であった可能性があり、貴重な成果と言えるでしょう。

西原大塚遺跡第222地点の調査では、縄文時代の住居跡、弥生時代終末～古墳時代前期の方形周溝墓が発見されました。調査面積が94㎡と狭いながらも、縄文時代の住居跡が7軒発見されたことは大きな成果です。縄文時代の集落内であり、中でも住居跡が密集している場所であったと推測されます。

西原大塚遺跡第227地点の調査では、縄文時代の炉穴、弥生時代終末～古墳時代前期の住居跡などが発見されました。西原大塚遺跡では現在、弥生時代終末～古墳時代前期の住居跡が600軒以上発見されており、類を見ない大集落であったと推測されます。今回の地点は遺跡の南東端に位置しており、弥生時代終末～古墳時代前期の集落範囲の限界が一部明らかになったと言えます。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

## 例 言

1. 本書は、平成30年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する遺跡である西原大塚遺跡第220・222・227地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘作業及び整理作業は、志木市教育委員会の受託事業として、以下の土木工事主体者から委託を受け実施した。

西原大塚遺跡第220・227地点：個人

西原大塚遺跡第222地点：埼玉県川口市西青木1-11-18

株式会社田村工務店 代表取締役 氏居照和

3. 本書の作成において、編集は大久保聡が行い、執筆は下記以外を大久保が行った。

尾形 則敏 第1章

4. 遺物の実測は、星野恵美子・松浦恵子・増田千春・林ゆき子が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは深井恵子・青木 修・池野谷有紀が行った。写真撮影は青木が行った。
5. 本書に掲載した石器については、有限会社アルケーリサーチ（取締役社長 藤波啓容）に実測を委託した。
6. 西原大塚遺跡第222・227地点の自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボ（代表取締役 中村賢太郎）に委託した。
7. 発掘作業における重機による表土剥ぎ・埋め戻し作業については、株式会社大塚屋商店（代表取締役 綱島正人）に委託した。
8. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

9. 調査組織（令和元年度）

教 育 長	柚 木 博
教 育 政 策 部 長	土 岐 隆 一
教 育 政 策 部 次 長	北 村 竜 一
生 涯 学 習 課 長	原 田 謙 二
生 涯 学 習 課 主 幹	中 原 敦 也
生 涯 学 習 課 主 査	浅 見 千 穂
”	武 井 香 代 子
”	尾 形 則 敏
生 涯 学 習 課 主 任	松 永 真 知 子
”	徳 留 彰 紀
”	大 久 保 聡
生 涯 学 習 課 主 事	鈴 木 楓 月
志 木 市 文 化 財 保 護 審 議 会	井 上 國 夫（会 長）
”	深 瀬 克（委 員）
”	高 橋 豊（委 員）

志木市文化財保護審議会 上野守嘉(委員)

” 新田泰男(委員)

10. 発掘作業及び整理作業参加者

〈西原大塚遺跡第220地点〉

○発掘作業

調査担当者 大久保 聡・尾形 則敏

調査員 深井 恵子

調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子

作業員 池野谷有紀・片山 望・二階堂美知子・林 ゆき子・増田千春・  
松浦 恵子・村田 浩美

重機オペレータ 田中三二(株式会社大塚屋商店)

○整理作業

調査員 深井 恵子・青木 修

調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子

作業員 池野谷有紀・片山 望・二階堂美知子・林 ゆき子・増田千春・  
松浦 恵子・村田 浩美・山口 優子

〈西原大塚遺跡第222地点〉

○発掘作業

調査担当者 大久保 聡・尾形 則敏

調査員 深井 恵子

調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子

作業員 池野谷有紀・片山 望・二階堂美知子・林 ゆき子・増田千春・  
松浦 恵子・村田 浩美

重機オペレータ 田中三二・小林 貴司(株式会社大塚屋商店)

○整理作業

調査員 深井 恵子・青木 修

調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子

作業員 池野谷有紀・片山 望・二階堂美知子・林 ゆき子・増田千春・  
松浦 恵子・村田 浩美・山口 優子

〈西原大塚遺跡第227地点〉

○発掘作業

調査担当者 大久保 聡・尾形 則敏

調査員 深井 恵子

調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子

作業員 池野谷有紀・片山 望・二階堂美知子・林 ゆき子・増田千春・  
松浦 恵子・村田 浩美

重機オペレータ 田中三二・小林 貴司(株式会社大塚屋商店)

○整理作業

調 査 員 深井恵子・青木 修

調 査 補 助 員 星野恵美子・鈴木浩子

作 業 員 池野谷有紀・片山 望・二階堂美知子・林 ゆき子・増田千春・  
松浦恵子・村田浩美・山口優子

11. 各遺跡の発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

江原 順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・齊藤 純・齋藤欣延・斯波 治・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢 均・早坂廣人・堀 善之・前田秀則・柳井章宏・山本 龍・和田晋治・渡辺邦仁

12. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

〈西原大塚遺跡第220地点〉

- 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成30年12月14日付け 教文資第4-1266号

- 埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成31年3月22日付け 教文資第7-216号

〈西原大塚遺跡第222地点〉

- 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成30年10月18日付け 教生文第4-1235号

- 埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成31年3月22日付け 教文資第7-209号

〈西原大塚遺跡第227地点〉

- 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成31年3月1日付け 教文資第4-1793号

- 埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和元年7月30日付け 教生文第7-32号

## 凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1:10,000 「志木市全図」株式会社バスコ調製

第2図 1:2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行  
株式会社ゼンリン

2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。
3. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
4. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。
5. ビット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるビットでも、おそらく後世のビットと思われるものには、数値を省略した。
6. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個別別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
7. 挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。
8. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は [ ]、推定値は ( ) を付した。

高：器高 口：口径 底：底径 厚：器厚

9. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

U = 旧石器時代の石器集中地点 礫 = 旧石器時代の礫群 J = 縄文時代の住居跡

F P = 炉穴 Y = 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡 方 = 方形周溝墓 W = 井戸跡

D = 土坑 M = 溝跡 道 = 道路状遺構 P = ビット

# 目 次

はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2章 西原大塚遺跡第220地点の調査	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 調査の経緯	8
第3節 旧石器時代の遺構・遺物	13
第4節 縄文時代の遺構	15
第5節 中世以降の遺構・遺物	15
第6節 遺構外出土遺物	37
第3章 西原大塚遺跡第222地点の調査	41
第1節 遺跡の概要	41
第2節 調査の経緯	41
第3節 検出された遺構・遺物	52
第4章 西原大塚遺跡第227地点の調査	87
第1節 遺跡の概要	87
第2節 調査の経緯	87
第3節 検出された遺構・遺物	90
第5章 調査のまとめ	100
第1節 西原大塚遺跡第220地点の調査成果	100
第2節 西原大塚遺跡第222地点の調査成果	102
第3節 西原大塚遺跡第227地点の調査成果	103

[付編] 自然科学分析

I. 西原大塚遺跡第222地点出土炭化材の樹種同定	107
II. 西原大塚遺跡第227地点出土炭化材の樹種同定	108

図 版

報告書抄録

## 挿 図 目 次

第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)	2	第31図 188・192号住居跡遺物出土状態 (1/60)	63
第2図 西原大塚遺跡の調査地点 (1/5,000)	9	第32図 188号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)	63
第3図 確認調査時の遺構分布 (1/200)	10	第33図 192号住居跡出土遺物 (1/3)	64
第4図 遺構分布図 (1/150)	12	第34図 189号住居跡 (1/60)	67
第5図 基本土層・16号石器集中地点・1号礎群 (1/30)	14	第35図 189号住居跡出土遺物 (1/3)	67
第6図 16号石器集中地点出土遺物 (1/3)	14	第36図 190号住居跡 (1/60)	69
第7図 827号土坑 (1/60)	15	第37図 190号住居跡出土遺物 (1/3)	70
第8図 土坑1 (1/60)	22	第38図 191号住居跡 (1/60)	71
第9図 土坑2 (1/60・1/30)	23	第39図 191号住居跡出土遺物1 (1/4)	71
第10図 土坑3 (1/60)	24	第40図 191号住居跡出土遺物2 (1/3)	72
第11図 9号井戸跡 (1/60)	28	第41図 193号住居跡 (1/60)	75
第12図 1号道路状遺構1 (1/60)	29	第42図 土坑 (1/60)	76
第13図 1号道路状遺構2	31	第43図 810号土坑出土遺物 (1/3)	76
第14図 ビット (1/60)	33	第44図 ビット (1/60)	78
第15図 土坑出土遺物 (1/4)	35	第45図 ビット出土遺物 (1/3)	78
第16図 9号井戸跡出土遺物 (1/4・1/3)	35	第46図 36号方形周溝墓 (1/60)	81
第17図 1号道路状遺構出土遺物 (1/4・1/3)	35	第47図 遺構外出土遺物1 (2/3・1/3)	82
第18図 10号ビット出土遺物 (1/3)	35	第48図 遺構外出土遺物2 (1/3)	83
第19図 遺構外出土遺物 (2/3・1/3・1/4)	38	第49図 確認調査時の遺構分布 (1/500)	88
第20図 確認調査時の遺構分布 (1/300)	43	第50図 遺構分布図 (1/300)	88
第21図 確認調査出土遺物1 (1/3)	44	第51図 312号住居跡 (1/60)	90
第22図 確認調査出土遺物2 (1/3)	45	第52図 313号住居跡 (1/60)	91
第23図 確認調査出土遺物3 (1/3)	46	第53図 603号住居跡 (1/60)	93
第24図 遺構分布図 (1/200)	51	第54図 603号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)	93
第25図 187号住居跡 (1/60)	53	第55図 604号住居跡 (1/60)	95
第26図 187号住居跡出土遺物1 (1/4)	54	第56図 604号住居跡出土遺物 (1/3)	95
第27図 187号住居跡出土遺物2 (1/3)	55	第57図 炉穴 (1/60)	97
第28図 187号住居跡出土遺物3 (1/3)	56	第58図 837号土坑 (1/60)	97
第29図 187号住居跡出土遺物4 (2/3・1/3)	57	第59図 ビット (1/60)	97
第30図 188・192号住居跡 (1/60)	62	第60図 遺構外出土遺物 (1/3)	99

## 目 次

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧……………	1	第19表 192号住居跡出土土器一覧……………	65
第2表 西原大塚遺跡第220地点の発掘調査工程表……	11	第20表 192号住居跡出土土製品一覧……………	65
第3表 16号石器集中地点出土石器一覧……………	14	第21表 192号住居跡出土石器一覧……………	66
第4表 1号礫群出土礫一覧……………	14	第22表 189号住居跡出土土器一覧……………	68
第5表 中世以降の土坑一覧……………	26	第23表 189号住居跡出土石器一覧……………	68
第6表 ビット一覧……………	34	第24表 190号住居跡出土土器一覧……………	70
第7表 中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧(1)……	36	第25表 191号住居跡出土土器一覧……………	73
中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧(2)……	37	第26表 191号住居跡出土石器一覧……………	74
第8表 遺構外出土石器一覧……………	39	第27表 810号土坑出土土器一覧……………	77
第9表 遺構外出土土器一覧(1)……………	39	第28表 ビット一覧……………	79
遺構外出土土器一覧(2)……………	40	第29表 ビット出土土器一覧……………	79
第10表 西原大塚遺跡第222地点の発掘調査工程表……	42	第30表 遺構外出土土器一覧……………	83
第11表 確認調査出土土器一覧(1)……………	47	第31表 遺構外出土縄文土器一覧(1)……………	84
確認調査出土土器一覧(2)……………	48	遺構外出土縄文土器一覧(2)……………	85
確認調査出土土器一覧(3)……………	49	第32表 遺構外出土土製品一覧……………	86
確認調査出土土器一覧(4)……………	50	第33表 遺構外出土陶磁器一覧……………	86
第12表 確認調査出土土製品一覧……………	50	第34表 西原大塚遺跡第227地点の発掘調査工程表……	89
第13表 確認調査出土石器一覧……………	50	第35表 603号住居跡出土土器一覧……………	94
第14表 187号住居跡出土土器一覧(1)……………	58	第36表 604号住居跡出土土器一覧……………	96
187号住居跡出土土器一覧(2)……………	59	第37表 遺構外出土土器一覧……………	99
187号住居跡出土土器一覧(3)……………	60	第38表 西原大塚遺跡第222地点出土炭化材の樹種同定結 果一覧……………	107
第15表 187号住居跡出土土製品一覧……………	61	第39表 西原大塚遺跡第227地点出土炭化材の樹種同定結 果一覧……………	109
第16表 187号住居跡出土石器一覧……………	61		
第17表 188号住居跡出土土器一覧……………	64		
第18表 188号住居跡出土土器一覧……………	65		

## 目 次

### 図版1 西原大塚遺跡第220地点

1. 確認調査風景
2. 調査区近景
3. 表土剥ぎ風景
4. 基本土層
5. 遺構確認風景
6. 16号石器集中地点・1号礎群
7. 石器出土状態

### 図版2 西原大塚遺跡第220地点

1. 827号土坑（北から）
2. 827号土坑（東から）
3. 813・814・818号土坑
4. 815・821号土坑
5. 816号土坑
6. 817号土坑
7. 819号土坑
8. 820号土坑

### 図版3 西原大塚遺跡第220地点

1. 822号土坑
2. 823号土坑
3. 824号土坑
4. 825号土坑
5. 826号土坑
6. 828・829号土坑
7. 830・831号土坑遺物出土状態
8. 831号土坑

### 図版4 西原大塚遺跡第220地点

1. 832号土坑
2. 833号土坑
3. 834号土坑
4. 835号土坑
5. 836号土坑
6. 9号井戸跡
7. 9号井戸跡平面
8. 9号井戸跡遺物出土状態

### 図版5 西原大塚遺跡第220地点

1. 1号道路状遺構東半部（東から）
2. 1号道路状遺構西端部超硬化面（東から）
3. 1号道路状遺構西端部掘り方（東から）
4. 1号道路状遺構西半部（西から）
5. 11号ピット
6. 調査風景

### 図版6 西原大塚遺跡第220地点

1. 16号石器集中地点出土石器
2. 土坑出土遺物
3. 9号井戸跡出土遺物

### 図版7 西原大塚遺跡第220地点

1. 1号道路状遺構出土遺物
2. ピット出土遺物
3. 遺構外出土遺物

### 図版8 西原大塚遺跡第222地点

1. 確認調査風景
2. 調査区近景
3. 表土剥ぎ風景
- 4・5. 187号住居跡遺物出土状態
6. 187号住居跡
7. 188・192号住居跡遺物出土状態
8. 188号住居跡遺物出土状態

### 図版9 西原大塚遺跡第222地点

1. 192号住居跡炭化材出土状態
2. 188・192号住居跡
3. 189号住居跡遺物出土状態
4. 189号住居跡
5. 190号住居跡
6. 191号住居跡
7. 191号住居跡遺物出土状態
8. 191号住居跡調査風景

### 図版10 西原大塚遺跡第222地点

1. 193号住居跡
2. 810号土坑
3. 811号土坑
4. 812号土坑
5. 1号ピット
6. 7号ピット
7. 8号ピット
8. 9号ピット

### 図版11 西原大塚遺跡第222地点

1. 12号ピット
2. 36号方形周溝墓
3. 1区全景
4. 2区全景
5. 3区全景
6. 4区全景
7. 調査風景

### 図版12 西原大塚遺跡第222地点

確認調査出土遺物1

### 図版13 西原大塚遺跡第222地点

確認調査出土遺物2

### 図版14 西原大塚遺跡第222地点

187号住居跡出土遺物1

### 図版15 西原大塚遺跡第222地点

187号住居跡出土遺物2

### 図版16 西原大塚遺跡第222地点

1. 187号住居跡出土遺物3
2. 188号住居跡出土遺物
3. 192号住居跡出土遺物

### 図版17 西原大塚遺跡第222地点

1. 189号住居跡出土遺物
2. 190号住居跡出土遺物
3. 191号住居跡出土遺物1

### 図版18 西原大塚遺跡第222地点

1. 191号住居跡出土遺物2
2. 810号土坑出土遺物
3. ピット出土遺物
4. 遺構外出土遺物1

### 図版19 西原大塚遺跡第222地点

遺構外出土遺物2

図版20 西原大塚遺跡第227地点

1. 確認調査風景
2. 調査区近景
3. 表土剥ぎ風景
4. 312号住居跡
5. 313号住居跡
6. 603号住居跡遺物出土状態
7. 603号住居跡遺物出土状態
8. 603号住居跡貯蔵穴

図版21 西原大塚遺跡第227地点

1. 603号住居跡
2. 603号住居跡炉跡
3. 603号住居跡掘り方
4. 604号住居跡遺物出土状態
5. 604号住居跡
6. 604号住居跡炉跡
7. 604号住居跡炉跡被熱断面
8. 604号住居跡P2

図版22 西原大塚遺跡第227地点

1. 604号住居跡P3
2. 604号住居跡
3. 19号炉穴
4. 20号炉穴
5. 837号土坑
6. 1号ピット
7. 2号ピット
8. 3号ピット

図版23 西原大塚遺跡第227地点・西原大塚遺跡第222地点

1. 603号住居跡出土遺物
2. 604号住居跡出土遺物
3. 遺構外出土遺物
4. 西原大塚遺跡第222地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

図版24 西原大塚遺跡第227地点

- 西原大塚遺跡第227地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

### (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりを持ち、面積は9.05km<sup>2</sup>（注1）、人口約7万5千人の自然と文化の調和する都市である。

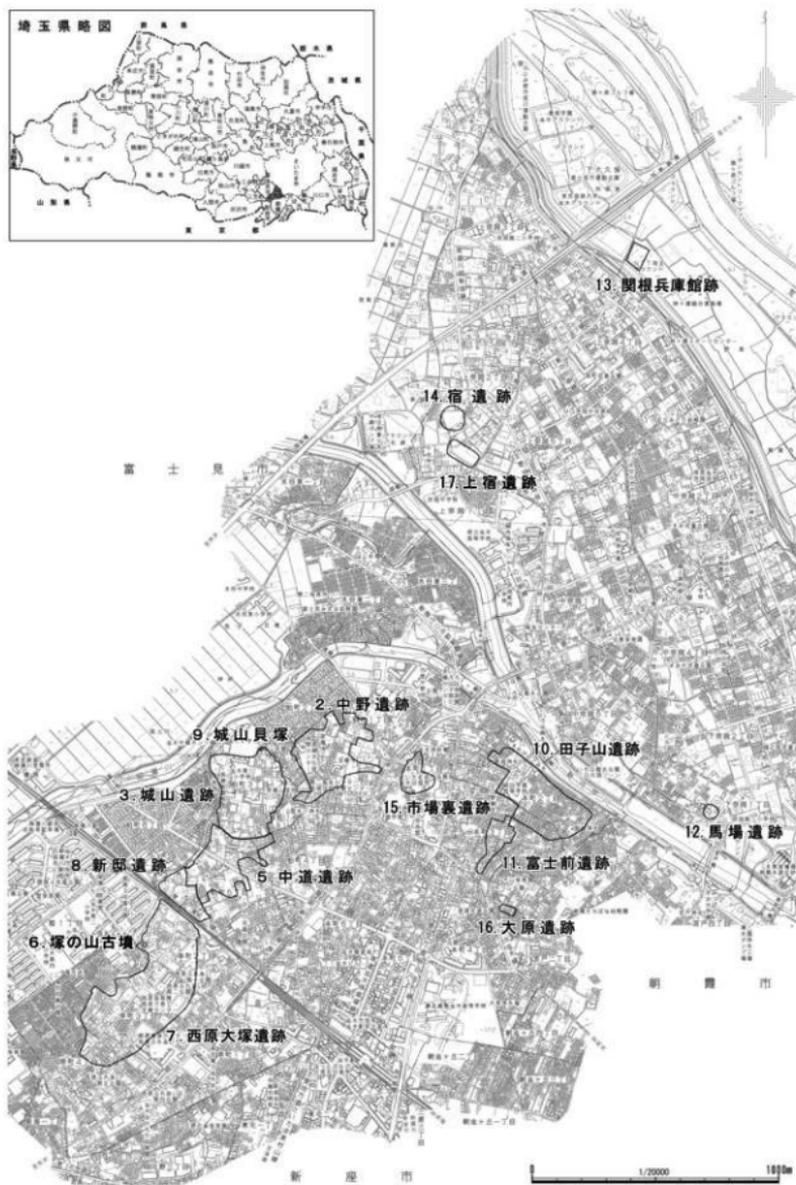
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が扯がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	67,620㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄(早～後)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	82,100㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄(草創～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、跡道関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、銅造関連遺物等
5	中道	54,420㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～後)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(前～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄(早～中)、古(前～後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ビット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝塚	縄(前)	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄(草創～晩)、弥(後)、古(後)、奈・平、中・近世	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム探掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830㎡	宅地	集落跡	縄文、弥(後)～古(前)、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800㎡	畑	集落跡	古(前)	住居跡?	土師器
13	関根兵庫跡	4,900㎡	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	水田	館跡	中世	溝跡、桁状構造物	木・石製品
15	市場裏	13,800㎡	宅地	集落跡・墓跡	弥(後)～古(前)、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700㎡	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
17	上宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡	平安・中・近世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器
合計		519,240㎡					

令和元年11月14日現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)

令和2年1月31日現在

と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡(12)、宿遺跡(14)、関根兵庫館跡(13)が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡(17)が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳(6)、城山貝塚(9)を加えた15遺跡である(第1図・第1表)。

## (2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2ヶ所、平成7年(1995)年度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元(2019)年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・真岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27(2016)年に発掘調査された中野遺跡第91㊦地点からは、礫群1基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13(2001)年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点(道路・駐車場部分)でも1ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23(2011)年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点2ヶ所、礫群9基が検出された。令和元(2019)年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

### 2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4(1992)年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6(1994)年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10(1998)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18(2006)年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉(条痕文系)の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で燃糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23(2011)年に発掘調査が実施された田子山

遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から燃糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が伊穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出されている。そのうち、新邸・城山遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡1軒が確認されているが、平成27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曾利EⅣ式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2016・2017）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的多く出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

### 3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは、壺、甕、高坏、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅劍が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出され

てきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単一的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高環が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。なお、鳥形土製品1と壺形土器4点の計5点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

#### 4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約230軒、次いで中野遺跡で約55軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円形で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

#### 5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のとこ

ろ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げるができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器環や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶が2枚とその近くからは鉄鎌1点と土鎌1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器環が共存して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

## 6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『館村旧記』（註2）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註3）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、『大塚十五坊』についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鑄造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鑄造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鑄型、鍋の耳部分の小型鑄型、三叉状・四叉状土製品・トリペ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鋳の札である鉄製品1点と鉄鎌1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑で

あるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ビット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たな土坑45基・井戸跡2基・溝跡1本・ビット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑5基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」に関連する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のビットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

## 7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

### 〔註〕

註1 平成26年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から9.05㎢に変更された。

註2 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主高原伸右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註3 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）6月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐる、駿河甲斐にも足をのびし、奥州松島までの旅を記行文にまとめたものである。

### 〔引用文献〕

- 神山健吉 1988 「廻回雑記」に現れる 大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察『郷土志木』第7号  
2002 「道興をめぐる二つの誤説を糾す」『郷土志木』第31号

## 第2章 西原大塚遺跡第220地点の調査

### 第1節 遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町2～4丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約1kmに位置している。北東―南西方向に約700m、北西―南東方向に約150mの広がりを持ち、遺跡面積164,960㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で8mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、おおむね緩やかな傾斜をもち台地から低地に移行している。遺跡北西部分の台地下では、今でも小規模な湧水点が確認されている。

昭和48（1973）年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元（1989）年から平成19（2007）年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。令和2年1月31日現在で、231地点に対して確認調査・発掘調査を実施している（第2図）。

これまでの調査の結果、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明している。特に、縄文時代中期では住居跡約180軒からなる大規模な環状集落跡が形成され、また弥生時代後期から古墳時代前期では住居跡600軒以上からなる大規模集落跡が形成されていたことが判明している。

### 第2節 調査の経緯

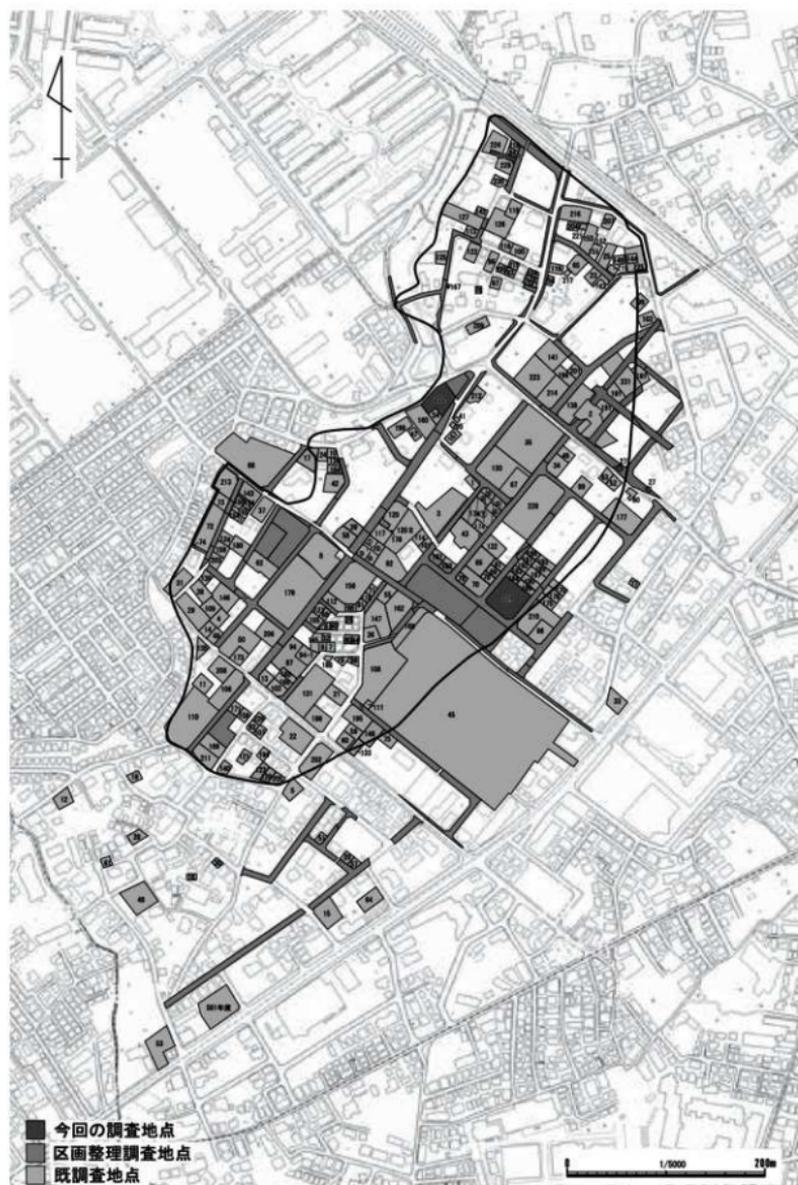
#### （1）調査に至る経過

平成29年9月、J Aあさか野から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市幸町2丁目6285-2、6286-3（面積119.56㎡）地内に道路新設工事を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228-09-007）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

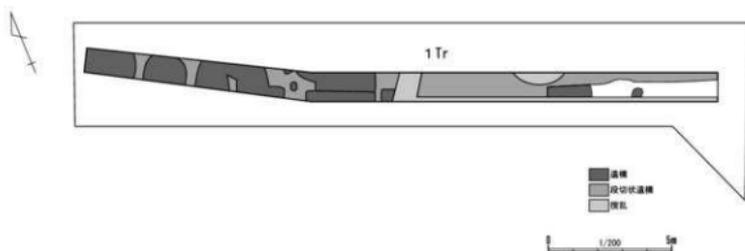
1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

平成30年5月10日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受領し、西原



第2図 西原大塚遺跡の調査地点 (1 / 5,000)

令和2年1月31日現在



第3図 確認調査時の遺構分布（1 / 200）

大塚遺跡第220地点として、5月28日に確認調査を実施した。確認調査は、第3図に示すように調査区長軸中央に1本のトレンチ（1 Tr）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡1軒、中世の段切状遺構1か所・土坑11基などを確認した。調査の全体の内容では、調査区全体に段切状遺構の整地面が展開し、おそらく、その整地面を基盤に複数の土坑・ピットなどが分布しているものと思われる。

教育委員会は、この結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

6月18日に土木工事主体者と埋蔵文化財の保存措置について協議を行った。その結果、今回の工事内容については、道路新設工事であることから、発掘調査を実施することに決定した。

7月27日、土木工事主体者より志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出されたため、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第2条第2項に基づき、10月4日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。10月31日、志木市と土木工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

教育委員会は、埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、10月31日から発掘調査を実施した。

## （2）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第2表の発掘調査工程表に示した。

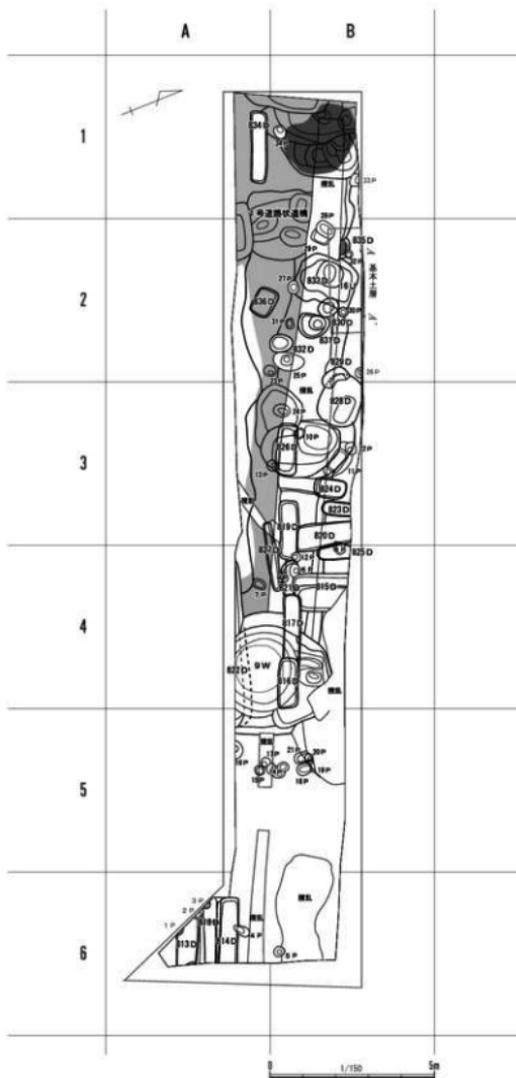
- 10月31日 発掘調査を開始する。重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を調査区北西端から開始する。中間地点まで剥いだ後、南東端から表土剥ぎを行う。最後に中央付近の表土を剥ぎ、本日中に表土剥ぎ作業を終了する。残土置場は調査区北東側とした。
- 11月7日 人員を導入する。調査区については、南東半分を前半区、北西半分を後半区とした。調査機材を搬入後、前半区の調査区整備、遺構確認作業を行う。本日中に前半区の遺構検出状況の写真撮影を完了した。
- 8日 後半区の調査区整備、遺構確認作業を行う。後半区の遺構検出状況の写真撮影を完了した。土坑（813～815 D）の精査を開始する。
- 12～19日 土坑（816～826 D）、井戸跡（9 W）、道路状遺構（1 道）の精査を開始する。9 Wの調査は、掘削深度が深くなったため、遺構の途中までで掘削を中止し、土層断面の

記録を行い、完掘とした。1道については黒色土の硬化面範囲を記録し、セクションベルトを設定し、精査を行った。813～826 Dの精査を終了する。

- 20日 土坑（827・828 D）の精査を開始する。827 Dは縄文時代の陥穴であった。9 Wでは、エレベーション図を作成し、精査を終了する。本日中に前半区西半の完掘全景の写真撮影を行う。
- 21日 土坑（829～831 D）の精査を開始する。830 Dでは土坑内に礫が多数出土したため、礫の出土状況を撮影し、微細図で記録した。827 Dの精査を終了する。前半区の埋め戻し作業を開始し、本日中に埋め戻しを完了する。
- 22～29日 土坑（832～836 D）の精査を開始する。831 Dでは土坑内に礫が多数出土したため、礫の出土状況を撮影し、微細図で記録した。1道では、調査区西端で非常に硬くしまった面（超硬化面）を検出した。硬化面範囲を記録後、掘り下げを行った結果、1道の西側の掘り方が階段状になっていることが判明した。828～836 Dの精査を終了する。
- 30日 1道のエレベーション図を作成し、精査を終了する。後半区の完掘全景の写真撮影を行う。基本土層を確認するため、調査区北壁にトレンチを設定し、掘り下げを行った。掘り下げ途中で、立川ローム第Ⅳ～Ⅴ層で剥片が出土したため、旧石器時代の石器集中地点（16 U）としての精査に切り替えた。本日中に16 U、1号礫群の出土状況写真の記録、取り上げを行い、土層断面の記録を行い、16 Uの精査を終了した。
- 12月1日 埋め戻し作業を開始する。本日中に埋め戻しを完了する。

	10月	平成30年11月						12月
		5日	10日	15日	20日	25日	30日	
表土剥ぎ作業	10.31							
813D			11.9	11.12				
814D			11.9	11.12				
815D			11.9	11.15				
816D			11.12	11.13				
817D			11.12	11.13				
818D			11.12					
819D			11.13	11.15				
820D			11.13	11.15				
821D			11.14	11.15				
822D			11.14	11.16				
823D			11.14	11.15				
824D			11.15	11.16				
825D			11.16	11.19				
826D				11.19				
827D			11.20	11.21				
828D			11.20	11.22				
829D			11.21	11.22				
830D			11.21	11.22				
831D			11.21	11.26				
832D			11.22	11.26				
833D			11.22	11.27				
834D				11.26	11.27			
835D				11.27	11.29			
836D				11.27	11.28			
9 W			11.13	11.20				
1道				11.19			11.30	
16 U						11.30		
1礫						11.30		
埋戻し作業					11.21			12.1

第2表 西原大塚遺跡第220地点の発掘調査工程表



第4図 遺構分布図 (1 / 150)

## 第3節 旧石器時代の遺構・遺物

### (1) 概要

旧石器時代の調査は、(B-2)グリッドで基本層序を確認するためにローム掘削を行った際、石器が検出されたことから実施された。検出された石器を中心に調査区を拡張し、立川ローム第Ⅳ層上部までの掘削を行った結果、16号石器集中地点(16U)・1号礫群(1礫)が確認された(第5図)。16号石器集中地点・1号礫群は隣接する西原大塚遺跡第224地点で北半部が確認されている。

### (2) 基本層序

本地点における基本層序については、立川ローム第Ⅲ層から第Ⅳ層上部まで確認した。第Ⅲ層は1号道路状遺構の造成による削平を受けていると思われ、部分的に確認できる程度であった。第Ⅳ層上面も同様に削平を受けている。土層断面図、土層の観察については、第5図に示す。

### (3) 石器集中地点

#### 16号石器集中地点

**遺 構** (第5図)

**[位 置]** (B-2)グリッド。

**[平面分布]** 南北0.45m、東西0.57m。調査区北側に隣接する西原大塚遺跡第224地点でナイフ形石器が1点出土しており、散漫に分布する。1号礫群と平面分布が重なる。

**[出土層位]** 立川ローム第Ⅴ層。標高値では13.100m～13.135m。1号礫群の垂直分布と重なる。

**[出土石器]** 今回出土した石器は剥片2点である。石材はホルンフェルス、チャートである。

**遺 物** (第6図、第3表)

1はホルンフェルス製の剥片で、下半部を欠損する。2はチャート製の剥片である。打点直下にリッパが認められ、コーン、バルブが発達している。

### (4) 礫群

#### 1号礫群

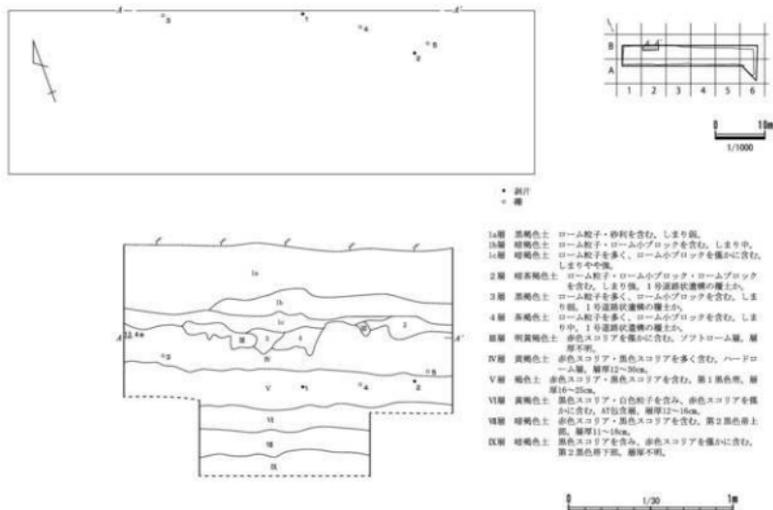
**遺 構** (第5図、第4表)

**[位 置]** (B-2)グリッド。

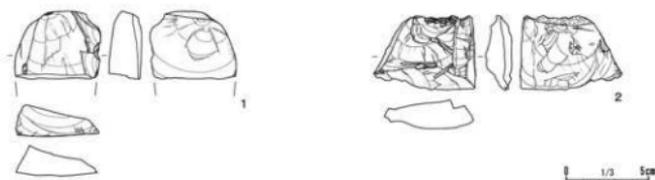
**[平面分布]** 南北0.7m、東西1.46m。調査区北側に隣接する西原大塚遺跡第224地点で礫が集中して出土しており、今回の調査では本礫群の南端が確認された。16号石器集中地点と平面分布が重なる。

**[出土層位]** 立川ローム第Ⅳ層下部～第Ⅴ層。標高値では13.115m～13.290m。16号石器集中地点と垂直分布が重なる。

**[構 成 礫]** 今回出土した礫点数は3点で、いずれも破砕礫である。石材はすべて砂岩である。重量別の組成では50g未満が2点、50～100gが1点である。礫表面の状態では、表面・破断面が赤化するものが2点、表面のみ赤化するものが1点であった。黒色の煤状付着物が付着するものは1点である。今回出土した礫同士では、接合関係は認められなかった。



第5図 基本土層・16号石器集中地点・1号礎群 (1/30)



第6図 16号石器集中地点出土遺物 (1/3)

出土番号	押図番号 図版番号	器種	石材	残存状況	長さ	幅	厚さ	重量	特徴
1	第6図1 図版6-1-1	剥片	ホルンフェルス	上端部	41.92	52.70	20.22	50.94	断面打面/背面に原断面あり/背面構成は上位、横位からの剥離面
2	第6図2 図版6-1-2	剥片	チャート	完形	52.10	62.56	18.38	50.02	平直(節理面)打面/背面構成は上位、横位からの剥離面

(単位: mm, g)

第3表 16号石器集中地点出土石器一覧

出土番号	押図番号 図版番号	種別	石材	残存状況	長さ	幅	厚さ	重量	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	備考
3	-	礫	砂岩	破砕	4.81	3.18	1.87	18.4	○	-	○	-	
4	-	礫	砂岩	破砕	8.16	2.40	2.34	62.5	○	△	○	-	
5	-	礫	砂岩	破砕	3.80	2.30	0.86	7.2	△	-	-	-	剥片状の破砕礫

(単位: cm, g) (○):あり △:横位にあり - :なし

第4表 1号礎群出土礫一覧

## 第4節 縄文時代の遺構

### (1) 概要

本地点からは、縄文時代の遺構として、土坑1基(827D)が検出された。827Dは構造から、陥穴と考えられる。遺物は出土しなかったため、詳細は不明である。

### (2) 土坑

#### 827号土坑

##### 遺構 (第7図)

[位置] (A・B-3・4) グリッド。

[検出状況] 1号道路状遺構に上部を削平され、9Pに切られる。西端の一部を攪乱される。

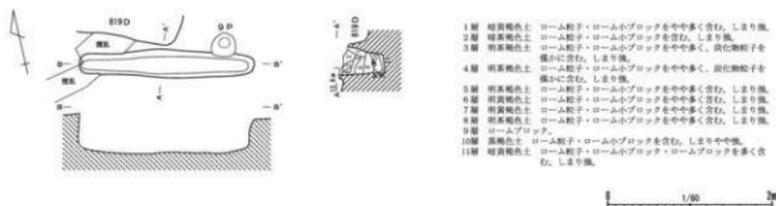
[構造] 平面形：幅狭の溝状を呈する。規模：長軸2.13m/短軸0.35m/深さ55cm。壁：80°～90°の角度で急斜に立ち上がる。長軸方位：N-80°-W。

[覆土] 外側から流れ込むような堆積を呈しており、自然堆積土と考えられる。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、縄文時代のものと考えられる。

[所見] 底面がほぼ平坦であり、幅狭の溝状を呈する平面形態、壁が垂直気味に立ち上がることから、陥穴と考えられる。



第7図 827号土坑 (1/60)

- |     |         |  |
|-----|---------|--|
| 1層  | 暗黄褐色土   | ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。              |
| 2層  | 暗黄褐色土   | ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。                  |
| 3層  | 暗黄褐色土   | ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。炭化物粒子を散らばら含む。しまり強。 |
| 4層  | 暗黄褐色土   | ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。炭化物粒子を散らばら含む。しまり強。 |
| 5層  | 暗黄褐色土   | ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。              |
| 6層  | 暗黄褐色土   | ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。              |
| 7層  | 暗黄褐色土   | ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。              |
| 8層  | 暗黄褐色土   | ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。              |
| 9層  | ロームブロック |  |
| 10層 | 黄褐色土    | ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。                 |
| 11層 | 暗黄褐色土   | ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。        |

## 第5節 中世以降の遺構・遺物

### (1) 概要

本地点からは、中世以降の土坑23基(813～826・828～836D)・井戸跡1基(9W)、道路状遺構1本(1道)・ピット34本(1～34P)が検出された。また、9Wの東側、(A・B-5・6)グリッド調査区壁の断面に、813Dや1Pに切られる土層が確認された(第8図A-A'断面の9層、B-B'断面の6層)。この土層は土坑、ピット等の遺構に伴うものではないことから、段切状遺構の覆土と考えられる。よって、9W以東には、浅い削平による段切状遺構が広がっていると考えられる。

## (2) 土坑

### 813号土坑

**遺構** (第8図、第5表)

**位置** (A-6) グリッド。

**検出状況** 同一方向に2基重なった状態で検出された。新旧関係から新しい土坑を813D-A、古い土坑を813D-Bとする。東・西側は調査区外へ延びる。813D-Aは1P・2Pに切られる。813D-Bは2Pに切れ、818Dと重複する。

**構造** 平面形：溝状の長方形。規模：813D-Aは、長軸不明/短軸0.68m/深さ49cm。813D-Bは、長軸・短軸不明/深さ35cm。壁：垂直気味に立ち上がる。長軸方位：N-69°-W。

**覆土** 813D-Aは5層(2~6層)、813D-Bは2層(7・8層)に分層される。

**遺物** 磁器2点、土製品1点が出土した。その内、磁器1点(碗)、土製品1点(素焼人形)を図示した。

**時期** 近世(18世紀中~19世紀前半)。

**遺物** (図版6-2-1・2、第7表)

**磁器** (図版6-2-1、第7表)

1は磁器碗である。

**土製品** (図版6-2-2)

2は素焼人形である。太夫を象ったものか。現存長3.8cm・幅3.1cm。

### 814号土坑

**遺構** (第8図、第5表)

**位置** (A-6) グリッド。

**検出状況** 同一方向に2基重なった状態で検出された。新旧関係から新しい土坑を814D-A、古い土坑を814D-Bとする。東側は調査区外へ延びる。814D-Aは4Pに切られる。814D-Bは818Dと重複する。

**構造** 平面形：溝状の長方形。規模：814D-Aは、長軸不明/短軸0.59m/深さ44cm。814D-Bは、長軸・短軸不明/深さ35cm。壁：垂直気味に立ち上がる。長軸方位：N-67°-W。

**覆土** 814D-Aは4層(2~5層)に分層され、814D-Bは単層(6層)である。

**遺物** 土器1点(皿)が出土したが、小破片のため、図版外とした。

**時期** 中世以降。

### 815号土坑

**遺構** (第8図、第5表)

**位置** (B-4) グリッド。

**検出状況** 同一方向に2基重なった状態で検出された。新旧関係から新しい土坑を815D-A、古い土坑を815D-Bとする。北側は調査区外へ延びる。815D-Aは817Dに切られる。815D-Bは821Dを切り、6Pに切られる。

**構造** 平面形：幅狭の長方形。規模：815D-Aは、長軸不明/短軸0.81m/深さ52cm。815

D-Bは、長軸・短軸不明/深さ30cm。壁：垂直気味に立ち上がる。長軸方位：N-22°-E。

[覆土] 815 D-Aは7層、815 D-Bは4層（8～11層）に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 816号土坑

**遺構** (第8図、第5表)

[位置] (B-4) グリッド。

[検出状況] 817 D・9 Wを切る。

[構造] 平面形：幅狭の長方形。規模：長軸1.55m/短軸0.62m/深さ47cm。壁：垂直気味に立ち上がる。長軸方位：N-67°-W。

[覆土] 5層に分層される。

[遺物] 陶器1点（徳利）が出土した。

[時期] 近世（18世紀中）。

**遺物** (図版6-2-1、第7表)

[陶器] (図版6-2-1、第7表)

1は陶器の徳利である。

### 817号土坑

**遺構** (第8図、第5表)

[位置] (B-4) グリッド。

[検出状況] 815・821 D・9 W・1道を切り、816 Dに切られる。

[構造] 平面形：両側縁が平行し、溝状を呈する。規模：長軸不明/短軸0.58m/深さ36cm。壁：垂直気味に立ち上がる。長軸方位：N-67°-W。

[覆土] 8層（6～13層）に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 818号土坑

**遺構** (第8図、第5表)

[位置] (A-6) グリッド。

[検出状況] 2・3 Pに切られる。813 D-B、814 D-Bと重複する。西側は調査区外へ延びる。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸・短軸不明/深さ24cm。壁：垂直気味に立ち上がる。長軸方位：N-67°-W。

[覆土] 2層（4・5層）に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 819号土坑

**遺構** (第8図、第5表)

**位置** (B-3・4) グリッド。

**検出状況** 1道を切る。820D・12Pに切られる。南側立ち上がりの一部を攪乱される。

**構造** 平面形：長方形。規模：長軸1.83m/短軸0.58m/深さ27cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-68°-W。

**覆土** 5層に分層される。

**遺物** 出土しなかった。

**時期** 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 820号土坑

**遺構** (第8図、第5表)

**位置** (B-3・4) グリッド。

**検出状況** 819D・1道を切る。825D・8Pと重複する。

**構造** 平面形：長方形。規模：長軸不明/短軸0.82m/深さ17cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-15°-E。

**覆土** 6層に分層される。

**遺物** 出土しなかった。

**時期** 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 821号土坑

**遺構** (第8図、第5表)

**位置** (B-4) グリッド。

**検出状況** 1道を切る。815・817D・6・12Pに切られる。9Pと重複する。

**構造** 平面形：長方形。規模：長軸・短軸不明/深さ19cm。壁：丸みをもって立ち上がり、60°程度の角度を持つ。長軸方位：N-72°-W。

**覆土** 6層(14~19層)に分層される。

**遺物** 出土しなかった。

**時期** 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 822号土坑

**遺構** (第9図、第5表)

**位置** (A-4・5) グリッド。

**検出状況** 9W精査時に、同時に掘り下げてしまったため、東半を欠いている。9W・1道を切る。南側は調査区外へ延びる。

**構造** 平面形：溝状の長方形。規模：長軸・短軸不明/深さ50cm。壁：70°~75°程度の角度で直線的に立ち上がる。長軸方位：N-73°-W。

**覆土** 11層(3~13層)に分層される。13層はロームブロックを含み、しまりが非常に強い層

褐色土であり、9Wと重複した箇所の貼床土と思われる。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 823号土坑

[遺構] (第9図、第5表)

[位置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 北側は調査区外へ延びる。1道を切る。

[構造] 平面形：長方形。南側角が丸みを帯びる。規模：長軸不明／短軸0.45m／深さ19cm。壁：80°程度の角度で直線的に立ち上がる。長軸方位：N-28°-E。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 824号土坑

[遺構] (第9図、第5表)

[位置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 1道を切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸0.99m／短軸0.60m／深さ12cm。壁：60°～85°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-29°-E。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 土器1点(皿)が出土した。

[時期] 中世(15世紀後半)。

[遺物] (図版6-2-1、第7表)

[陶器] (図版6-2-1、第7表)

1は土器で皿ある。

### 825号土坑

[遺構] (第8図、第5表)

[位置] (B-3・4) グリッド。

[検出状況] 北側は調査区外へ延びる。1道を切る。820D・8Pと重複する。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸不明／短軸0.49m／深さ17cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-23°-E。

[覆土] 2層(2・3層)に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 826号土坑

**遺構** (第9図、第5表)

[位置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 1道を切る。10・13Pと重複する。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸1.58m/短軸0.63m/深さ35cm。壁：80°程度の角度で立ち上がる。長軸方位：N-65°-W。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 828号土坑

**遺構** (第9図、第5表)

[位置] (B-2・3) グリッド。

[検出状況] 829D・1道を切る。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸1.61m/短軸1.28m/深さ52cm。壁：40°~60°程の角度で若干外側に開きながら立ち上がる。北側の一部で垂直気味に立ち上がる。長軸方位：N-51°-W。

[覆土] A-A'断面では14層、B-B'断面では8層に分層される。

[遺物] 磁器1点、陶器3点、土器3点が出土した。その内、陶器2点(皿・播鉢)、土器2点(皿・焙烙)を図示した。

[時期] 中世(15世紀後半)。

**遺物** (図版6-2-1~4、第7表)

[陶器・土器] (図版6-2-1~4、第7表)

1・2は陶器の皿・播鉢、3・4は土器の皿・焙烙である。

### 829号土坑

**遺構** (第9図、第5表)

[位置] (B-2・3) グリッド。

[検出状況] 1道を切る。828Dに大きく切られる。

[構造] 平面形：楕円形か。規模：長軸・短軸不明/深さ25cm。壁：なだらかに丸みを帯びて立ち上がる。長軸方位：不明。

[覆土] 5層(15~19層)に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 830号土坑

**遺構** (第9図、第5表)

[位置] (B-2) グリッド。

[検出状況] 831・833D・1道を切る。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸0.65m/短軸0.52m/深さ14cm。壁：皿状に緩やかに立ち

上がる。長軸方位：N-6°-W。

〔覆 土〕 3層に分層される。

〔遺 物〕 出土しなかった。中央付近から礫が7点出土した。いずれも上層付近からの出土である。

〔時 期〕 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 831号土坑

〔遺 構〕 (第9図、第5表)

〔位 置〕 (B-2) グリッド。

〔検出状況〕 1道を切る。830Dに切られる。

〔構 造〕 平面形：楕円形。規模：長軸0.96m/短軸0.79m/深さ28cm。壁：緩やかに立ち上がる。

長軸方位：N-29°-E。

〔覆 土〕 4層に分層される。

〔遺 物〕 磁器2点、陶器1点、土器2点、土製品1点、石製品1点、鉄滓1点、礫76点が出土した。その内、磁器1点(碗)、陶器1点(甕)、土製品(羽口)1点、石製品(浮子)1点、鉄滓1点を図示した。浮子は縄文時代の所産と考えられるが、浮子以外の遺物・礫と平面および垂直分布が重なるため、浮子以外の遺物・礫とともに831Dに遺棄・廃棄されたものと考えられる。

〔時 期〕 近世(19世紀前半)。

〔遺 物〕 (第15図1・4、図版6-2-1~5、第7表)

〔陶 磁 器〕 (第15図1、図版6-2-1・2、第7表)

1は磁器で碗である。2は陶器で甕である。

〔土 製 品〕 (図版6-2-3)

3は羽口の破片である。円筒形を呈し、現在長6.4cm・推定径8.0cm・推定中心径2.4cm・重さ83.1gを測る。表面調整は軽いナデが施されるが、指頭圧痕が残る。色調は淡い橙色。僅かに砂粒を含む。

〔石 製 品〕 (第15図4、図版6-2-4)

4は軽石製の浮子である。現存長7.6cm・幅5.0cm・厚さ2.8cm・重さ19.3g。下部を欠損。中央付近に穿孔が1箇所認められる。縄文時代の所産と考えられる。

〔鉄 滓〕 (図版6-2-5)

5は鉄滓である。重さは128gを測る。

### 832号土坑

〔遺 構〕 (第10図、第5表)

〔位 置〕 (B-2) グリッド。

〔検出状況〕 1道を切る。

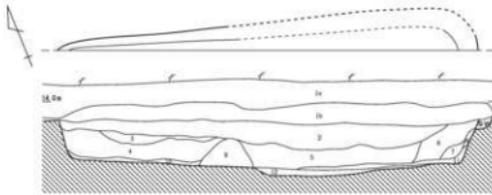
〔構 造〕 平面形：楕円形。規模：長軸0.69m/短軸0.55m/深さ24cm。壁：60°程度の角度で丸みを帯びながら立ち上がる。長軸方位：N-28°-E。

〔覆 土〕 4層に分層される。

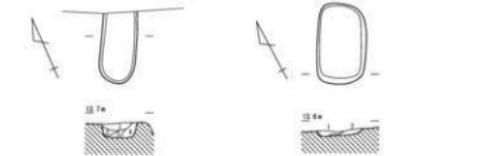
〔遺 物〕 磁器1点、陶器1点が出土したが、小破片のため図版外とした。

〔時 期〕 近世。



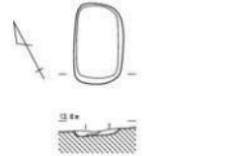


822号土坑



- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を塊かに含む。しまりや中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。しまりや中。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。

823号土坑

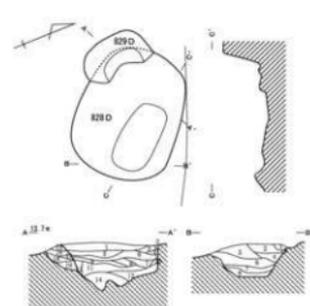


- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや中塊。

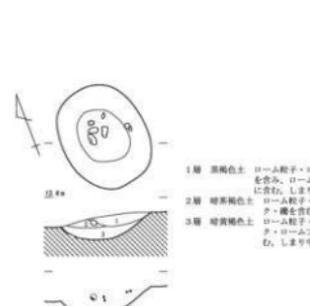
824号土坑

- 14層 黄土
- 15層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを塊かに含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を含む。しまりや中。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを塊かに含む。しまりや中。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子を含む。しまりや中。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 9層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 10層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを塊かに含む。しまりや中。
- 11層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 12層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや中。

826号土坑



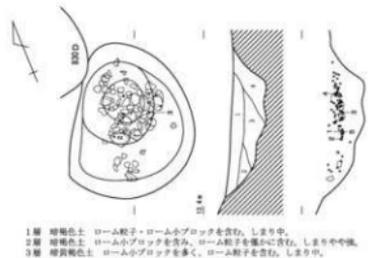
828号土坑・829号土坑



830号土坑

- A-A'
- 828D
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックをやや多く含む。しまりや中。
  - 2層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。しまりや中。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや中。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを塊かに含む。しまりや中。
  - 6層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを塊かに含む。しまりや中。
  - 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
  - 8層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。
  - 9層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊かに含む。しまりや中。
  - 10層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
  - 11層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや中。
  - 12層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
  - 13層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや中。
  - 14層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを塊かに含む。しまりや中。
- 829D
- 15層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを塊かに含む。しまりや中。
  - 16層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。ローム粒子を塊かに含む。しまりや中。
  - 17層 ローム小ブロック。
  - 18層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
  - 19層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを塊かに含む。しまりや中。
- 829-828D
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを中や多く、ロームブロックを塊かに含む。しまりや中。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを中や多く、ローム小ブロックを塊かに含む。しまりや中。
  - 3層 ローム小ブロック。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを中や多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまりや中。
  - 6層 暗褐色土 ローム小ブロックを中や多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。
  - 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを中や多く含む。しまりや中。
  - 8層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを中や多く含む。ローム小ブロックを含む。しまりや中。

826号土坑



831号土坑

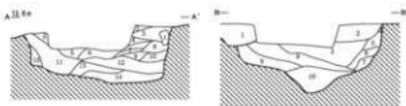
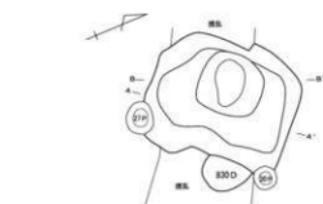
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。ローム粒子を塊かに含む。しまりや中。
- 3層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまりや中。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。

第9図 土坑2 (1/60・1/30)

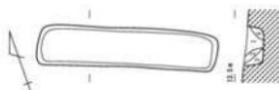


- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。ローム小ブロックを横断に含む。しまりやや強。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
- 3層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。

832号土坑



- A-A'
- 1層 黄土
  - 2層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや強。
  - 3層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。ロームブロックを含む。しまりやや強。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
  - 6層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
  - 7層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
  - 8層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
  - 9層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
  - 10層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。ロームブロックを横断に含む。しまり中。
  - 11層 暗褐色土 ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子を含む。ロームブロックを横断に含む。しまり中。
  - 12層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
  - 13層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
  - 14層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
  - 15層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。

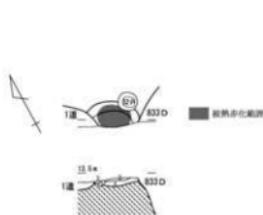


- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を含む。しまり中。
- 3層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを横断に含む。しまり強。
- 4層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。

834号土坑

- B-B'
- 1層 1号遺跡状遺構の層上。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
  - 4層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまりやや強。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
  - 6層 暗茶褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを横断に含む。しまり中。
  - 7層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。ローム小ブロック・ロームブロックを横断に含む。しまりやや強。
  - 8層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを横断に含む。しまり中。
  - 9層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

833号土坑



- 1層 黄土
- 2層 暗茶褐色土 黄土粒子・黄土小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
- 3層 暗茶褐色土 ローム粒子を多量に含む。ローム小ブロック・黄土粒子・黄土小ブロックを横断に含む。しまりやや強。
- 4層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、黄土粒子・黄土小ブロックを含む。しまりやや強。

835号土坑



- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを横断に含む。しまり非常に強。
- 2層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり非常に強。
- 3層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり強。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを横断に含む。しまり強。
- 8層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり強。
- 9層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

836号土坑



第10図 土坑3 (1/60)

## 833号土坑

**遺構** (第10図、第5表)

[位置] (B-2) グリッド。

[検出状況] 835 Dを切る。830 D・1道に切られる。27・30 Pと重複する。

[構造] 平面形：不整形。規模：長軸1.82 m / 短軸1.56 m / 深さ70 cm。壁：60°～80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-46°-E。

[覆土] A-A'断面で14層(2～15層)、B-B'断面で9層(2～10層)に分層される。

[遺物] 陶器3点(碗・徳利・播鉢)、瓦1点、鉄滓1点が出土した。

[時期] 中世(14世紀か)。

**遺物** (第15図1、図版6-2-1～5、第7表)

[陶器] (第15図1、図版6-2-1～3、第7表)

1は碗、2は徳利、3は播鉢である。

[土製品] (図版6-2-4)

4は羽口の小破片と思われる。現存長4.0 cm・幅3.1 cm・厚さ1.0 cm・重さ11.4 g。色調は灰色。

[鉄滓] (図版6-2-5)

5は鉄滓である。重さは53.3 gを測る。

## 834号土坑

**遺構** (第10図、第5表)

[位置] (A-1) グリッド。

[検出状況] 1道を切る。

[構造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸2.16 m / 短軸0.51 m / 深さ35 cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-67°-W。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 陶器1(播鉢)が出土した。

[時期] 中世(15世紀)。

**遺物** (図版6-2-1、第7表)

[陶器] (図版6-2-1、第7表)

1は播鉢である。

## 835号土坑

**遺構** (第10図、第5表)

[位置] (B-2) グリッド。

[検出状況] 833 D・1道・32 Pに切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸・短軸不明 / 深さ11 cm。壁：皿状に立ち上がる。長軸方位：不明。その他：焼土面が中央に広がる。

[覆土] 3層(2～4層)に分層される。2層は焼土粒子、焼土小ブロックを多く含む層で、上面に薄く堆積している。

土坑番号	位置	平面形	規模 (m)			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長さ	幅	深さ				
813D-A	(A-6)G	溝状土坑	不明	0.68	0.49	N-69°-W	5層(第8段)/813D-Bを切り、1・2Pに切られる	磁器1点(碗)・土製品1点(素焼人形)	近世 (18c中～19c前半)
813D-B	(A-6)G	溝状土坑	不明	不明	0.35	不明	2層(第8段)/813D-A・2Pに切られ、818Dと重複する		
814D-A	(A-6)G	溝状土坑	不明	0.59	0.44	N-67°-W	4層(第8段)/814D-Bを切り、4Pに切られる	土器1点(皿)は小破片のため図版外	中世以降
814D-B	(A-6)G	溝状土坑	不明	不明	0.35	不明	単層(第8段)/814D-Aに切られ、818Dと重複する		
815D-A	(B-4)G	長方形	不明	0.81	0.52	N-22°-E	7層(第8段)/815D-Bを切り、817Dに切られる	なし	中世以降
815D-B	(B-4)G	長方形	不明	不明	0.30	不明	4層(第8段)/821Dを切り、815D-A・6Pに切られる		
816D	(B-4)G	長方形	1.55	0.62	0.47	N-67°-W	5層(第8段)/817D・9Wを切る	陶器1点(徳利)	近世 (18c中)
817D	(B-4)G	溝状土坑	不明	0.58	0.36	N-67°-W	8層(第8段)/815・821D・9W・1道を切り、816Dに切られる	なし	中世以降
818D	(A-6)G	長方形	不明	不明	0.24	N-67°-W	2層(第8段)/2・3Pに切られ、813D-B・814D-Bと重複する	なし	中世以降
819D	(B-3・4)G	長方形	1.83	0.58	0.27	N-68°-W	5層(第8段)/1道を切り、820D・12Pに切られる	なし	中世以降
820D	(B-3・4)G	長方形	不明	0.82	0.17	N-15°-E	6層(第8段)/819D・1道を切り、825D・8Pと重複する	なし	中世以降
821D	(B-4)G	長方形	不明	不明	0.19	N-72°-W	6層(第8段)/1道を切り、815・817D・6・12Pに切られ、9Pと重複する	なし	中世以降
822D	(A-4・5)G	溝状土坑	不明	不明	0.50	N-73°-W	11層(第9段)/9W・1道を切る	なし	中世以降
823D	(B-3)G	長方形	不明	0.45	0.19	N-28°-E	4層(第9段)/1道を切る	なし	中世以降
824D	(B-3)G	長方形	0.99	0.60	0.12	N-29°-E	2層(第9段)/1道を切る	土器1点(皿)	中世 (15c後半)
825D	(B-3・4)G	長方形	不明	0.49	0.17	N-23°-E	2層(第8段)/1道を切り、820D・8Pと重複する	なし	中世以降
826D	(B-3)G	長方形	1.58	0.63	0.35	N-65°-W	4層(第9段)/1道を切り、10・13Pと重複する	なし	中世以降
828D	(B-2・3)G	楕円形	1.61	1.28	0.52	N-51°-W	A-A'断面14層・B-B'断面8層(第9段)/829D・1道を切る	陶器2点(皿・播鉢)・土器2点(皿・踏踏)	中世 (15c後半)
829D	(B-2・3)G	楕円形	不明	不明	0.25	不明	5層(第9段)/1道を切り、828Dに切られる	なし	中世以降
830D	(B-2)G	楕円形	0.65	0.52	0.14	N-6°-W	3層(第9段)/831・833D・1道を切る	なし	中世以降
831D	(B-2)G	楕円形	0.96	0.79	0.28	N-29°-E	4層(第9段)/1道を切り、830Dに切られる	磁器1点(碗)・陶器1点(甕)・土製品1点(羽口)・石製品1点(浮子)・鉄滓1点	近世 (19c前半か)
832D	(B-2)G	楕円形	0.69	0.55	0.24	N-28°-E	4層(第10段)/1道を切る	磁器1点・陶器1点(小破片のため図版外)	近世
833D	(B-2)G	不整形	1.82	1.56	0.70	N-46°-E	A-A'断面14層・B-B'断面9層(第10段)/835Dを切り、830D・1道に切られ、27・30Pと重複する	陶器3点(碗・甕・播鉢)・羽口1点・鉄滓1点	中世 (14cか)
834D	(A-1)G	溝状土坑	2.16	0.51	0.35	N-67°-W	4層(第10段)/1道を切る	陶器1点(播鉢)	中世 (15c)
835D	(B-2)G	楕円形	不明	不明	0.11	不明	3層(第10段)/833D・1道・32Pに切られる	なし	中世以降
836D	(A・B-2)G	長方形	0.9	0.66	0.29	N-42°-W	9層(第10段)/1道に切られる	なし	中世以降

第5表 中世以降の土坑一覧

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 836号土坑

**遺構** (第10図、第5表)

[位置] (A・B-2) グリッド。

[検出状況] 1道の硬化面の下から検出された。1道に切られる。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸0.9m/短軸0.66m/深さ29cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

長軸方位：N-42°-W。

[覆土] 9層に分層される。1・2層はしまりが非常に強く、1道の硬化面の一部と思われる。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

## (3) 井戸跡

### 9号井戸跡

**遺構** (第11図)

[位置] (A・B-4・5) グリッド。西側で1道と接する。

[検出状況] 816D・817D・822Dに切られる。北～北東側、東側一部を損乱で破壊される。

[構造] 平面形：不整形の円形と思われる。井戸跡本体の開口部は円形を呈する。井戸跡本体の北東側に平場面が認められる。平場面は井戸跡本体に沿うように構築されており、逆「L」字状を呈する。

規模：長軸3.74m、短軸不明。深さ170cm程度まで精査を行ったが、危険を伴うため途中で精査を断念した。平場面の幅は75cm程度である。壁：井戸跡本体は漏斗状に大きく広がり、50°～80°程度の角度で立ち上がる。平場面は60°～75°の角度で直線的に立ち上がる。その他：平場面の底面は東から西に向かって約5°傾斜しており、西側で一部階段状を呈する。足掛穴は確認できなかった。

[遺物] 磁器1点、陶器5点、土器2点、瓦1点、板碑1点が出土した。その内、磁器1点(碗)・陶器4点(播鉢3点・甕1点)、板碑1点を図示した。

[時期] 中世(14世紀～15世紀中頃)。

**遺物** (第16図1・6、図版6-3、第7表)

[陶磁器] (第16図1、図版6-3-1～5、第7表)

1は磁器で碗である。2～5は陶器で、2～4は播鉢、5は甕である。

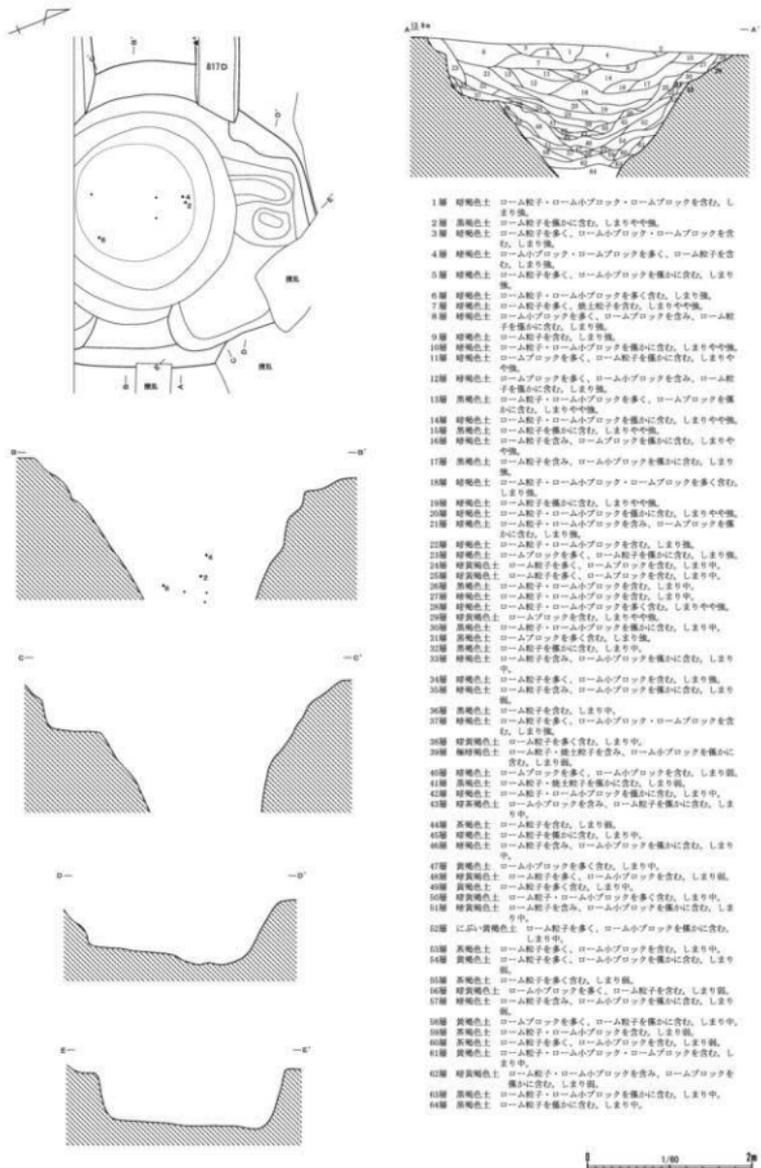
[板碑] (第16図6、図版6-3-6)

6は板碑の破片と思われる。現存長15.0cm・幅9.3cm・厚さ1.8cm・重さ331g。表面には蓮台の下部から紀年銘の一部が確認できる。紀年銘は「正長二」とあるので、年代は正長2年(1429年)と考えられる。覆土中からの出土である。

## (4) 道路状遺構

### 1号道路状遺構

**遺構** (第12・13図)



第11図 9号井戸跡(1/60)



<b>E-E'</b>	
1層	暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む、ローム粒子を含む。しりり肌。
2層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり肌。
3層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり肌。
4層	暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む、ローム粒子を含む。しりり肌や砂肌。
5層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを塊状に含む。しりり肌。
6層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを多く含む。しりり肌。
7層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを含む。しりり肌。
8層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しりり肌。
9層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しりり肌。
10層	暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む、ローム粒子を含む。しりり肌や砂肌。
11層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを塊状に含む。しりり肌。
12層	ロームブロック
13層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しりり肌。
14層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しりり肌。
<b>F-F'</b>	
1層	褐色土
2層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ロームブロックを含む。しりり肌。
3層	暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含む。しりり肌。
4層	暗褐色土 ローム粒子を含む。しりり肌。
5層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
6層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しりり肌。
7層	暗褐色土 ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しりり肌。
8層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しりり肌。

<b>G-G'</b>	
1層	褐色土
2層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しりり中や砂肌。
3層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・塊状粒子を塊状に含む。しりり中や砂肌。
4層	暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を塊状に含む。しりり中や砂肌。
5層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
6層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しりり中や砂肌。
7層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中や砂肌。
8層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
9層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。

<b>H-H'</b>	
1層	暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む、ローム粒子・ロームブロックを含む。しりり肌。
2層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
3層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
4層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しりり肌。
5層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しりり肌。
6層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しりり中や砂肌。
7層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。砂肌。
8層	ロームブロック
9層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しりり中や砂肌。
10層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中や砂肌。
11層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを塊状に含む。しりり中。
12層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを含む。しりり中。
13層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しりり中。
14層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを塊状に含む。しりり中。
15層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを塊状に含む。しりり肌。

<b>I-I'</b>	
1層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを塊状に含む。しりり肌や砂肌。
2層	暗褐色土 ローム粒子を含む。しりり肌。
3層	暗褐色土 ローム粒子を塊状に含む。しりり肌。
4層	暗褐色土 ローム小ブロックを含む。しりり肌。
5層	暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む、ローム粒子・ロームブロックを塊状に含む。しりり肌や砂肌。
6層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しりり中。
7層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
8層	暗褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子を塊状に含む。しりり中や砂肌。
9層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを多く含む。しりり肌。
10層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを塊状に含む。しりり肌。
11層	暗褐色土 ローム粒子を多く含む、ローム小ブロックを含む。しりり中や砂肌。
12層	暗褐色土 ローム粒子を塊状に含む。しりり中。
13層	暗褐色土 ローム小ブロックを含む。しりり肌や砂肌。
14層	暗褐色土 ローム粒子を塊状に含む。しりり中。
15層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しりり中や砂肌。
16層	暗褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子を塊状に含む。しりり中。
17層	暗褐色土 ローム小ブロックを含む。しりり中。
18層	暗褐色土 ロームブロックを含む、ローム粒子を塊状に含む。しりり肌。
19層	暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しりり肌や砂肌。
20層	暗褐色土 ローム粒子を塊状に含む。しりり肌。
21層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを塊状に含む。しりり肌。
22層	暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しりり肌。
23層	暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しりり肌。
24層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり肌。
25層	暗褐色土 ロームブロックを含む。しりり肌。
26層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり肌や砂肌。
27層	暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しりり肌や砂肌。

<b>J-J'</b>	
1層	暗褐色土 ローム小ブロック・ロームブロックを多く、ローム粒子を多く含む。しりり肌。
2層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを塊状に含む。しりり中。
3層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを塊状に含む。しりり中。
4層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを含む。しりり中。
5層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しりり肌。
6層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
7層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中や砂肌。
8層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中や砂肌。
9層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中や砂肌。

<b>K-K'</b>	
1層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり肌。
2層	ロームブロック
3層	暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む、ローム粒子を含む。しりり肌。
4層	褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
5層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しりり肌。
6層	暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む、ローム小ブロックを含む。しりり中。

第13図 1号道路状遺構2

[位置] (A・B-1~4) グリッド。

[検出状況] 817・819~826・828~832・834 Dに切られる。833・835・836 Dを切る。東側で9 Wと接する。東西にかけて掘乱を受ける。西側は調査区外へ延びる。

[構造] 路面：1面を確認。(A・B-1~4) グリッドで、硬化面が東西方向に延びる。特に(B-1)グリッドで非常に硬く締まる面(超硬化面)が検出された。硬化面上面は東から西に緩やかに傾斜する。平面形：確認できた範囲では、東西方向でほぼ直線であり、9 Wと接する付近で南へ屈曲する。規模：検出長は15.78mで、西側調査区外へ延びる。検出幅は調査区西端で3.70m以上。走行方位：N-66°-W。掘り方：東西方向に直線的に延び、9 Wと接する付近で南へ屈曲する。(A・B-1)グリッドでは西側へ下る階段状を呈する。断面形は逆台形を呈する。(A・B-3)グリッド、(A・B-1・2)グリッドで土坑状の凹凸が認められる。検出幅は(A・B-2)グリッド付近で3.20m、(A・B-3)グリッド付近で3.27m、(A・B-4)グリッド付近で2.16mを測る。

[遺物] 磁器10点、陶器14点、土器7点、瓦1点、金属製品2点、板碑1点が出土した。その内、

磁器3点(小瓶1点・鉢2点)、陶器5点(碗・德利・甕・鉢)、土器1点(焙烙)、瓦1点、金属製品2点(釘・キセル吸口)、板碑1点を図示した。

[時期] 中世～近世(14世紀～19世紀中)。

[遺物] (第17図1・10・11、図版7-1、第7表)

[陶磁器・土器] (第17図1、図版7-1-1～9、第7表)

1～3は磁器、4～8は陶器、9は土器である。

[金属製品] (第17図10・11、図版7-1-10・11)

10は鉄製品で釘である。現存長3.8cm・幅0.8cm・厚さ0.7cm・重さ4.0g。下部を欠損する。断面は四角形。下端部から鉄線が突出している。

11は銅製品でキセルの吸口である。現在長2.5cm・径0.9cm・重さ1.7g。両端を欠損する。

[瓦] (図版7-1-12)

12は瓦である。現存長4.5cm・幅4.3cm・厚さ1.3cm・重さ28.8g。外面の色調は白灰色である。

[板碑] (図版7-1-13)

13は板碑の小破片と思われる。現存長7.8cm・幅5.4cm・厚さ1.0cm・重さ71.5g。銘はなかった。

#### (5) ピット (第14・18図、図版7-2-1・2・第7表)

今回調査したピットは34本(1～34P)で、すべて中世以降の所産と考えられる。ここでは、遺物が出土した10・11Pについて詳述する。なお、ピットの基本内容については第6表に示した。

##### 10号ピット

[遺構] (第14図)

[位置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 826D・1道と重複する。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸35cm/短軸33cm/深さ22cm。

[覆土] 6層に分層された。

[遺物] 石製品1点(砥石)が出土した。

[時期] 中世以降。

[遺物] (第18図1、図版7-2-1)

[石製品] (第18図1、図版7-2-1)

1は凝灰岩製の砥石である。長さ7.3cm・幅2.9cm・厚さ2.2cm・重さ49.8g。下端部を欠損。使用面は正面の1面のみである。裏面、左右側面には成形時の加工痕が認められる。覆土中からの出土。

##### 11号ピット

[遺構] (第14図)

[位置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 1道に切れ、22Pと重複する。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸112cm/短軸62cm/深さ71cm。

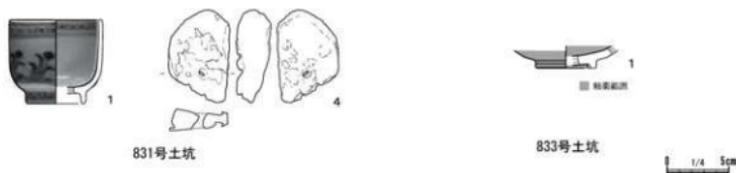
[覆土] 12層に分層された。

[遺物] 陶器1点(德利)、瓦1点が出土した。



遺構名	位置	平面形	規模(m)			覆土及び特徴	主な遺物	時期	
			長軸	短軸	深さ				
1 P	(A-6)G	不明	不明	不明	16	3層/813Dを切る	なし	中世以降	
2 P	(A-6)G	不明	不明	不明	11	5層/813D・A・B・818Dを切る	なし	中世以降	
3 P	(A-6)G	不明	不明	不明	13	3層/818Dを切る	なし	中世以降	
4 P	(A-6)G	楕円形	52	29	62	5層/814D-Aを切る	なし	中世以降	
5 P	(B-6)G	円形	33	32	25	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒色土	なし	中世以降	
6 P	(B-4)G	楕円形	41	31	41	5層/815D・B・821Dを切り、1道と重複する	なし	中世以降	
7 P	(A-4)G	楕円形	41	29	12	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土/1道と重複する	なし	中世以降	
8 P	(B-3・4)G	不整形	43	34	21	単層/ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土/820・825Dと重複する	なし	中世以降	
9 P	(B-4)G	円形	34	32	69	4層/821D・1道と重複する	なし	中世以降	
10 P	(B-3)G	円形	35	33	22	6層/826D・1道と重複する	石製品(磁石1点)	中世以降	
11 P	(B-3)G	楕円形	112	62	71	12層/1道に切られ、22Pと重複する	陶器1点(徳利)・瓦1点	近世(17c後半)	
12 P	(B-4)G	隅丸方形	30	29	42	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土/820・821Dを切り、1道と重複する	なし	中世以降	
13 P	(A・B-3)G	楕円形	35	32	36	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒色土/826D・1道と重複する	なし	中世以降	
14 P-A	(A・B-5)G	隅丸方形	35	31	43	7層(土層の観察から14P・B・Cと同時に埋没した可能性)/17Pと重複する	なし	中世以降	
14 P-B	(B-5)G	楕円形	36	31	43	7層(土層の観察から14P・A・Cと同時に埋没した可能性)	なし	中世以降	
14 P-C	(B-5)G	楕円形	37	不明	35	7層(土層の観察から14P・A・Bと同時に埋没した可能性)	なし	中世以降	
15 P	(A-5)G	隅丸方形	30	28	30	2層	なし	中世以降	
16 P	(A-5)G	不明	55	不明	32	4層/焼土粒子を多く、ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	なし	中世以降	
17 P	(A-5)G	隅丸方形	31	30	39	2層/ローム粒子を多く、ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/14P-Aと重複する	なし	中世以降	
18 P	(B-5)G	楕円形	46	36	21	4層/19Pを切る	なし	中世以降	
19 P	(B-5)G	不明	不明	不明	17	3層/20Pを切り、18Pに切られる	なし	中世以降	
20 P	(B-5)G	円形	27	23	22	単層/ローム粒子を僅かに含む暗褐色土/19・21Pに切られる	なし	中世以降	
21 P	(B-5)G	楕円形	不明	33	37	単層/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/20Pを切る	なし	中世以降	
22 P	(B-3)G	隅丸方形	38	33	44	単層/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐色土/1道・11Pと重複する	なし	中世以降	
23 P	(A・B-2)G	楕円形	37	32	41	7層/1道と重複する	なし	中世以降	
24 P	(B-3)G	楕円形	51	39	30	5層/1道に切られる	なし	中世以降	
25 P	(B-2)G	楕円形	95	57	44	7層/1道を切る	なし	中世以降	
26 P	(B-2)G	楕円形	31	不明	20	単層/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土	なし	中世以降	
27 P	(B-2)G	楕円形	40	34	40	2層/ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/1道に切られ、833Dと重複する	なし	中世以降	
28 P	(B-2)G	隅丸方形	62	43	29	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土/29Pを切り、1道と重複する	なし	中世以降	
29 P	(B-2)G	隅丸方形	58	不明	10	単層/ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含むにぶい暗褐色土/28Pに切られ、1道と重複する	なし	中世以降	
30 P	(B-2)G	円形	28	28	77	単層/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含むにぶい暗褐色土/833D・1道と重複する	なし	中世以降	
31 P	(B-2)G	隅丸方形	32	24	23	単層/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含むにぶい暗褐色土/1道と重複する	なし	中世以降	
32 P	(B-2)G	円形	23	22	20	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/835Dを切る	なし	中世以降	
33 P	(B-1)G	不明	不明	不明	32	28	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/1道と重複する	なし	中世以降
34 P	(B-1)G	楕円形	41	35	44	4層/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/1道を切る	なし	中世以降	

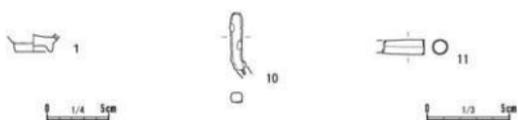
第6表 ビット一覧



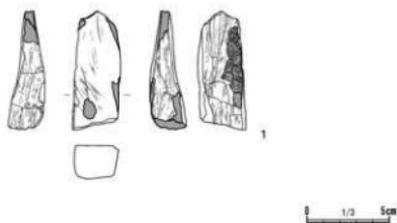
第15図 土坑出土遺物(1/4)



第16図 9号井戸跡出土遺物(1/4)



第17図 1号道路状遺構出土遺物(1/4・1/3)



第18図 10号ピット出土遺物(1/3)

探検番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版6-2-1	813 D	磁器	碗	厚 0.3	染付/蒸熟/内面:雷文、外面:斜め格子文/口縁部~ 体部破片/覆土中からの出土	肥前系	近世 (15c前半)
図版6-2-2	816 D	陶器	德利	厚 0.7	灰釉/上手/胎土の色調は灰白色/胎土は精錬されて いる/胴部破片/西端口底上からの出土	瀬戸	近世 (18c中)
図版6-2-1	824 D	土器	皿	高 [1.7]	ロクロ製品/外面底部に回転糸切り痕/色調は暗褐色/ 胎土に茶褐色粒子・砂粒を僅かに含む/底部小破片/覆 土中からの出土	在地系	中世 (15c後半)
図版6-2-1	828 D	陶器	皿	厚 0.6	灰釉皿/胎土の色調は淡黄褐色/胎土は精錬されて いる/口縁部~体部小破片/覆土中からの出土	瀬戸	中世 (15c後半)
図版6-2-2	828 D	陶器	鉢鉢	厚 1.1	内外面に鉄軸/胎土の色調は暗黄褐色/胎土は精錬され ている/胴部下半小破片/覆土中からの出土	瀬戸	中世 (15c後半)
図版6-2-3	828 D	土器	皿	高 1.8	ロクロ製品/小型皿/口縁部は僅かに内湾する/胎土 の色調は淡黄褐色/胎土に茶褐色粒子を僅かに含む/口縁 部~底部の小破片/覆土中からの出土	在地系	中世 (15c後半)
図版6-2-4	828 D	土器	焙烙	厚 0.7	平底/色調は明茶褐色/胎土に白色砂粒・角閃石を含む 含む/内面に煤状の付着物あり/内面はナデ/底部小破 片	在地系	近世 (18c)
第15図1 図版6-2-1	831 D	磁器	碗	高 6.9 口 (7.6) 底 (4.8)	染付/高台あり/内面:口縁部は蓮頭文、外面:草花文 /遺存度は40%/覆土中(坑底上14cm)からの出土	肥前系	近世 (19前半)
図版6-2-2	831 D	陶器	甕	厚 1.4	大甕/外面に鉄軸/色調は明茶褐色/胎土に白色砂粒・ 砂粒をやや多く含む/胴部破片/覆土中(坑底上12cm) からの出土	常滑	近世か
第15図1 図版6-2-1	833 D	陶器	碗	高 [1.8] 底 (5.0)	高台あり/内面:灰釉、外面:鉄軸/胎土の色調は灰白 色/胎土は精錬されている/底部付近の破片/重ね焼き 痕あり/覆土中からの出土	瀬戸・美濃	近世か
図版6-2-2	833 D	陶器	甕	厚 0.8	三折/外面に灰釉/胎土の色調は灰白色/胎土は精錬さ れている/外面に印き目あり/内面はナデ/胴部破片/ 覆土中からの出土	瀬戸	中世 (14c前半)
図版6-2-3	833 D	陶器	鉢鉢	厚 0.7	内外面に鉄軸/胎土の色調は黄白色/胎土に砂粒を僅か に含む/体部小破片/覆土中からの出土	瀬戸	中世 (14c後半)
図版6-2-1	834 D	陶器	鉢鉢	厚 0.8	受口状口縁/内外面に鉄軸/胎土の色調は淡黄褐色/胎 土は精錬されている/口縁破片/覆土中からの出土	瀬戸・美濃	中世 (15c)
第16図1 図版6-3-1	9W	磁器	碗	高 [1.8] 底 (5.0)	染付/高台あり/外面:体部に植物文、高台に二重圓線 /体部下半から底部破片/覆土中からの出土	肥前系	近世 (18c後半)
図版6-3-2	9W	陶器	鉢鉢	高 [3.2]	受口状口縁/内外面に鉄軸/胎土の色調は黄褐色/胎土 に砂粒を僅かに含む/口縁部破片/覆土中からの出土	瀬戸	中世 (15c中)
図版6-3-3	9W	陶器	鉢鉢	厚 0.9	内外面に鉄軸/胎土の色調は暗黄褐色/胎土に砂粒を 僅かに含む/胴部破片/覆土中からの出土	瀬戸	中世 (14c)
図版6-3-4	9W	陶器	鉢鉢	高 [5.3]	内外面に鉄軸/胎土の色調は暗黄褐色/胎土は精錬され ている/体部下半~底部破片/覆土中からの出土	瀬戸	中世 (15c中)
図版6-3-5	9W	陶器	甕	厚 1.0	内外面に鉄軸/胎土の色調は明茶褐色/胎土に白色砂粒 を含む/胴部破片/覆土中からの出土	常滑	中世
第17図1 図版7-1-1	1道	磁器	碗	高 [1.5] 底 2.9	白磁/高台あり/内外面に透明釉/色調は白色/胎土は 精錬されている/体部下半~底部の破片/(B-1)Gから の出土	中国製	中世 (14c)
図版7-1-2	1道	磁器	筒碗	高 [5.0]	染付/内面:口縁部に雷文、外面:松と椿葉/口縁部~ 体部破片/(B-1)Gからの出土	肥前系	近世 (19c中)
図版7-1-3	1道	磁器	筒碗	厚 0.3	染付/外面:宝篋文/口縁部~体部小破片/(B-1)G からの出土	肥前系	近世 (18c後半)
図版7-1-4	1道	陶器	碗	厚 0.3	腰折形/内外面に鉄軸/胎土の色調は灰色/胎土に白色 砂粒を僅かに含む/口縁部~体部小破片/(B-2)Gから の出土	瀬戸	近世 (18c)
図版7-1-5	1道	陶器	碗	厚 0.7	外面底部を除き緑釉/胎土の色調は黄白色/胎土は精錬 されている/体部下半破片/(B-2)Gからの出土	唐津	近世 (17c中)
図版7-1-6	1道	陶器	德利	高 [4.3]	複合口縁/外面及び内面口縁部に鉄軸/胎土の色調は黄 白色/胎土に白色砂粒を僅かに含む/口縁部~胴部破片 /(B-1)Gの超硬化面下からの出土	瀬戸・美濃	近世 (18c後半)

第7表 中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧(1)

標記番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版7-1-7	1道	陶器	壺	高 [3.7]	筒筒形/茶壺か/鉄軸。内部は薄い/胎土の色調は灰褐色/胎土は精練されている/頸部~胴部破片/ (B-2)Gからの出土	中国製か	中世
図版7-1-8	1道	陶器	鉢	厚 0.6	三島手/胎土の色調は暗茶褐色/胎土に白色砂粒を僅かに含むが精練されている/体部小破片/ (B-3)Gからの出土	唐津	中世 (15c)
図版7-1-9	1道	土器	焙烙	厚 0.6	平底/色調は暗黄褐色を基調/胎土に雲母・角閃石・砂粒を含む/底部破片/ (A-2)Gからの出土	在地系	近世
図版7-2-1	11 P	陶器	徳利	厚 0.4	薄手/内外面に透明釉/胎土の色調は淡茶褐色/胎土に白色砂粒・黒色粒子を含む/体部小破片/覆土中からの出土	瀬戸・美濃	近世 (17c後半)

第7表 中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧(2)

[時期] 近世(17世紀後半)。

[遺物] (図版7-2-1・2、第7表)

[陶器] (図版7-2-1、第7表)

1の陶器は徳利の胴部破片である。時期は近世(17世紀後半)である。

[瓦] (図版7-2-2)

2は瓦である。現存長4.2cm・現存幅4.1cm・厚さ2.1cm・重さ32.5gである。色調は灰色。

## 第6節 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の遺物、弥生時代後期～古墳時代前期の土器に分類する。

### (1) 縄文時代の遺物(第19図1～25、図版7-3-1～25、第8・9表)

[石器] (第19図1～3、図版7-3-1～3、第8表)

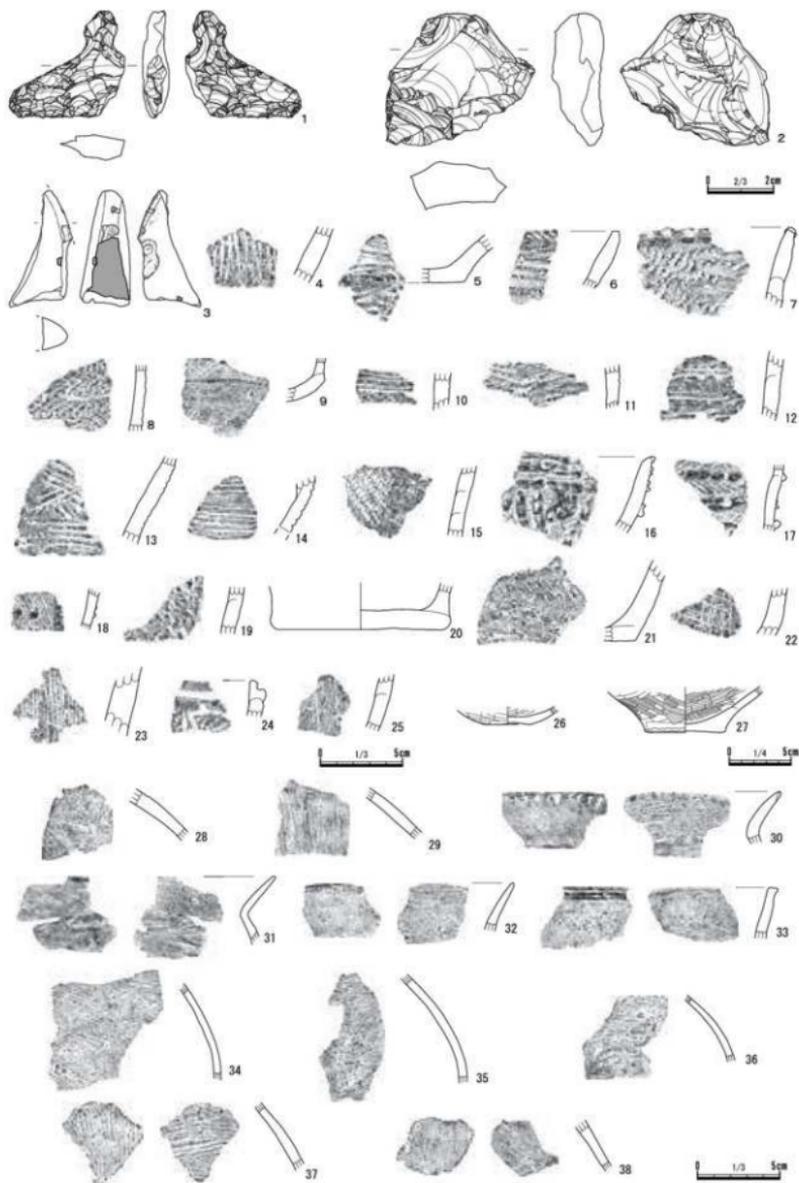
1は横型の石匙である。2は二次加工のある剥片である。3は石皿の破片である。

[土器] (第19図4～25、図版7-3-4～25、第9表)

4～6は早期後葉の条痕文系土器である。7～21は前期の土器である。7・8は前期中葉の関山式土器である。9～21は前期後葉の土器である。そのうち9～15は諸磯b式、16～18は諸磯c式、19は浮島・興津式と考えられる。20・21については型式の比定に至っていない。22は中期初頭の五領ヶ台式土器である。23は中期後葉の加曾利EⅢ～Ⅳ式と思われる。24・25は後期前葉の堀之内式土器である。

### (2) 弥生時代後期～古墳時代前期の土器(第19図26～38、図版7-3-26～38)

26・28・29は壺形土器、27・30～38は甕形土器である。



第19図 遺構外出土遺物 (2/3・1/3・1/4)

探洞番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土遺構
第19図1 図版7-3-1	石匙	チャート	33.1	35.4	8.4	7.1	右側縁を折損/横型で三角形を呈する/両面加工が施される/上部両側縁に抉りを有し、つまみ部を形成/刃部は直線的	9W
第19図2 図版7-3-2	二次加工のある剥片	チャート	40.6	45.4	15.8	26.6	完形/表面左側縁に連続する微細刻離あり/裏面末端部に二次加工刻離あり	9W
第19図3 図版7-3-3	石皿	花崗岩	7.2	3.1	3.0	57.8	縁辺部の一部が残存。大部分を欠損/縁辺部に敲打痕、復打による刻離面あり	816 D

(単位: m, g)

第8表 遺構外出土石器一覧

探洞番号 図版番号	器種 類別	部位	法量 (m)	器形・形態	文様・特徴	胎土	削型 式	出土遺構 位置
第19図4 図版7-3-4	深鉢	胴	厚1.1	外傾	縦面に貝殻条痕文/色調は赤茶褐色	石英・砂粒・繊維を含む	縄文早期末葉(条痕文系)	11 P
第19図5 図版7-3-5	深鉢	底~胴	厚(底部)0.8	平底/胴部は外傾し、僅かに外反する	横面に貝殻条痕文/色調は淡い褐色	石英・砂粒を含む	縄文早期末葉(条痕文系)	1道
第19図6 図版7-3-6	深鉢	口縁	厚0.7	外傾	口縁部に斜位の刻み/横面に条痕文/色調は淡褐色	砂粒・白色粒子を含む	縄文早期末葉(条痕文系)	9W
第19図7 図版7-3-7	深鉢	口縁	厚1.0	口縁部付近で僅かに外反する/やや外傾	口縁部に押印による刻み/口縁部に指頭押捺成形痕/Lr無節縄文/色調は淡褐色	石英・砂粒を含む	縄文前期中葉(陶山式)	9W 掘丸
第19図8 図版7-3-8	深鉢	胴	厚0.6	僅かに外傾	上段にLR単節斜縄文、下段にRL単節斜縄文を施す羽状縄文/色調は淡褐色	砂粒・繊維を含む	縄文前期中葉(陶山式)	11 P
第19図9 図版7-3-9	浅鉢	底	厚0.8	底部はやや丸みを帯びる	平載竹管状工具による沈線文/色調は淡い褐色	砂粒を含み、白色針状物質、片岩を僅かに含む	縄文前期後葉(諸磯b式)	確認調査 トレンチ
第19図10 図版7-3-10	深鉢	胴	厚1.0	ほぼ垂直に立ち上がる	地文にRL単節斜縄文/平載竹管状工具による横位沈線文/色調は淡黄褐色	砂粒・石英・角閃石を含む	縄文前期後葉(諸磯b式)	9W 掘丸
第19図11 図版7-3-11	深鉢	胴	厚0.8	ほぼ垂直に立ち上がる	竹管状工具による横位沈線文/色調は赤褐色	石英・砂粒を含み、片岩を多く含む	縄文前期後葉(諸磯b式)	9W
第19図12 図版7-3-12	深鉢	胴	厚0.9	ほぼ垂直に立ち上がる	竹管状工具による横位沈線文/色調は暗褐色	石英・砂粒・片岩を含む	縄文前期後葉(諸磯b式)	掘丸
第19図13 図版7-3-13	深鉢	胴	厚1.0	外傾し、僅かに外反する	竹管状工具による横位・斜位沈線文/色調は淡い暗褐色	角閃石・砂粒を含み、石英・片岩を多く含む	縄文前期後葉(諸磯b式)	828 D
第19図14 図版7-3-14	深鉢	胴	厚0.7	外傾し、屈曲する	竹管状工具による横位沈線文/色調は淡い茶褐色	雲母・砂粒を含む	縄文前期後葉(諸磯b式)	11 P
第19図15 図版7-3-15	深鉢	胴	厚0.8	僅かに外傾	地文にRL単節斜縄文/色調は淡い褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文前期後葉(諸磯b式)	824 D
第19図16 図版7-3-16	深鉢	口縁	厚0.8	外傾/僅かに内湾する	地文に横位・縦位の平行沈線文/結節浮線文/色調は褐色	石英・砂粒を含む	縄文前期後葉(諸磯c式)	9W
第19図17 図版7-3-17	深鉢	胴	厚0.6	僅かに外傾	地文にRL単節斜縄文/結節浮線文/色調は赤褐色	石英・片岩・雲母・角閃石・砂粒を含む	縄文前期後葉(諸磯c式)	814 D
第19図18 図版7-3-18	深鉢	胴	厚0.6	僅かに外傾	地文に斜位の集合沈線文/円形の瘤状貼付文/貼付文上下両面に平載竹管状工具による刺突/色調は暗褐色	砂粒を含み、角閃石を僅かに含む	縄文前期後葉(諸磯c式)	9W
第19図19 図版7-3-19	深鉢	胴	厚0.8	ほぼ垂直に立ち上がる	貝殻腹線文/色調は淡黄褐色	石英・砂粒を含み、角閃石を僅かに含む	縄文前期後葉(浮石・興津式?)	9W
第19図20 図版7-3-20	深鉢	底	高[2.9] 底11.0	平底/胴部は僅かに外傾する	外面・底面は無文/色調は赤褐色	石英・砂粒を含み、小礫を僅かに含む	縄文前期後葉	遺構外
第19図21 図版7-3-21	深鉢	底~胴	厚(底部)0.8	平底/胴部は外傾	地文にRL単節斜縄文/色調は淡黄褐色	石英・角閃石を含む	縄文前期後葉	822 D
第19図22 図版7-3-22	深鉢	胴	厚0.9	僅かに内湾	平載竹管状工具を用いた平行沈線文を格子目状に施す/色調は淡黄褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期前頭(五瀬台式)	遺構外

第9表 遺構外出土土器一覧(1)



## 第3章 西原大塚遺跡第222地点の調査

### 第1節 遺跡の概要

第2章第1節 西原大塚遺跡第220地点の調査（8ページ）を参照。

### 第2節 調査の経緯

#### （1）調査に至る経過

平成29年12月、志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて、6社から照会があった。計画は志木市幸町3丁目7292・7293番（面積768.02㎡）地内に分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、照会があった6社に対し、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228-09-007）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

平成30年7月20日、教育委員会は、土木工事主体者である株式会社田村工務店（代表取締役 氏居照和）より確認調査依頼書を受領し、西原大塚遺跡第222地点として、8月6・7・9日の3日間で確認調査を実施した。教育委員会は、この結果をただちに株式会社田村工務店に報告し、保存措置について検討を依頼した。

8月31日に株式会社田村工務店と埋蔵文化財の保存措置について協議を行った。その結果、分譲住宅全7棟建設予定のうち、宅地部分については、盛土保存が可能であったが、各棟浸透トレンチ及び配管分については、発掘調査を実施することに決定した。

9月20日、株式会社田村工務店より志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出されたため、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第2条第2項に基づき、10月11日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

10月18日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

教育委員会は、10月18日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、同日から発掘調査を実施した。

	平成30年10月			11月
	20日	25日	30日	5日
表土剥ぎ作業 (縄文時代)	10.18	10.19		
187J	10.22		10.30	
188J			10.30	11.6
189J	10.23	10.25		
190J	10.25		10.30	
191J	10.25			11.2
192J				11.2
193J				11.2
810D	10.19			
811D		10.26		
812D				11.2
(弥生時代)				11.5
36方	10.19	10.24		
埋戻し作業				11.8
				11.7

第10表 西原大塚遺跡第222地点の発掘調査工程表

## (2) 発掘調査の経過

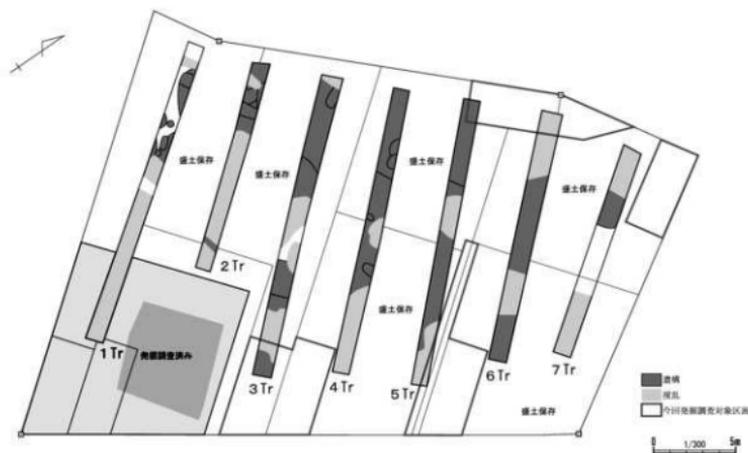
ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第10表の発掘調査工程表に示した。

- 10月18日 発掘調査を開始する。調査区を4カ所(1～4区)に設定し、重機(バックホー)による表土剥ぎ作業を1区から開始する。同時に人員を導入し、調査機材搬入、調査区整備、遺構確認作業を行う。本日中に1～3区までの表土剥ぎ作業を終了し、1・2区の遺構検出状況の写真撮影を完了した。残土置場は敷地内の未調査部分に当てることとした。
- 19日 表土剥ぎ作業2日目。本日ですべての表土剥ぎ作業を終了する。4区の遺構検出状況の写真撮影を完了した。縄文時代の土坑(810D)、弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓(36方)の精査を開始する。本日中に810Dの精査を終了する。
- 22日～26日 縄文時代の住居跡(187・189～191J)、縄文時代の土坑(811D)の精査を開始する。189J・811D・36方の精査を終了する。
- 29日～11月2日 縄文時代の住居跡(188J)、縄文時代の土坑(812D)の精査を開始する。191Jの精査を終了する。
- 5日 193J、812Dの精査を終了する。
- 6日 188・192Jの精査を終了する。埋め戻し作業を開始する。
- 7日 埋め戻しを完了する。

## (3) 確認調査の概要

確認調査は、平成30年8月6・7・9日の3日間で実施した。第20図に示すように調査区内にトレンチを7本(1～7Tr)設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。

その結果、縄文時代の住居跡12軒・土坑1基、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡1軒・溝跡2本、中世以降の土坑9基・柱穴3本を確認した。なお、調査区南東部の一部については、すでに調査済み箇所第54地点であったため、トレンチの設定を除外して調査を行った。調査結果としては、大きな攪乱が著しかったが、調査全域には縄文時代の住居跡が密集して分布していることが確認できた。こ



第20図 確認調査時の遺構分布 (1 / 300)

これは、この地点が縄文時代中期の環状集落内であるものと考えられるためである。現在、この周辺からは、縄文時代中期の住居跡が約180軒検出されている状況である。

また、今回は確認調査において出土した遺物については、明らかに各住居跡として帰属できる資料以外は、ここでトレンチ毎に掲載することにする。なお、7号トレンチからは出土遺物はなかった。

#### ○1号トレンチ (第21図1～2、図版12-1～2、第11表)

本トレンチからは、縄文時代・弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土したが、小破片のため、図示できた遺物は、1の縄文時代中期中葉(勝坂式)の土器1点、2の縄文時代後期前葉(堀之内1式か)の土器1点である。

#### ○2号トレンチ (第21図1～10、図版12-1～10、第11・12表)

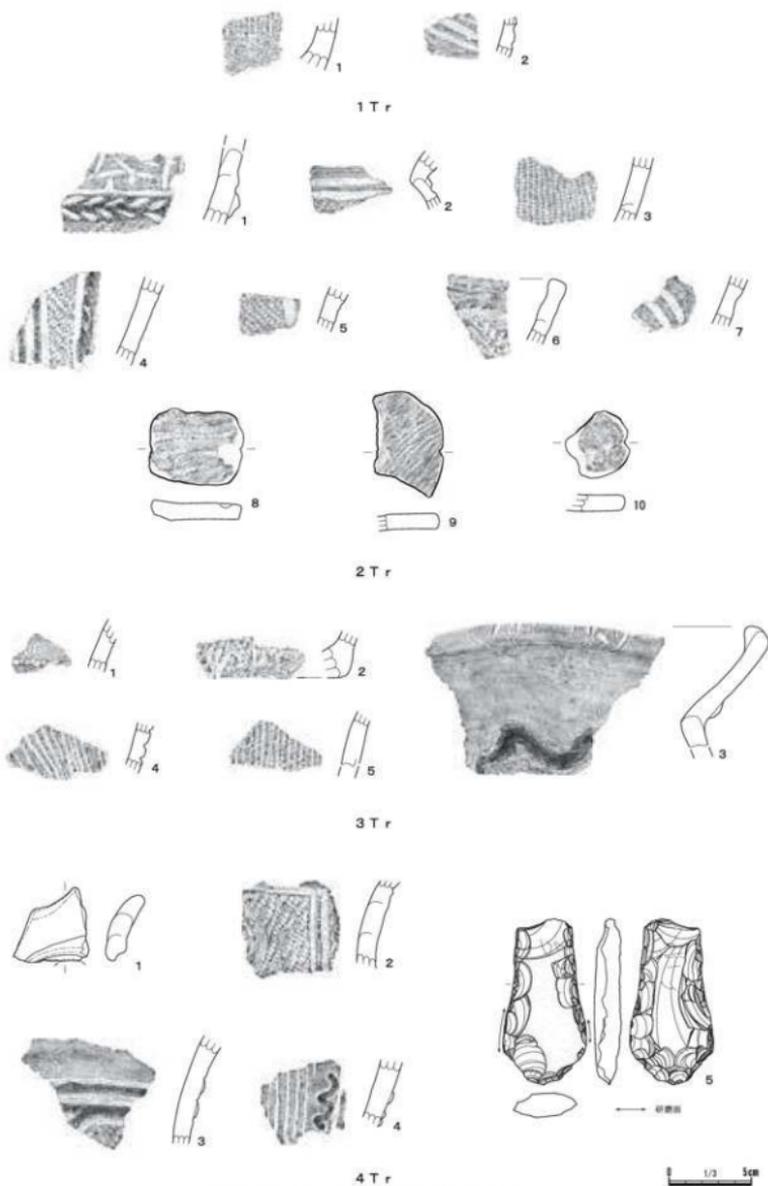
本トレンチからは、縄文時代の土器が出土したが、小破片のため、図示できる遺物は、1～3の縄文時代中期中葉(勝坂式)の土器3点、4・5の縄文時代中期後葉(加曾利E式)の土器2点、6の縄文時代中期後葉(曾利式)の土器1点、7の縄文時代後期前葉(堀之内1式)の土器1点、8～10の縄文時代中期の土器片鉢3点である。

#### ○3号トレンチ (第21図1～5、図版12-1～5、第11表)

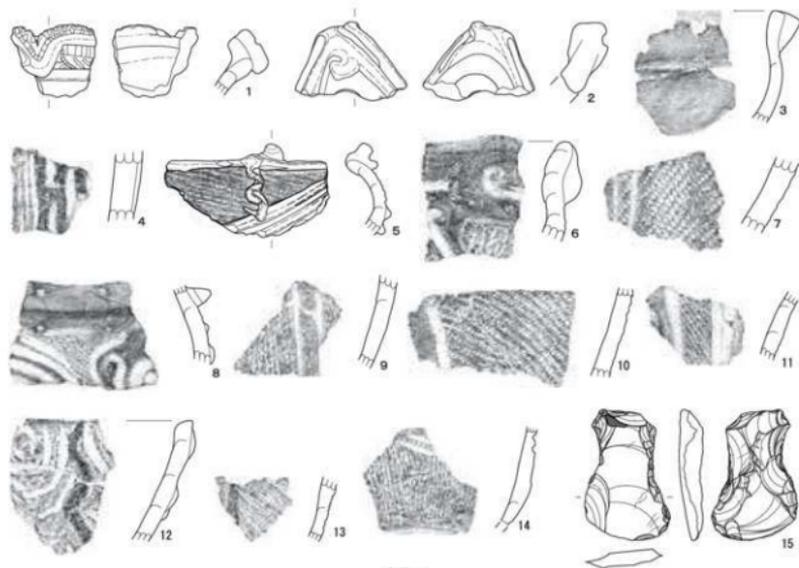
本トレンチからは、縄文時代の土器が出土したが、小破片のため、1・2の縄文時代中期中葉(勝坂式)の土器2点、3・4の縄文時代中期後葉(曾利式)の土器2点、5の縄文時代中期の土器1点である。

#### ○4号トレンチ (第21図1～5、図版12-1～5、第11・13表)

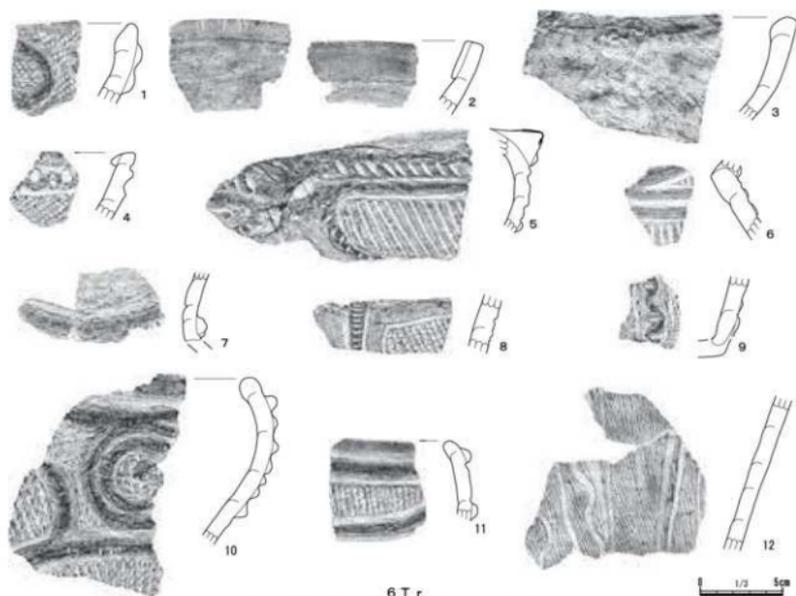
本トレンチからは、縄文時代の土器が出土したが、小破片のため、図示できる遺物は、1の縄文時代中期中葉(勝坂式)の土器1点、2の縄文時代中期後葉(加曾利E式)の土器1点、3・4の縄文時代



第21図 確認調査出土遺物1 (1/3)

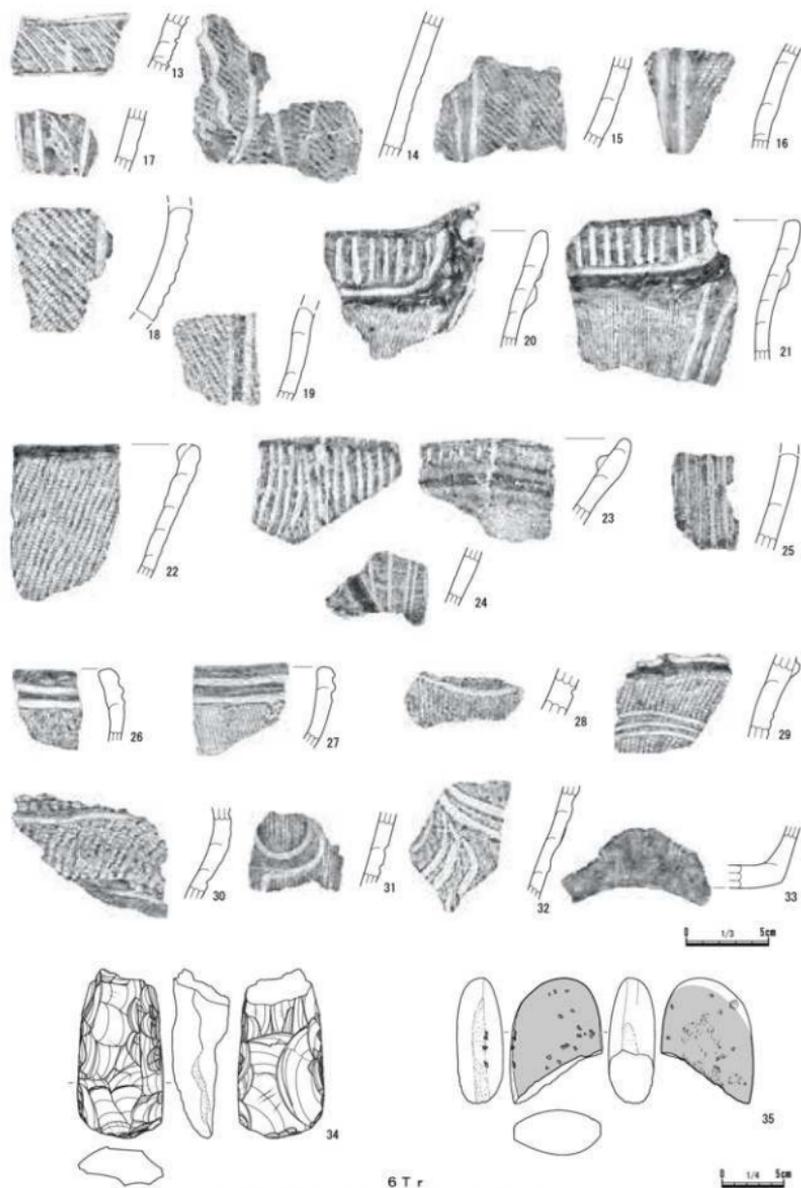


5 T r



6 T r

第22図 確認調査出土遺物 2 (1/3)



第23図 確認調査出土遺物 3 (1/3・1/4)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	形 式	出土位置
第21図1 図版12-1	深鉢	胴	厚1.1	ほぼ直立する/底部付近の胴部	地文はLの懸垂文を縦位に施文/色調は赤褐色	砂粒を多く含み、小石を僅かに含む	縄文中期中葉(勝坂式)	1 Tr
第21図2 図版12-2	深鉢	胴	厚0.7	僅かに外積する	斜位の沈線文/色調は淡い暗褐色	石英・砂粒を含む	縄文後期前葉(堀之内1式カ)	1 Tr
第21図1 図版12-1	深鉢	胴	厚1.2	僅かに外積する	上部に沈線文/矢羽状の刻みのある横位隆帯/隆帯以下にLR単節縄文を縦位施文/色調は赤褐色	砂粒を多く含み、角閃石を僅かに含む	縄文中期中葉(勝坂式)	2 Tr
第21図2 図版12-2	浅鉢	胴	厚1.3	胴部中位で屈曲する	縦位沈線文/LR単節縄文を横位施文/内外面赤彩/色調は赤褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉(勝坂式)	2 Tr
第21図3 図版12-3	深鉢	胴	厚1.1	外積する	LR単節縄文を斜位施文/色調は暗褐色	褐色粒子・砂粒・小石を含む	縄文中期中葉(勝坂式)	2 Tr
第21図4 図版12-4	深鉢	胴	厚1.0	外積する	地文はLR単節縄文を縦位施文/隆帯部に沈線が施される懸垂文/色調は淡い黄褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉(加曾利EⅡ式)	2 Tr
第21図5 図版12-5	深鉢	胴	厚1.2	外積する	地文にLR単節縄文を縦位施文/沈線による懸垂文/磨消文/色調は淡茶褐色	赤褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉(加曾利EⅢ-IV式)	2 Tr
第21図6 図版12-6	深鉢	口縁	厚0.9	外積する	平縁/地文はLR単節縄文/口唇部は曲取り/口縁部に節頭押正直/色調は赤褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉(曾利式)	2 Tr
第21図7 図版12-7	深鉢	胴	厚1.0	外積する	弧状の沈線文(湯呑文カ)/内外面に彩色の彩文/色調は淡い黄白色	砂粒を含む	縄文後期前葉(堀之内1式)	2 Tr
第21図1 図版12-1	深鉢	胴	厚1.0	やや外積する	連続爪形文/三角押文/色調は赤茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉(勝坂式)	3 Tr
第21図2 図版12-2	深鉢	底	高12.6	平底	沈線文/色調は赤褐色	石英・雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉(勝坂式カ)	3 Tr
第21図3 図版12-3	深鉢	口縁	厚1.1	平縁/頸部で「く」字状に屈曲/口縁内側に屈曲	胴部に縄文?/頸部に波状隆帯/口縁部無文/色調は茶褐色	雲母・角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉(曾利式)	3 Tr
第21図4 図版12-4	深鉢	胴	厚0.9	やや外積する	地文に半截竹管状工具による縦位・斜位の条線文/色調は茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉(曾利式)	3 Tr
第21図5 図版12-5	深鉢	胴	厚1.1	僅かに外積する	地文にLの懸垂文/色調は暗褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期	3 Tr
第21図1 図版12-1	深鉢	口縁	厚1.0	波状口縁/中位で屈曲する	波状部は三角形カ/隆帯による円形区画文/側縁に沈線文/色調は暗褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉(勝坂式)	4 Tr
第21図2 図版12-2	深鉢	胴	厚1.1	僅かに外反する	地文にLR単節縄文/沈線による垂直懸垂文・2本一對の沈線による曲線文/色調は赤茶褐色	石英・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉(加曾利EⅡ式)	4 Tr
第21図3 図版12-3	深鉢	胴	厚1.1	僅かに外反し、外積する	胴部に沈線が施される横位隆帯により上下を区画/上位は無文/下位は隆帯による区画内にLR単節縄文/色調は淡い黄褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉(曾利式)	4 Tr
第21図4 図版12-4	深鉢	胴	厚1.2	やや外積する	地文に半截竹管状工具による縦位の沈線文/波状隆帯を縦位に貼り付け/色調は茶褐色	角閃石・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉(曾利式)	4 Tr
第22図1 図版12-1	浅鉢	口縁	厚0.8	口縁は屈曲する	口縁に刻み/結節沈線が施される[V]字状の隆帯/口縁部に沈線が施される断面三角形隆帯、結節沈線文/色調は暗茶褐色	石英・砂粒を僅かに含む	縄文中期中葉(勝坂式)	5 Tr

第11表 確認調査出土土器一覧(1)

## 第3章 西原大塚遺跡第222地点の調査

探検番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 形式	出土位置
第22図2 図版12-2	深鉢	口縁	厚1.7	三角形の突起	突起部縁辺に隆帯貼り付け/渦巻文/下部に穿孔	角閃石・橙色粒子・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	5 Tr
第22図3 図版12-3	浅鉢	口縁	厚0.8	平縁/胴部はやや膨らみ、口縁部で屈曲する	無文/口縁部肥大/口唇は面取り/内外面に磨き調整/内外面赤彩/色調は暗褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	5 Tr
第22図4 図版12-4	深鉢	胴	厚1.4	ほぼ直立する	隆帯脇に沈線文/縦方向の沈線文/色調は暗褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	5 Tr
第22図5 図版12-5	深鉢	口縁	厚1.2	僅かに外反する	沈線により横文と懸垂文を無文/区内には丸単節縄文が充填される/色調は暗茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	5 Tr
第22図6 図版12-6	深鉢	口縁	厚1.3	波状口縁/口縁部は外反する	渦巻文/隆帯区内にLの懸糸文/色調は淡い褐色	角閃石・赤褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	5 Tr
第22図7 図版12-7	深鉢	胴	厚1.3	外積する	地文にLR単節縄文/2本一對の沈線による懸垂文/色調は赤褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E2式)	5 Tr
第22図8 図版12-8	有孔罍 付土器	胴	厚0.8	内積する	罍に2力所穿孔/地文に丸単節縄文/隆帯文/渦巻文/内外面赤彩/色調は淡い褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E2式)	5 Tr
第22図9 図版12-9	深鉢	胴	厚0.8	僅かに膨らみを有し、外積する	地文にLの懸糸文/磨消文/色調は淡い黄褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E3式)	5 Tr
第22図10 図版12-10	深鉢	胴	厚0.8	外積する	地文にLR単節縄文/磨消文/色調は淡い褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E3式)	5 Tr
第22図11 図版12-11	深鉢	胴	厚0.8	外積する	地文にLR単節縄文?/磨消文/色調は茶褐色	石英・茶褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E3式)	5 Tr
第22図12 図版12-12	深鉢	口縁	厚0.9	口唇部付近で僅かに内湾する/外積する	重弧文/粘土層による波状の垂下隆帯/色調は茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	5 Tr
第22図13 図版12-13	深鉢	胴	厚0.9	外積する	隆帯区内に半截竹状工具による条線文/色調は茶褐色	橙色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	5 Tr
第22図14 図版12-14	深鉢	胴	厚0.6	外積する	地文にLの懸糸文/弧状・横位の沈線文/色調は淡い茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (津狐文系)	5 Tr
第22図1 図版13-1	深鉢	口縁	厚1.2	口縁先端が肥大する/外積する	隆帯による円形区画文/区画後、LR単節縄文/色調は赤褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	6 Tr
第22図2 図版13-2	浅鉢	口縁	厚1.0	平縁/口縁部内側に幅2.4cmの粘土帯を貼り付け	無文/補修孔/色調は淡い赤褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	6 Tr
第22図3 図版13-3	浅鉢	口縁	厚0.9	平縁/口唇部が僅かに肥大する	無文/内外面磨き調整/内外面赤彩/色調は赤茶褐色	石英・砂粒・小石	縄文中期中葉 (勝坂式)	6 Tr
第22図4 図版13-4	浅鉢	口縁	厚1.0	平縁/口唇が内屈する	2本一對の横位沈線/沈線間に交互割突文/地文にLR単節縄文/口縁部に赤彩/色調は淡い黄褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	6 Tr
第22図5 図版13-5	深鉢	胴	厚0.8	内湾する	眼鏡状突起/刻みのある隆帯/隆帯および沈線による楕円形区内に斜位沈線/色調は赤褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	6 Tr
第22図6 図版13-6	浅鉢	胴	厚1.0	屈曲する	隆帯区画/区内に縦位沈線/色調は淡い褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	6 Tr
第22図7 図版13-7	深鉢	胴	厚0.8	やや外反する	外反部分に隆帯貼り付け/隆帯上部は無文/色調は暗茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	6 Tr

第11表 確認調査出土土器一覧(2)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	型式	出土位置
第22図8 図版13-8	深鉢	胴	厚1.0	ほぼ直立する	刻みのある隆帯を従位に貼り付け 隆帯脇に比線/沈線区画内に三 角押文を充填/色調は褐色	石英・角閃石・砂 粒・小石を含む	縄文中期中葉 (勝式)	6 Tr
第22図9 図版13-9	深鉢	胴	厚1.0	底部付近/僅か外 積する	地に条線/蛇行隆帯文/隆帯文 に半円状の刺突/色調は淡い褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝式)	6 Tr
第22図10 図版13-10	深鉢	口縁	厚0.8	平縁/内湾する	地にLの懸垂文/口縁部文様帯 を隆帯区画/隆帯による渦巻文/ 色調は暗褐色	石英・灰白色粒子 ・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E I式)	6 Tr
第22図11 図版13-11	深鉢	口縁	厚0.8	内積する	隆帯による区画文/区画内にLの 懸垂文/隆帯脇に沈線文/色調は 淡い黄褐色	石英・白色針状物 質・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E I式)	6 Tr
第22図12 図版13-12	深鉢	胴	厚0.9	外積する	地に地にRの懸垂文/懸垂文/ 色調は赤褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E II式)	6 Tr
第23図13 図版13-13	浅鉢	胴	厚1.1	外積する	沈線区画内に半載竹管状工具による 条線文/内外面磨き調整/内面 赤彩/色調は赤茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E II式)	6 Tr
第23図14 図版13-14	深鉢	胴	厚0.8	僅かに外積する	地にRL単節縄文/磨消文/色調 は赤褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E II式)	6 Tr
第23図15 図版13-15	深鉢	胴	厚1.0	外積する	地文はRの無節縄文/浅い沈線に よる懸垂文/色調は淡い橙褐色	褐色粒子・砂粒・ 小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利E III式 か)	6 Tr
第23図16 図版13-16	深鉢	胴	厚1.0	外積する	地文はRの無節縄文/磨消文/浅 い沈線による懸垂文/横位の浅い 沈線文/色調は淡い橙褐色	褐色粒子・砂粒・ 小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利E III式)	6 Tr
第23図17 図版13-17	深鉢	胴	厚0.8	僅かに外反し、外 積する	地にRL単節縄文/磨消文/色調 は茶褐色	石英・角閃石・砂 粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E III式)	6 Tr
第23図18 図版13-18	深鉢	胴	厚1.3	僅かに内湾し、外 積する	地文はLR単節縄文/磨消文/色調 は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E III式)	6 Tr
第23図19 図版13-19	深鉢	胴	厚0.8	僅かに内湾する	地にLR単節縄文/垂下隆帯/磨 消文/色調は淡い黄褐色	石英・角閃石・砂 粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利E IV式)	6 Tr
第23図20 図版13-20	深鉢	口縁	厚0.8	突起有り/頸部で 僅かに外反する	つなぎ弧文/区画内に縦位沈線/ 胴部地文に条線/磨消文/突起部 に渦巻文/色調は赤褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	6 Tr
第23図21 図版13-21	浅鉢	口縁	厚0.8	突起有り/頸部で 僅かに外反する	つなぎ弧文/区画内に縦位沈線/ 胴部地文に条線/磨消文/色調は 赤褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	6 Tr
第23図22 図版13-22	深鉢	口縁	厚0.8	平縁/口縁内側の 屈曲部は剥落	地文はRL単節縄文/色調は茶褐色	石英・角閃石・砂 粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	6 Tr
第23図23 図版13-23	深鉢	口縁	厚1.0	平縁/口縁部内側 に貼り付け隆帯	重弧文/口縁部内側に沈線文/色 調は淡い黄褐色	石英・角閃石・砂 粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	6 Tr
第23図24 図版13-24	深鉢	胴	厚0.8	外積する	地に条線/貼り付け隆帯/隆帯 脇に半載竹管状工具による沈線が 沿う/色調は淡い黄褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	6 Tr
第23図25 図版13-25	深鉢	胴	厚1.1	外積する	地に半載竹管状工具による条線/ 色調は淡い褐色	石英・角閃石・砂 粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	6 Tr
第23図26 図版13-26	深鉢	口縁	厚0.9	平縁/口唇部が僅 かに肥大/僅かに 内湾する	地にLの懸垂文/口縁部に2本 対一の横位沈線文/色調は暗褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (連弧文系)	6 Tr

第11表 確認調査出土土器一覧(3)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第23図27 図版13-27	深鉢	口縁	厚0.8	平縁/僅かに内湾する	地にRの襷系文/口縁部に2本一対の横位沈線文/弧状の沈線文/色調は暗褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (達弧文系)	6 Tr
第23図28 図版13-28	深鉢	胴	厚1.4	外積する	地にRの襷系文/弧状の沈線文/色調は暗褐色	石英・砂粒を多く含む	縄文中期後葉 (達弧文系)	6 Tr
第23図29 図版13-29	深鉢	胴	厚1.0	外積する	横位條帯/隆帯筋上部に沈線および円形刺突文/隆帯貼り付け後、RL単筋織文/3本一対の弧状沈線文/色調は淡い黄褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (達弧文系)	6 Tr
第23図30 図版13-30	深鉢	胴	厚1.0	内湾する	上から2列の円形刺突文、横位沈線文、RL単筋織文、磨消文/色調は暗褐色	角閃石・淡い黄白色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (達弧文系)	6 Tr
第23図31 図版13-31	深鉢	胴	厚0.9	外積する	地に条線文/沈線による弧状文/色調は赤褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (達弧文系)	6 Tr
第23図32 図版13-32	深鉢	胴	厚0.8	やや外積する	沈線文/色調は褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (達弧文系)	6 Tr
第23図33 図版13-33	深鉢	底	高13.6	平底	底部無文/胴部の地に条線/色調は赤褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉	6 Tr

第11表 確認調査出土土器一覽(4)

探検番号 図版番号	種別	遺存状態	長さ/幅/厚み	重量	特徴	胎土	時期	出土位置
第21図8 図版12-8	土器片鏝	完形	5.7/4.6/1.0	39.6	四角形/挾部2ヶ所/肩縁部上端一部に摩耗/無文/色調は赤褐色	雲母・角閃石・砂粒を含む	縄文中期	2 Tr
第21図9 図版12-9	土器片鏝	完形	6.5/4.1/1.0	31.3	左側縁部・下端部を欠損/挾部1ヶ所/肩縁部の摩耗は顕著/地にRの襷系文/色調は赤褐色	赤褐色粒子・石英・砂粒を含む	縄文中期	2 Tr
第21図10 図版12-10	土器片鏝	完形	4.0/3.8/1.0	17.6	左側縁部を欠損/円形/挾部1ヶ所/肩縁部の摩耗は顕著/無文/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期	2 Tr

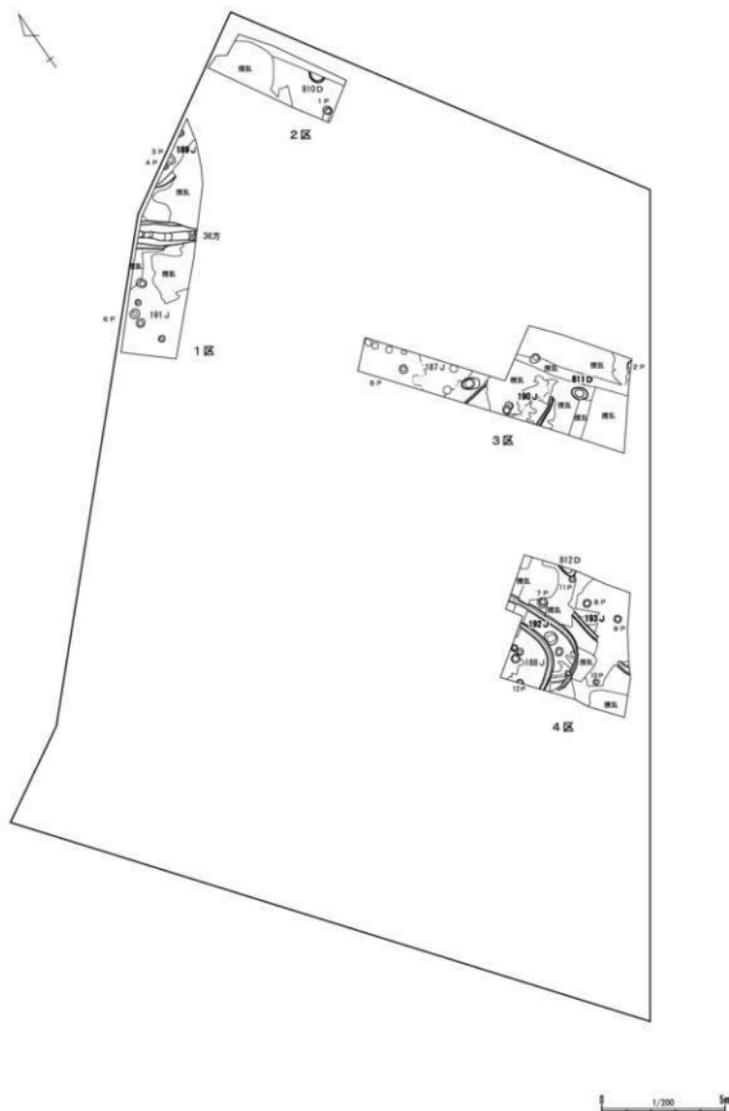
(単位: cm, g)

第12表 確認調査出土土製品一覽

探検番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第21図5 図版12-5	打製石斧	砂岩	101.6	51.1	16.7	103.4	ほぼ完形/器形/表面に磨痕面/刃部左側縁の一部を欠損/刃部は円月/両側縁に敲打整形痕/最大幅付近の側縁が摩耗し、研磨面を形成	4 Tr
第22図15 図版12-15	打製石斧	ホルンフェルス	80.1	52.1	14.7	58.5	右側縁上部を一部欠損/分銅形/刃部は円月	5 Tr
第23図34 図版13-34	打製石斧	砂岩	104.0	52.6	35.1	202.7	上部を欠損/短冊形/右側縁に敲打面	6 Tr
第23図35 図版13-35	磨石	花崗岩	102.9	75.2	37.8	378.6	下半部を欠損/楕円形/両面に研磨面/両側縁・裏面に敲打面	6 Tr

(単位: cm, g)

第13表 確認調査出土石器一覽



第24図 遺構分布図 (1 / 200)

中期後葉（曾利式）の土器2点、5の打製石斧1点である。

#### 〇5号トレンチ（第22図1～15、図版12-1～15、第11・13表）

本トレンチからは、縄文時代の土器が出土したが、小破片のため、図示できる遺物は、1～4の縄文時代中期中葉（勝坂式）の土器4点、5～11の縄文時代中期後葉（加曾利E式）の土器7点、12・13の縄文時代中期後葉（曾利式）の土器2点、14の縄文時代中期後葉（連弧文系）の土器1点、15の打製石斧1点である。

#### 〇6号トレンチ（第22図1～12、第23図13～35、図版13-1-35、第11・13表）

本トレンチからは、縄文時代の土器が出土したが、小破片のため、図示できる遺物は、1～9の縄文時代中期中葉（勝坂式）の土器9点、10～19の縄文時代中期後葉（加曾利E式）の土器10点、20～25の縄文時代中期後葉（曾利式）の土器6点、26～32の縄文時代中期後葉（連弧文系）の土器7点、33の縄文時代中期後葉の土器1点、34の打製石斧1点、35の磨石1点である。

### （4）盛土保存の取り扱い

今回、発掘調査を実施しなかった宅地部分については、以下のとおりの日程で工事立会検査を実施した。その結果、すべての部分で保護層30cm以上を確保し施工されており、正しく盛土保存が行われていたことを確認した。

1・4号棟宅地部分：平成31年4月23日

2号棟宅地部分：平成31年2月1日

3・5号棟宅地部分：令和元年6月19日

6・7号棟宅地部分：令和元年6月27日

---

## 第3節 検出された遺構・遺物

---

### （1）概要

検出された遺構については、縄文時代の遺構は、住居跡7軒（187～193 J）・土坑3基（810～812 D）・ピット11本（1～3、5～12 P）が検出された。弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は、方形周溝墓1基（36方）が検出された。近世以降の遺構は4 Pのみであった。

縄文時代の住居跡は、縄文時代中期に属するものである。しかし、部分的な調査であり、どれも全容を把握できてはいない。住居跡の詳細な帰属時期についても、炉体土器、埋甕などの出土がなかったため、覆土中の土器破片資料から推定している。

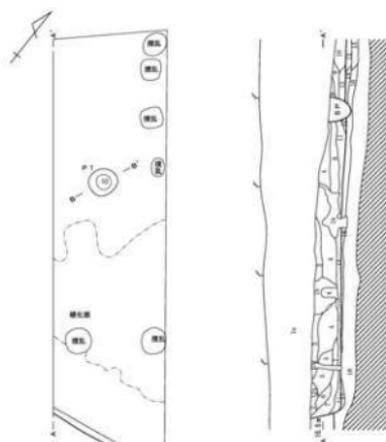
### （2）住居跡

#### 187号住居跡

**遺 構**（第25図）

[位 置] 3区。

[検出状況] 住居中央から南側立上がりの一部までを検出した。遺構の大部分は調査区外にある。190 Jを切り、5 Pに切られる。部分的に攪乱を受けている。



A-A'

- 1層 礫土
- 2層 礫土
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を多く、微小粒子を含む、しまり強。
- 4層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含む、しまり強。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を多く、微小粒子を含む、しまり強。
- 6層 黄褐色土 ローム粒子・焼土粒子を多く、炭化物粒子を含む、しまり強。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を多く、しまり強。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を多く含む、しまり強。
- 9層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、しまりや中強。
- 10層 暗褐色土 炭化物粒子を含む、ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、しまり強。
- 11層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、ロームブロック・焼土粒子を多く含む、しまり強。
- 12層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまり強。
- 13層 黄褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子・ロームブロックを多く含む、しまり強。
- 14層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む、しまり強。
- 15層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む、しまり強。
- 16層 近い黄褐色土 ロームブロックを含む、ローム粒子を多く含む、しまり極めて強。
- 17層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを含む、しまり強。
- 18層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む、しまり強、硬木炭。

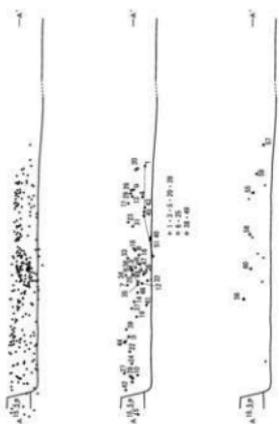
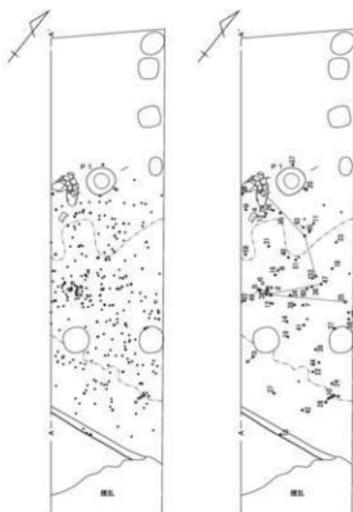
100 100



図1

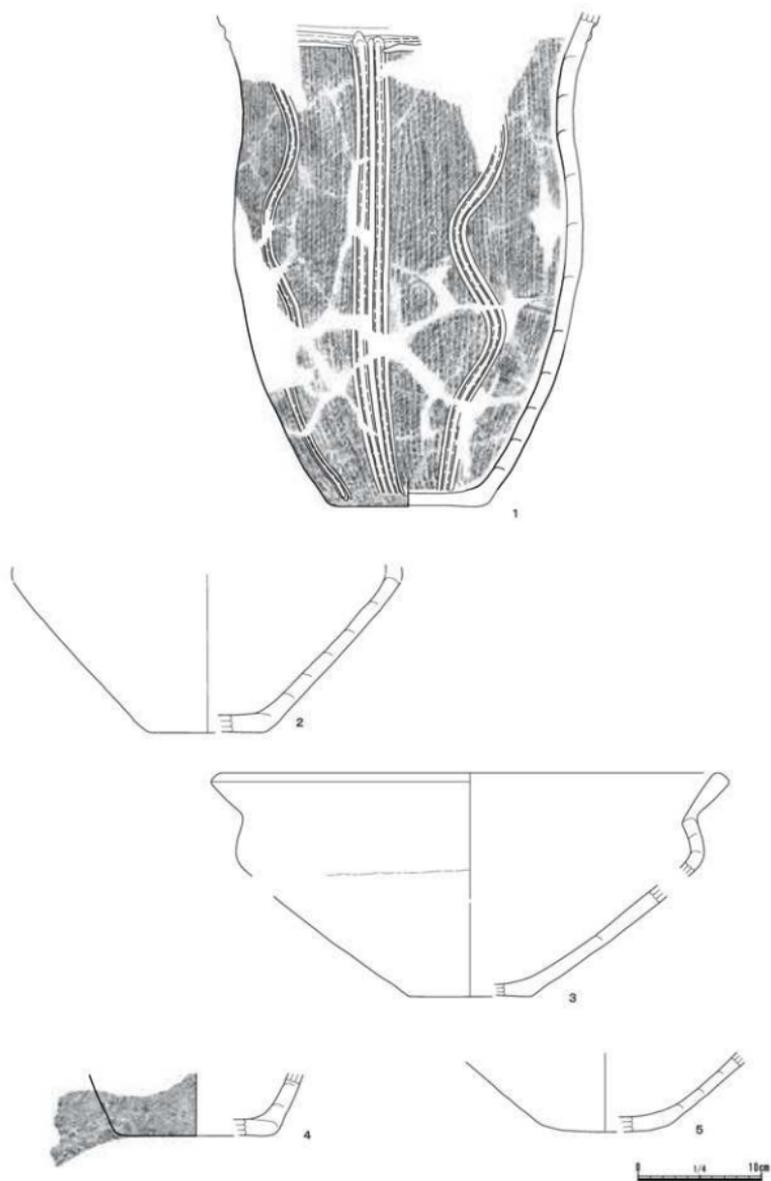
B-B' 跡1

- 1層 礫土
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を含む、炭化物粒子・焼土粒子を多く含む、しまり強。
- 3層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまり強。
- 4層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む、しまり強。
- 5層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ロームブロックを含む、しまり強。
- 6層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む、しまり強、硬木炭。

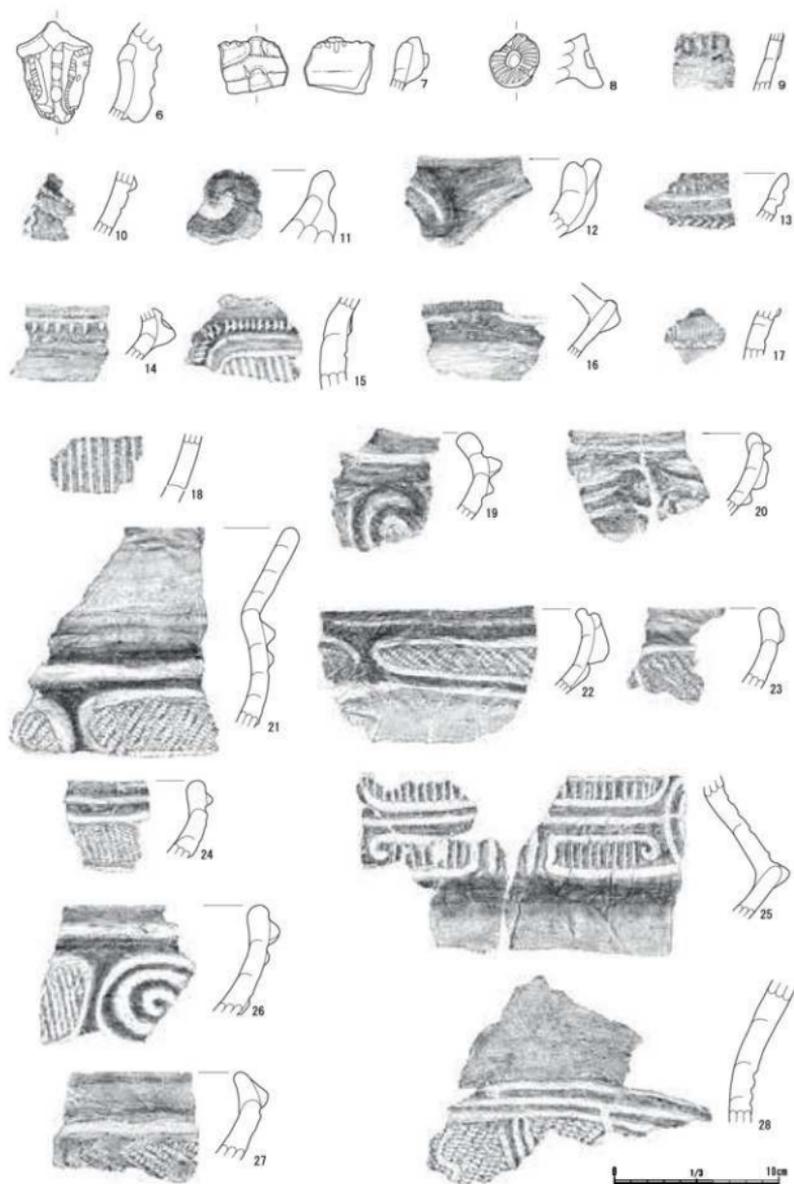


100 20

第25図 187号住居跡(1/60)



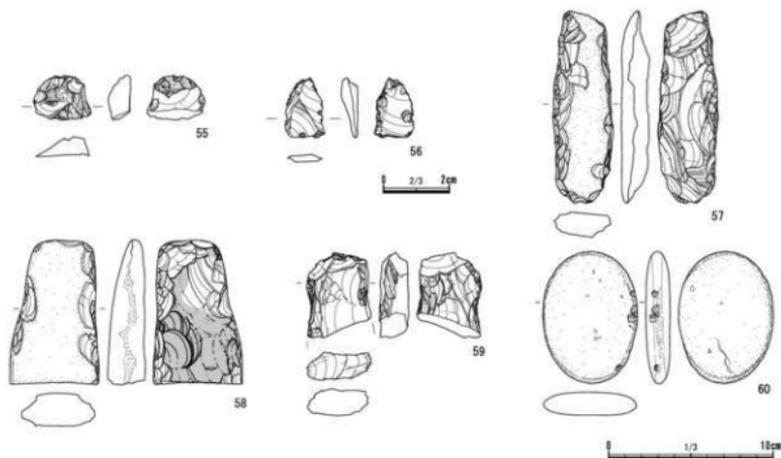
第26図 187号住居跡出土遺物1(1/4)



第27図 187号住居跡出土遺物2 (1/3)



第28図 187号住居跡出土遺物3 (1/3)



第29図 187号住居跡出土遺物4(2/3・1/1)

**[構造]** 平面形：不明。規模：検出長5.25m。遺構確認面からの深さは約35cm。壁：75°程度の角度で立ち上がる。主軸方位：不明。壁溝：検出されなかった。床面：床面の高さは概ね一定している。住居南側で硬化面が検出された。硬化面は東西方向に調査区外へ延びるものと思われる。貼床は2～15cmの厚さで施されていた。炉：検出されなかった。柱穴：今回の調査ではP1のみを検出した。住居床面からのP1の深さは52cm。

**[覆土]** 16層(2～17層)に分層された。住居外側から流れ込むような堆積を示し、覆土に大きなロームブロックが含まれないことから、自然堆積と思われる(2～12層)。13～17層は貼床土である。なお、18層は黄褐色土であるが、地山(立川ローム)ほどしまりはなく、ロームブロックが認められるため、倒木痕と判断した。

**[遺物]** 住居南側で土器・石器が多く出土した。住居中央側では遺物の分布は希薄である。垂直分布では、上層～下層にかけて遺物が出土しているが、上層から中層にかけての出土がやや多い。

**[時期]** 縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ式期)。

**遺物** (第26～29図、図版14・15、図版16-1、第14～16表)

**[土器]** (第26～28図1～52、図版14・15-1～52、第14表)

1・21～41は加曾利EⅡ式、2・3・5は浅鉢の底部、4は深鉢の底部、6～10は阿玉台式、11～18は勝坂式、19・20は加曾利EⅠ式、42は加曾利EⅢ式、43は連弧文系、44～50は曾利式である。51・52は地文に縄文、燃糸文が施される縄文中期の土器である。

**[土製品]** (第28図53・54、図版15-53・54、第15表)

53・54は土器片錘である。

**[石器]** (第29図55～60、図版16-1-55～60、第16表)

調査番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第26図1 図版14-1	深鉢	胴～底	高140.3 底(12.8) 厚1.1	平底/キヤリバー 形/胴部中位でく びれる	地文はLの襷糸文を縦位盤文/胴 部に横位隆帯/隆帯2本一対の懸 垂文/隆帯による蛇行懸垂文/色 調は赤茶褐色	角閃石・赤褐色粒 子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加賀利EⅡ式)	覆土中～ 下層
第26図2 図版14-2	浅鉢	胴～底	高112.9 底(9.8) 厚1.3	平底/胴部で屈曲	無文/内外面に磨き調整/色調は 黒褐色	角閃石・白色粒子・ 褐色粒子・砂粒を 含む	縄文中期	覆土中層
第26図3 図版14-3	浅鉢	口縁～底	高119.6 口(42.0) 底(10.0) 厚0.9	平底/胴部中位で 内折し、胴部で外 側に屈曲する	無文/内外面磨き調整/外面赤彩 /内面黒彩後、赤彩/色調は淡い 黄褐色	雲母・砂粒を含む	縄文中期	覆土上層
第26図4 図版14-4	深鉢	底	高151.1 底(12.8) 厚1.2	平底	底部、胴部は無文/色調は淡い 褐色	石英・褐色粒子・ 砂粒を含む	縄文中期	覆土中層
第26図5 図版14-5	浅鉢	底	高16.5 底(7.4) 厚0.9	平底	無文/外面に磨き調整/色調は 褐色	角閃石・褐色粒子 ・砂粒を含む	縄文中期	覆土中層
第27図6 図版14-6	深鉢	口縁	厚0.8	波状口縁/口唇部 で外側に屈曲する	口唇部に隆帯貼り付け/折捨の ある縦位隆帯/隆帯脇に結節沈線/ 色調は赤褐色	石英・雲母・砂粒 を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	覆土中層
第27図7 図版14-7	深鉢	口縁	厚0.7	平縁	口唇に刻み/棒状隆帯を縦位に 貼り付け後、棒状隆帯上に横位の隆 帯を重ねて貼り付け/色調は淡い 褐色	褐色粒子・砂粒を 含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	覆土上層
第27図8 図版14-8	深鉢	口縁部 突起	厚1.5	円形/中央に円形 の孔あり	連続刺突文/色調は淡い黄褐色	雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	覆土中層
第27図9 図版14-9	深鉢	胴	厚0.8	外挿する	ヒダ状丘直/色調は茶褐色	石英・雲母・砂粒 を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	覆土中層
第27図10 図版14-10	深鉢	胴	厚0.9	外挿する	断面三角形の隆帯/隆帯脇に2列 の結節沈線/波状沈線文/色調は 茶褐色	石英・雲母・砂粒 を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	覆土中層
第27図11 図版14-11	浅鉢	口縁	厚3.0	口縁部の突起	渦巻文/内外面赤彩/色調は 暗褐色	角閃石・雲母・白 色粒子・砂粒を 含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土上層
第27図12 図版14-12	深鉢	口縁	厚1.7	やや外挿する	口唇に沈線/隆帯貼り付け、沈 線による渦巻文?/色調は暗褐色	角閃石・白色粒子 ・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土中層
第27図13 図版14-13	深鉢	口縁	厚0.7	平縁/外挿する	平行沈線文/沈線文に沿って連続 刺突文、矢羽状連続刺突文/色調 は鈍い黄褐色	角閃石・砂粒を 含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土中層
第27図14 図版14-14	浅鉢	胴	厚0.8	屈曲する	横位沈線/刺突文/内外面磨き調 整/内面赤彩/色調は灰黄褐色	石英・角閃石・白 色粒子・砂粒を 含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土中層
第27図15 図版14-15	深鉢	胴	厚1.5	やや外反する	連続刺突のある隆帯/隆帯脇に沈 線/楕円形の沈線区画内に縦位沈 線列/色調は淡い黄褐色	石英・褐色粒子・ 砂粒・小石を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	南側段高 の覆土中 層
第27図16 図版14-16	浅鉢	胴	厚0.6	外挿し、屈曲する	隆帯貼り付け上に横位沈線/屈 曲部に連続刺突文/内外面磨き調整 /外面赤彩/色調は淡い黄褐色	角閃石・褐色粒子 ・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土中層
第27図17 図版14-17	深鉢	胴	厚1.0	やや外挿する	刻みのある隆帯/連続孔形文/三 角押文/内面磨き調整/色調は赤 茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土

第14表 187号住居跡出土土器一覧(1)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	型式	出土位置
第27図18 図版14-18	深鉢	胴	厚1.0	やや外傾する	地文に半截竹管状工具による縦位の条線/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (勝坂式)	覆土中層
第27図19 図版14-19	深鉢	口縁	厚1.0	小突起を有する/ 内湾する	隆帯による口縁部文様帯区画/隆帯上部に横位沈線/文様帯内にL?の懸糸文。隆帯による渦巻文/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅠ式)	覆土中層
第27図20 図版14-20	深鉢	口縁	厚0.8	平縁/内湾する	隆帯による渦巻文/横位隆帯文/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅠ式)	覆土中層
第27図21 図版14-21	浅鉢	口縁	厚1.0	平縁/胴部で膨らみ、胴部から口縁部で外側に屈曲する	口縁部無文/隆帯による円形・楕円形の区画/区画内にRL単節縄文を施文後、区画内側を磨り消し/内外面磨き調整/胴部外面に黒色の付着物あり/色調は淡い黄褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土
第27図22 図版14-22	深鉢	口縁	厚0.7	平縁/内湾する	隆帯線による区画/区画内にRL単節縄文を施文後、沈線引き/頸部無文/色調は黒褐色	角閃石・砂粒を含み、片岩を少量含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土中層
第27図23 図版14-23	深鉢	口縁	厚1.0	平縁/内湾する	楕円形の隆帯区画/区画内にRL単節縄文を施文後、沈線引き/内外面磨き調整/色調は暗褐色	角閃石・赤褐色粒子・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第27図24 図版14-24	深鉢	口縁	厚1.1	平縁/内湾する	隆帯区画/区画内にRL単節縄文を施文後、沈線引き/色調は暗茶褐色	石英・角閃石・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土中層
第27図25 図版15-25	浅鉢	胴	厚1.0	胴部中で内側に屈曲し、上部で外側に屈曲する	縦位の連続沈線後、沈線による区画/渦巻文/内面磨き調整/色調は淡い黄褐色	赤褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土中層
第27図26 図版15-26	深鉢	口縁	厚1.2	僅かに内湾する	隆帯区画/区画内にLの懸糸文/渦巻文/内面磨き調整/色調は淡い黄褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第27図27 図版15-27	浅鉢	口縁	厚1.4	平縁/内側に屈曲する	LR単節縄文を施文後、沈線による長方形区画/内外面磨き調整/内外面赤彩/色調は淡い黄褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第27図28 図版15-28	深鉢	胴	厚1.3	やや外反する	頸部無文/胴部地文にRL単節縄文/2本一対の横位沈線で区画後、3本一対の懸糸文/蛇行懸垂文/色調は暗褐色	褐色粒子・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土中層
第28図29 図版15-29	浅鉢	胴	厚1.0	内傾し、上部で外側に屈曲する	地文にRL単節縄文/沈線によるS字状文/内面磨き調整/色調は暗茶褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第28図30 図版15-30	深鉢	胴	厚1.2	外傾する	頸部無文/胴部地文にL懸糸文/2本一対の横位隆帯/隆帯による蛇行懸垂文/色調は茶褐色	角閃石・雲母・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土
第28図31 図版15-31	深鉢	胴	厚1.0	底部付近/やや外傾する	地文にLの懸糸文/隆帯による懸垂文/色調は褐色	角閃石・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土中層
第28図32 図版15-32	深鉢	胴	厚1.1	上部が僅かに外反する	地文にLの懸糸文/隆帯による2本一対の懸垂文/隆帯による蛇行懸垂文/色調は淡い黄褐色	角閃石・石英・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土下層
第28図33 図版15-33	深鉢	胴	厚1.2	外傾する	地文にRL単節縄文/2本一対の隆帯による懸垂文/隆帯の蛇行懸垂文/内面に黒色のタール状付着物/色調は淡い褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第28図34 図版15-34	深鉢	胴	厚1.0	外傾する	地文にRL単節縄文/2本一対の隆帯による懸垂文/色調は暗褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層

第14表 187号住居跡出土土器一覧(2)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第28図35 図版15-35	深鉢	胴	厚0.9	やや内湾する	地文はRL, 甲節縄文/沈線による懸垂文/懸垂文の途中に渦巻文/内面に保伏の黒色付着物/色調は淡い褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第28図36 図版15-36	深鉢	胴	厚0.8	僅かに外積する	隆沈線による文様部区画/沈線による渦巻文/地文にRL, 甲節縄文/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第28図37 図版15-37	深鉢	胴	厚0.9	やや外積する	地文にRL, 甲節縄文/沈線による渦巻文・弧状文/色調は淡い黄褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土中層
第28図38 図版15-38	深鉢	胴	厚1.0	やや外積する	地文にLの懸垂文/沈線による刺先文?/縦位沈線文/色調は淡い黄褐色	石英・白色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土中層
第28図39 図版15-39	深鉢	胴	厚0.9	僅かに内湾し、外積する	地文はRL, 甲節縄文/沈線による2本一對の懸垂文/蛇行懸垂文/色調は茶褐色	石英・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第28図40 図版15-40	深鉢	胴	厚1.0	僅かに内湾し、外積する	地文にRL, 甲節縄文/半截竹管状工具による弧状文/色調は茶褐色	石英・白色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土下層
第28図41 図版15-41	深鉢	底	高[3.2] 厚1.2	平底	地文はLの懸垂文/2本一對の隆帯による懸垂文/色調は淡い褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土下層
第28図42 図版15-42	深鉢	胴	厚1.2	僅かに外積する	地文にLR, 甲節縄文/磨消文/色調は茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第28図43 図版15-43	深鉢	胴	厚1.3	やや外反する	地文にRL, 甲節縄文/横位沈線文/色調は褐色	角閃石・石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (建塩文系)	覆土中層
第28図44 図版15-44	深鉢	口縁	厚1.2	平縁/口唇部内屈	無文/色調は赤茶褐色	雲母・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	覆土上層
第28図45 図版15-45	浅鉢	口縁	厚1.0	平縁/口唇部内屈	同心円文/色調は褐色	角閃石・片岩・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	覆土中層
第28図46 図版15-46	深鉢	胴	厚1.2	やや外積する	半截竹管状工具による重弧文/重弧文下に横位蛇行文の粘土層の割がれ痕あり/色調は淡い黄褐色	赤褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	覆土中層
第28図47 図版15-47	深鉢	胴	厚1.1	頸部で外側に屈曲する	頸部に半截竹管状工具による平行沈線を巡らせ、上から4段目の沈線間に交互斜突/頸部に粘土層を横位波状・縦位に貼り付け/色調は暗褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	覆土中層
第28図48 図版15-48	深鉢	胴	厚1.0	やや外積する	地文にRL, 甲節縄文/横位隆帯/粘土層貼付の蛇行懸垂文/色調は赤茶褐色	角閃石・赤褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	覆土
第28図49 図版15-49	深鉢	胴	厚0.8	やや外積する	半截竹管状工具による縦位沈線文/縦位沈線間に横位沈線を充填/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	覆土中層
第28図50 図版15-50	深鉢	胴	厚1.2	僅かに外積する	半截竹管状工具による縦位沈線文/色調は淡い褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (曾利式)	覆土
第28図51 図版15-51	深鉢	胴	厚0.8	やや外反する	地文にRの懸垂文/色調は淡い暗褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉	覆土下層
第28図52 図版15-52	深鉢	底	高[4.4] 厚1.2	平底	地文にRL, 甲節縄文/色調は赤褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期	覆土

第14表 187号住居跡出土土器一覧(3)

検出番号 図版番号	種別	遺存状態	長さ/幅/厚み	重量	特徴	胎土	時 期 形 式	出土位置
第28図53 図版15-53	土器片鱗	完形	5.9/9.2/1.1	98.3	五角形/挾部2ヶ所/周縁部摩耗/口縁部片を使用/口縁部無文/交互突起のある隆帯/口唇部がやや膨大/色調は赤褐色	石英・角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土
第28図54 図版15-54	土器片鱗	右側縁欠	2.7/2.3/0.9	5.9	六角形?/挾部1ヶ所/周縁部の摩耗は顕著/半截竹管状工具による縦位・横位沈線文/色調は淡い褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土

(単位: cm, g)

第15表 187号住居跡出土土製品一覧

検出番号 図版番号	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第29図55 図版16-1-55	二次加工のある剥片	黒曜石	13.68	17.55	6.86	1.59	下半部を欠損/背面中央に加撃し、剥離している/背面、裏面に二次加工/打面は二次加工によって欠如される	覆土中層
第29図56 図版16-1-56	二次加工のある剥片	黒曜石	18.37	12.05	5.08	0.77	ほぼ完形/打面を欠如/裏面に二次加工/周縁に微細彫離が連続する	覆土上層
第29図57 図版16-1-57	打製石斧	砂 岩	117.75	36.88	17.25	93.61	完形/短冊形/刃部は円刃/表面に原磨面/裏面一部に磨理面	覆土中層
第29図58 図版16-1-58	打製石斧	砂 岩	88.62	54.19	23.01	168.39	下半部を欠損/撥形/正面の原磨面、両側縁は研磨される/裏面は剥離後、研磨される	覆土上層
第29図59 図版16-1-59	打製石斧	砂 岩	52.44	39.45	18.25	46.27	下半部を欠損/分銅形/両側縁の抉り部分に載打整形痕あり	覆土中層
第29図60 図版16-1-60	磨 石	花崗岩	81.13	57.79	14.85	101.16	完形/楕円形/両面に研磨面/右側縁に載打痕・剥離面あり	覆土中層

(単位: cm, g)

第16表 187号住居跡出土石器一覧

55・56は二次加工のある剥片、57～59は打製石斧、60は磨石である。

## 188号住居跡

**遺 構** (第30・31図)

**[位 置]** 4区。

**[検出状況]** 住居南東側を検出した。遺構の大部分は調査区外にある。192 J を切り、12 P に切られる。部分的に攪乱を受けている。

**[構 造]** 平面形: 不明。南東コーナーは隅丸。規模: 不明。壁: 65～85°で立ち上がる。主軸方位: N-18°-W。壁溝: 上幅21～26cm/下幅10～15cm/深さ17～24cm。床面: 直床。床面の高さは概ね一定している。しっかりした硬化面は検出されなかった。炉: 検出されなかった。柱穴: P1～P3の3本を検出した。床面からの深さはP1: 41cm、P2: 40cm、P3: 22cm。

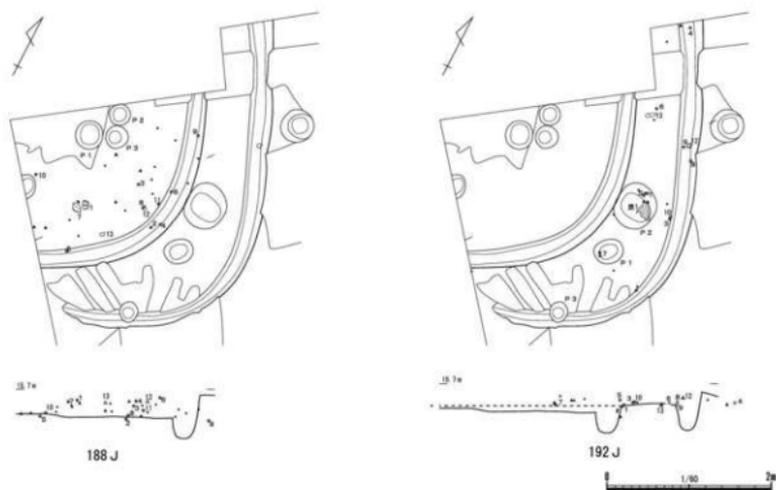
**[覆 土]** A-A'断面で12層に分層された。ローム粒子を含む暗褐色・暗茶褐色を基調とする覆土である。床面直上にはロームブロックを含む暗茶褐色土が薄く堆積する。

**[遺 物]** 住居南東コーナー付近からややまとまって土器・石器が出土した。垂直分布では、覆土上層から床面付近にかけて遺物が出土した。

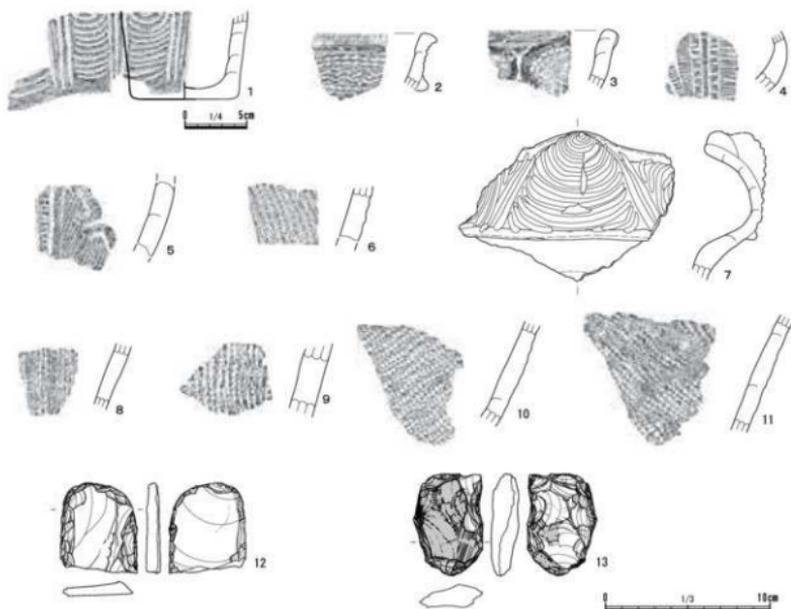
**[時 期]** 縄文時代中期中葉 (勝坂式期)。

**遺 物** (第32図、図版16-2、第17・18表)

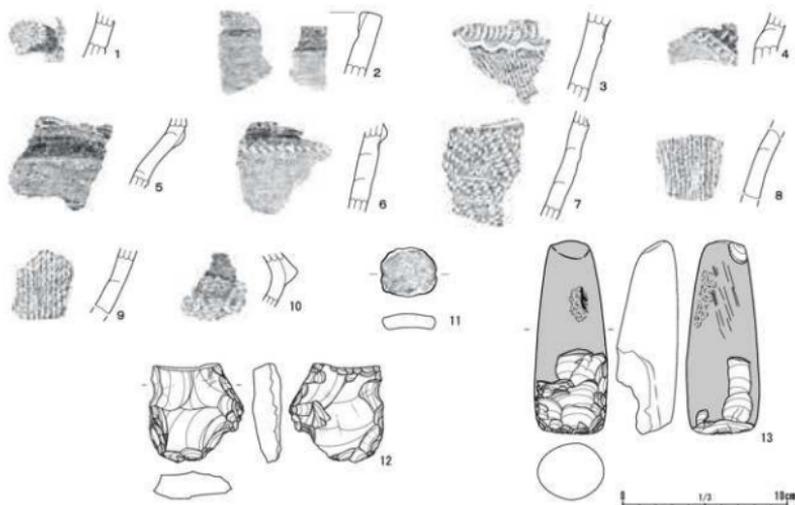




第31図 188・192号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第32図 188号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)



第33図 192号住居跡出土遺物(1/3)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時 期 式	出土位置
第32図1 図版16-2-1	深鉢	胴~底	高17.2] 底8.4 厚1.2	平底/胴部は垂直 気味に立ち上がる	3本一對の縦位沈線/沈線間に弧 状沈線文/色調は赤茶褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土上層
第32図2 図版16-2-2	深鉢	口縁	厚0.7	平縁	断面三角形の横位隆帯/隆帯脇に 2列の三角押文/2列の波状沈線 文/色調は淡い黄褐色	雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	南東コーナ ーの壁溝内
第32図3 図版16-2-3	深鉢	口縁	厚0.9	平縁	x字状の隆帯/隆帯脇に結節沈線 文/色調は淡い黄褐色	雲母・石英・砂粒 を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	覆土中層
第32図4 図版16-2-4	深鉢	胴	厚1.0	内湾する	縦位沈線後、連続刺突文、交互刺 突文/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	南東壁溝上の 覆土上層
第32図5 図版16-2-5	深鉢	胴	厚1.1	僅かに内湾し、外 積する	縦位沈線文、クランク文施文後、 RL単筋縄文で充填/連続刺突文 /色調は赤褐色	片岩・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	南東溝上の覆 土下層
第32図6 図版16-2-6	深鉢	胴	厚1.0	外積する	地文に0段3条のRL単筋縄文/ 色調は茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土上層
第32図7 図版16-2-7	深鉢	口縁	厚1.2	波状口縁/キャリ パー形	撥弧文/張り出し部は渦巻文/頸 部無文/色調は淡い橙色	橙色粒子・砂粒を 含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	覆土中層
第32図8 図版16-2-8	深鉢	胴	厚0.8	外積し、僅かに外 反する	地文にLの脈系文/色調は赤褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期	南東コーナ ーの床面直上
第32図9 図版16-2-9	深鉢	胴	厚1.6	外積する	地文にLの脈系文/色調は淡い橙 色	石英・砂粒を含む	縄文中期	東壁溝内
第32図10 図版16-2-10	深鉢	胴	厚1.0	外積する	地文にLR単筋縄文/色調は茶褐 色	石英・赤褐色粒子 ・砂粒を含む	縄文中期	床面直上
第32図11 図版16-2-11	深鉢	胴	厚0.9	外積する	地文にRL単筋縄文/色調は淡い 赤茶褐色	角閃石・砂粒・小 石を含む	縄文中期	覆土下層

第17表 188号住居跡出土土器一覽

検出番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第32図12 図版16-2-12	打製石斧	片岩	55.75	47.09	8.99	31.10	下半部を欠損/短冊形/四縁を細かな剥離で調整される	南東コーナーの覆土上層
第32図13 図版16-2-13	打製石斧	粘板岩	62.80	42.70	17.06	55.05	完形/短冊型/刃部は円刃/刃縁および表面の剥離面が摩耗している/正面一部に研磨面	南東コーナーの覆土上層

(単位: m, g)

第18表 188号住居跡出土石器一覧

検出番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第33図1 図版16-3-1	深鉢	胴	厚1.0	やや外傾する	隆帯筋に結節沈線文/色調は暗褐色	石英・雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	P2上 覆土下層
第33図2 図版16-3-2	深鉢	口縁	厚1.1	平縁	表面は無文/裏面口唇部に低い隆帯貼り付け/隆帯直下に横位沈線/色調は赤茶褐色	石英・角閃石・白色粒子・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝板式)	P2内覆土
第33図3 図版16-3-3	深鉢	胴	厚1.1	外傾する	連続爪形文、波状沈線文を横位筋文/胴部直下に縦、半筋縄文/色調は淡い褐色	雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝板式)	南東コーナーの覆土下層
第33図4 図版16-3-4	深鉢	胴	厚1.2	外傾する	刻みのある隆帯貼り付け/隆帯筋に半截竹管状工具による結節沈線文/色調は赤茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝板式)	東壁溝内 覆土
第33図5 図版16-3-5	深鉢	胴	厚0.8	キャリバー形?	横位隆帯貼り付け/隆帯筋に浅い沈線/胴部直下に縦、横位沈線/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒・小石を含む	縄文中期中葉 (勝板式?)	P2上 覆土中層
第33図6 図版16-3-6	深鉢	胴	厚1.2	僅かに外傾する	横位隆帯貼り付け/隆帯筋に三角押文/色調は赤褐色	角閃石・雲母・砂粒・小石を含む	縄文中期中葉 (勝板式)	覆土下層
第33図7 図版16-3-7	深鉢	胴	厚0.9	外傾する	胴部上位に横位沈線/沈線以下は縦、半筋縄文/色調は淡い褐色	石英・白色粒子・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝板式?)	P1上 覆土下層
第33図8 図版16-3-8	深鉢	胴	厚0.9	僅かに外反する	地文にLの器系文/色調は淡い黄褐色	角閃石・石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式?)	南東壁溝上の 覆土下層
第33図9 図版16-3-9	深鉢	胴	厚0.9	やや外傾する	地文にLの器系文/色調は褐色	角閃石・雲母・灰白色粒子・砂粒を含む	縄文中期	南東壁溝上の 覆土下層
第33図10 図版16-3-10	深鉢	胴	厚0.8	中位で屈曲する	断面三角形の隆帯を横位に貼り付け/縦、半筋縄文/色調は褐色	石英・砂粒・小石を含む	縄文中期	南東コーナーの 覆土下層

第19表 192号住居跡出土土器一覧

検出番号 図版番号	種別	遺存状態	長さ/幅/厚み	重量	特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第33図11 図版16-3-11	土器片鉢	完形	3.0/3.4/0.8	10.6	楕円形/挾部2ヶ所/肩縁部の摩耗は顕著/無文/色調は褐色	石英・白色粒子・砂粒を含む	縄文中期	覆土

(単位: cm, g)

第20表 192号住居跡出土土製品一覧

図版番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第33図12 図版16-3-12	打製石斧	砂岩	60.93	57.06	17.55	75.63	上半部を欠損/分製形/刃部は円刃	東壁溝上の 覆土上層
第33図13 図版16-3-13	磨製石斧	砂岩	118.90	44.79	37.57	299.36	刃部を欠損/乳棒形/刃部折損面から正面側に 再加工/裏面の剥離面、再加工部分の鋭縁、刃 部折損面の稜線が磨滅/裏面に敲打痕あり/裏 面に擦痕あり/磨製石斧折損後、敲石・磨石に 転用か	床面直上

(単位: mm, g)

第21表 192号住居跡出土石器一覧

[土器] (第32図1～11、図版16-2-1～11、第17表)

1・4～6は勝板式、2・3は阿玉台式、7は加曾利E1式、8～11は胴部に縄文、撫糸文の地文をもつ土器である。

[石器] (第32図12・13、図版16-2-12・13、第18表)

12・13は打製石斧である。

### 189号住居跡

**遺構** (第34図)

[位置] I区。

[検出状況] 住居南西側一部を検出した。遺構の大部分は調査区外にある。3・4Pに切られる。南側立ち上がり、住居内部に攪乱を受けている。

[構造] 平面形：不明。規模：不明。壁：70°程度で立ち上がる。主軸方位：不明。壁溝：検出されなかった。床面：直床。床面の高さは安定せず、南側立ち上がり付近の床面が中央部より5～12cm下がっている。硬化面は検出されなかった。炉：検出されなかった。柱穴：P1のみを検出した。床面からのP1の深さは17cm。

[覆土] 15層(2～16層)に分層された。住居外側から流れ込むような堆積を示し、覆土に大きなロームブロックが含まれないことから、自然堆積と思われる。

[遺物] P1付近からまとまって土器・石器が出土した。垂直分布では、覆土中層での遺物の出土が多い。

[時期] 縄文時代中期後葉(加曾利E1式期)か。

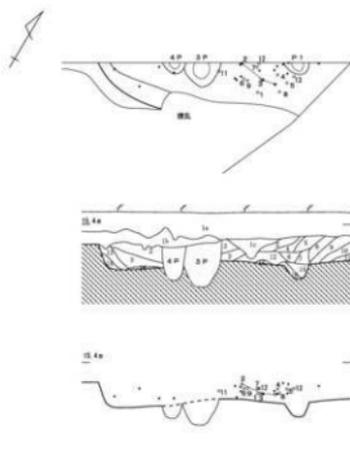
**遺物** (第35図、図版17-1、第22・23表)

[土器] (第35図1～12、図版17-1-1～12、第22表)

1・2は阿玉台式、3・4は勝板式、5～9は加曾利E1式、10は曾利式である。11は地文に撫糸文が施文される土器、12は台付鉢の脚台部である。

[石器] (第35図13、図版17-1-13、第23表)

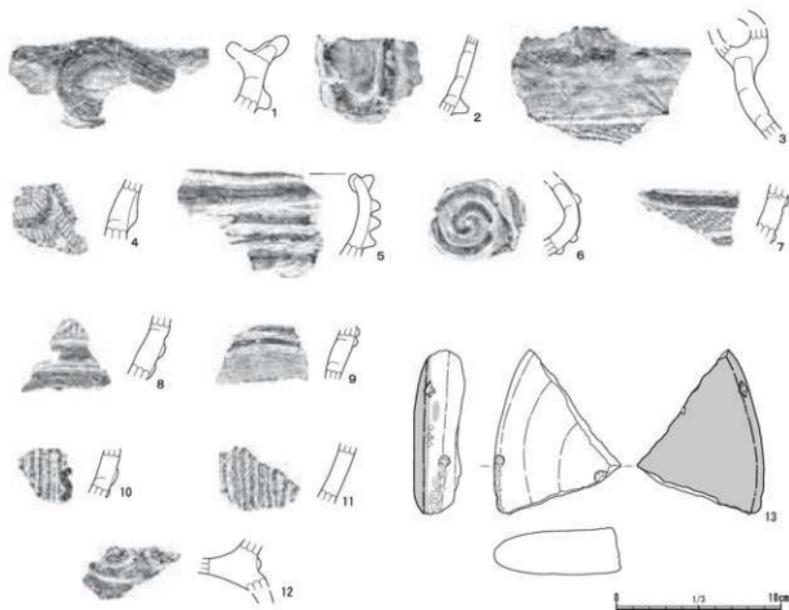
13は石皿である。側面に敲打痕、裏面に研磨面が認められ、裏面折損部の稜線が摩耗していることから、石皿折損後、磨石・敲石に転用されたと考えられる。



- 14層 粘土及び砂層。
- 15層 粘土。
- 2層 黄土及び礫瓦。
- 3層 暗茶褐色土 ローム小ブロック・炭化物粒子をやや多く、ローム粒子・黄土粒子・黄土小ブロックを含む。しまり塊。
- 4層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・黄土粒子・黄土小ブロックを含む。しまり塊。
- 5層 暗褐色土 炭化物粒子をやや多く、ローム粒子・ローム小ブロック・黄土粒子・黄土小ブロックを含む。しまり塊。
- 6層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。黄土粒子・黄土小ブロックを僅かに含む。しまり塊。
- 7層 暗茶褐色土 炭化物粒子をやや多く、ローム粒子・ローム小ブロック・黄土粒子を含む。黄土小ブロックを僅かに含む。しまり塊。
- 8層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。黄土粒子・黄土小ブロックを僅かに含む。しまり塊。
- 9層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。炭化物粒子・黄土粒子・黄土小ブロックを僅かに含む。しまり塊。
- 10層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり塊。
- 11層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり塊。
- 12層 暗褐色土 炭化物粒子をやや多く、ローム粒子・ローム小ブロック・黄土粒子・黄土小ブロックを含む。しまり塊。
- 13層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり塊。
- 14層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり塊。
- 15層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり塊。
- 16層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子・黄土粒子・黄土小ブロックを僅かに含む。しまり塊。



第34図 189号住居跡 (1/60)



第35図 189号住居跡出土遺物 (1/3)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第35図1 図版17-1-1	深鉢	口縁	厚1.3	小型突起/口唇が 内陥する	口唇に横位隆帯、環状の隆帯貼り 付け/外面赤彩/色調は淡い黄褐色	石英・雲母・砂粒 を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	覆土下層
第35図2 図版17-1-2	深鉢	胴	厚0.6	外積する	U字状の隆帯貼り付け/色調は淡 い黄褐色	雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	覆土上～ 下層
第35図3 図版17-1-3	深鉢	口縁	厚1.2	大型突起/やや内 積する	口縁部無文/突起は環状を呈す る/横位沈線を施文/沈線以下、 LR単節縄文/色調は淡い赤褐色	石英・雲母・砂粒 を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土下層
第35図4 図版17-1-4	深鉢	胴	厚1.3	やや外積する	隆帯による区画/隆帯脇に結節沈 線文/区画内に半円形突起/色調 は淡い褐色	角閃石・石英・砂 粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土中層
第35図5 図版17-1-5	深鉢	口縁	厚0.8	内湾する	口唇内側に隆帯貼り付け/口縁部 に4本の横位隆帯/口唇上に沈線 /色調は淡い茶褐色	石英・片岩・砂粒 を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	覆土中層
第35図6 図版17-1-6	深鉢	胴	厚0.9	内曲する	隆帯による渦巻文/色調は暗褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	覆土中層
第35図7 図版17-1-7	深鉢	胴	厚1.2	やや外積する	地文に乱単節縄文/隆沈線によ る区画/色調は赤褐色	角閃石・砂粒を含 む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	覆土中層
第35図8 図版17-1-8	深鉢	胴	厚1.1	外積する	隆沈線による横位区画/縦位沈線 施文後、斜位の沈線施文/色調は 淡い明褐色	角閃石・石英・白 色粒子・砂粒を含 む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	覆土下層
第35図9 図版17-1-9	深鉢	胴	厚0.9	外積する	横位隆帯貼り付け/隆帯上に半截 竹管状工具による沈線引き/色調 は暗褐色	角閃石・砂粒を含 む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	覆土中層
第35図10 図版17-1-10	深鉢	胴	厚1.0	やや外積する	地文に半截竹管状工具による条線 文/粘土層による能行文貼り付け /色調は淡い褐色	角閃石・砂粒含む	縄文中期後葉 (曾利式)	覆土
第35図11 図版17-1-11	深鉢	胴	厚1.0	外積する	地文にLの器糸文/色調は淡い褐 色	角閃石・石英・砂 粒を含む	縄文中期	覆土中層
第35図12 図版17-1-12	台付深 鉢?	胴部	厚1.2	胴部はやや外側に 開く	弧状文/横位沈線文/胴部底面に 磨き調整/色調は淡い赤褐色	角閃石・砂粒を含 む	縄文中期中葉 (勝坂式?)	覆土中層

第22表 189号住居跡出土土器一覽

探検番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第35図13 図版17-1-13	石皿	花崗岩	100.60	75.50	27.40	236.00	大部分を欠損/中央付近が僅かに凹む/左側面に 藪打痕および剥離面/裏面は研磨される/下 面の折損面の裏面側稜線が摩耗/石皿破損後、 磨石・砥石として再利用	南東コーナ ーの覆土上層

(単位: mm, g)

第23表 189号住居跡出土土器一覽

## 190号住居跡

## 遺 構 (第36図)

[位 置] 3区。

[検出状況] 住居南側一部を検出した。187 J に切られる。住居の大部分を攪乱により破壊されている。遺構の大部分は調査区外にある。

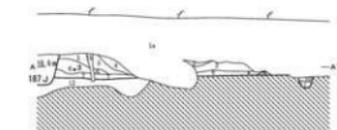
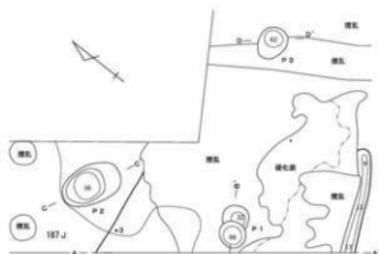
[構 造] 平面形：不明。規模：不明。壁：攪乱により検出されなかった。主軸方位：不明。壁溝：南側で一部を検出できた。上幅15~17cm/下幅5~7cm/深さ9~17cm。東側は攪乱により破壊される。床面：直床。床面の高さは一定している。硬化面は住居南側で検出された。炉：検出されなかった。柱穴：P1~P3の3本を検出した。確認した面からの深さはP1：32cm・66cm、P2：56cm、P3：62cm。

[覆 土] 10層(2~11層)に分層された。住居外側から流れ込むような堆積を示し、覆土に大きなロームブロックが含まれないことから、自然堆積と思われる。なお、12層は黄褐色土であるが、地山(立川ローム)ほどしまりはなく、ロームブロックが認められるため、倒木痕と判断した。

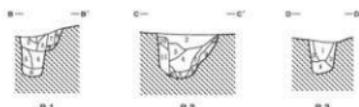
[遺 物] 住居の大半が攪乱を受けていたことから、遺物の出土は少なかった。

[時 期] 縄文時代中期中葉(勝坂式期)。

## 遺 物 (第37図、図版17-2、第24表)



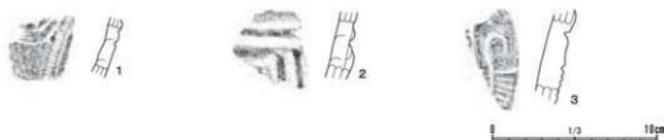
- A-A'
- 1層 黄 土
  - 2層 暗褐色土 炭化植物種子を含む、ローム粒子を塊状に含む、しまり強。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・炭化植物種子を含む、粘土粒子を塊状に含む、しまり強。
  - 4層 暗褐色土 粘土粒子を多く、ローム粒子・炭化植物種子を含む、しまり強。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子・炭化植物種子・焼土粒子を含む、ローム小ブロックを塊状に含む、しまり強。
  - 6層 暗赤褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含む、しまり強。
  - 7層 暗赤褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子を塊状に含む、しまり強。
  - 8層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまり強。
  - 9層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまり強。
  - 10層 黄褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを塊状に含む、しまり強。
  - 11層 黄褐色土 ローム小ブロック・ロームブロックを含む、ローム粒子を塊状に含む、しまり強。
  - 12層 黄褐色土



- B-B' P1
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを塊状に含む、しまり強。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、ローム小ブロックを塊状に含む、しまりや中強。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを塊状に含む、しまりや中強。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを塊状に含む、しまりや中強。
  - 5層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを塊状に含む、しまりや中強。
  - 6層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、ローム小ブロックを塊状に含む、しまり強。
  - 7層 黄褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子を塊状に含む、しまり強。
  - 8層 土に黄褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子を塊状に含む、しまり強。
- C-C' P2
- 1層 黄 土
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・炭化植物種子・炭化材を含む、しまり強。
  - 3層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまりや中強。
  - 4層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子を塊状に含む、しまりや中強。
  - 5層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまりや中強。
  - 6層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、ローム小ブロックを塊状に含む、しまり強。
  - 7層 暗赤褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子を塊状に含む、しまり強。
  - 8層 黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む、しまり強。
  - 9層 黄褐色土 ローム小ブロックを多く含む、しまり強。
  - 10層 暗赤褐色土 ローム小ブロックを多く含む、しまり強。
  - 11層 黄褐色土 ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む、しまり強。
- D-D' P3
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、しまり強。
  - 2層 暗赤褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む、しまり強。
  - 3層 土に黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む、しまりや中強。
  - 4層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまりや中強。

0 1 2m

第36図 190号住居跡 (1/60)



第37図 190号住居跡出土遺物(1/3)

検出番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 式	出土位置
第37図1 図版17-2-1	深鉢	胴	厚0.7	外横する	弧状文/縦位沈線脇に結節沈線文/色調は赤褐色	石英・片岩・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土
第37図2 図版17-2-2	深鉢	胴	厚0.9	やや外横する	隆帯を横位に貼り付け後、直行して縦位に隆帯貼り付け/隆帯脇に沈線/色調は淡い褐色	角閃石・石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土下層
第37図3 図版17-2-3	深鉢	胴	厚1.3	僅かに外横する	沈線による渦巻文/縦位沈線間に横位の連続沈線文を充填/色調は暗褐色	角閃石・雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	覆土中層

第24表 190号住居跡出土土器一覽

[土 器] (第37図1~3、図版17-2-1~3、第24表)

1~3は勝坂式である。

## 191号住居跡

**遺 構** (第38図)

[位 置] 1区。

[検出状況] 住居一部を検出した。壁の立ち上がりが検出されなかったため、住居部位は不明である。北東側を36方に切られる。住居内部は攪乱を受けている。遺構の大部分は調査区外にある。

[構 造] 平面形：不明。規模：不明。壁：検出されなかった。主軸方位：不明。壁溝：検出されなかった。床面：床面は北東から南西へ緩やかに傾斜している。硬化面は検出されなかった。床面下に18層が厚さ3~14cmで続いており、貼床と思われる。炉：検出されなかった。柱穴：P1~P5の5本を検出した。床面からの深さはP1:44cm、P2:21cm、P3:24cm、P4:18cm、P5:22cm。

[覆 土] 17層(2~18層)に分層された。18層は貼床土と思われる。なお、19層はにぶい黄褐色土で、地山(川川ローム)ほどしまりはなく、20層はロームブロック主体の黄褐色土で、分層線が塊状を示す。このことから、19・20層は倒木痕と判断した。

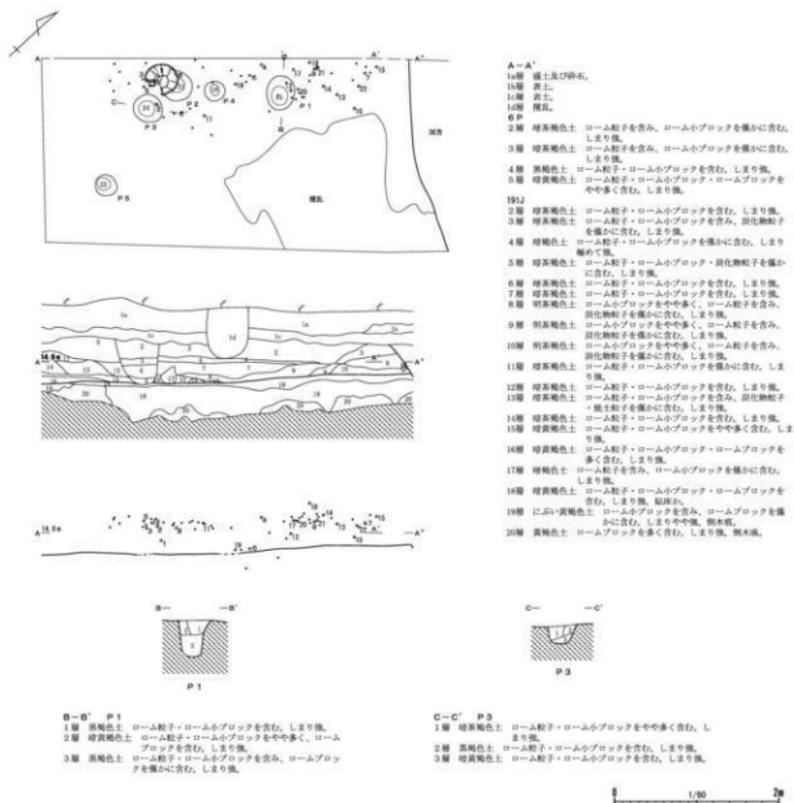
[遺 物] P1~P4付近から遺物が多く出土した。垂直分布では、覆土上層から下層にかけて遺物が出土したが、特に覆土上層からの出土が多かった。第39図1は正位の状態では覆土中層から出土。P2と平面分布が重複する。

[時 期] 縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ式期)。

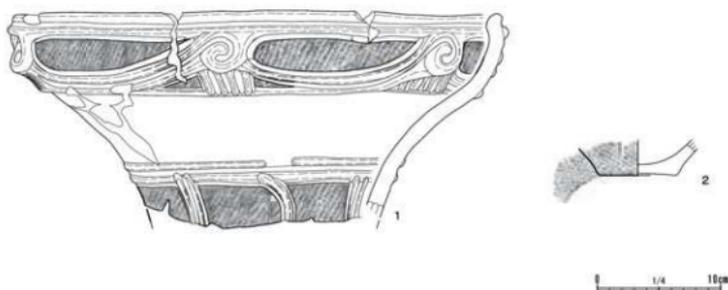
**遺 物** (第39・40図、図版17-3、図版18-1、第25・26表)

[土 器] (第39・40図1~20、図版17-3-1~7、図版18-1-8~20、第25表)

1・2・11~14は加曾利EⅡ式である。1の口縁部文様帯に渦巻状の突起が4カ所認められる。欠



第38図 191号住居跡 (1/60)



第39図 191号住居跡出土遺物1 (1/4)



第40図 191号住居跡出土遺物2(1/3)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (m)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第39図1 図版17-3-1	深鉢	口縁～胴	口38.6 厚1.2	平縁／キョリバー形	楕円形の区画文／区画文内にRL単節縄文を充填後、区画隆帯脇に沈線／区画文間に渦巻状の突起／突起は4方所認められる／突起下に短い隆沈線／頸部無文／頸部と胴部の間に縦位隆帯／胴部に蛇行文、2本一対の懸垂文／胴部地文にRL単節縄文／色調は淡い褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土中層
第39図2 図版17-3-2	深鉢	底	高12.9 底6.3 厚0.8	平底／底面中央が僅かに上がる／胴部は外積する	地文はLR単節縄文／沈線による3本一対の懸垂文／色調は赤茶褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	P3上の覆土上層
第40図3 図版17-3-3	深鉢	胴	厚0.8	やや外積する	断面三角形の隆帯貼り付け／隆帯脇に結節沈線文／ヒダ状圧痕／色調は淡い褐色	石英・雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	覆土上層
第40図4 図版17-3-4	深鉢	胴	厚0.8	やや外積する	結節沈線文／色調は赤茶褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝板式)	覆土上層
第40図5 図版17-3-5	深鉢	胴	厚1.0	外積する	横位の押引文／色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝板式)	覆土上層
第40図6 図版17-3-6	深鉢	胴	厚0.9	やや外反する	矢羽状の刻みのある隆帯を斜位に貼り付け／隆帯に沿って沈線文、刺突文／色調は褐色	角閃石・石英・砂粒・小石を含む	縄文中期中葉 (勝板式)	床面直上
第40図7 図版17-3-7	深鉢	胴	厚1.0	外積する	刻みのある隆帯で区画後、隆帯脇に沈線、区画内に縦位沈線文／色調は淡い褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝板式)	覆土上層
第40図8 図版18-1-8	深鉢	胴	厚1.0	外積する	地文に0段3条RL単節縄文／色調は茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝板式)	P2上の覆土上層
第40図9 図版18-1-9	深鉢	口縁	厚0.9	平縁／内湾しながら僅かに上がる	地文にLの懸垂文／横位隆帯貼り付け／色調は暗茶褐色	角閃石・石英・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅠ式)	覆土上層
第40図10 図版18-1-10	深鉢	口縁	厚0.9	内積する	口唇の隆帯削かれ／地文にLの懸垂文／沈線による区画／弧状文／色調は暗茶褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅠ式)	覆土中層
第40図11 図版18-1-11	深鉢	胴	厚1.0	僅かに外積する	縦位条線文／2本一対の縦位隆帯貼り付け／色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第40図12 図版18-1-12	深鉢	胴	厚0.8	やや外積する	地文にLの懸垂文／隆帯による蛇行懸垂文？／色調は暗褐色	角閃石・赤褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	P1上の覆土中層
第40図13 図版18-1-13	深鉢	胴	厚1.1	外反する	地文にRL単節縄文／横位隆帯貼り付け／沈線による蛇行懸垂文？／色調は茶褐色	角閃石・褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第40図14 図版18-1-14	深鉢	胴	厚0.9	胴部から頸部にかけて僅かに外反する	頸部縄文／3本の横位沈線／地文にRL単節縄文／2本一対の懸垂文／色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利EⅡ式)	覆土上層
第40図15 図版18-1-15	深鉢	胴	厚1.0	僅かに外側に屈曲する	地文にLの懸垂文／色調は淡い茶褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期	覆土上層
第40図16 図版18-1-16	深鉢	胴	厚1.0	やや外積する	地文にLの懸垂文／色調は褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期	覆土上層
第40図17 図版18-1-17	深鉢	胴	厚0.8	やや外積する	地文にLの懸垂文／色調は褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期	覆土上層
第40図18 図版18-1-18	深鉢	胴	厚0.9	僅かに外積する	地文にRL単節縄文／色調は茶褐色	角閃石・白色粒子・砂粒を含む	縄文中期	覆土上層
第40図19 図版18-1-19	深鉢	胴	厚1.0	底部付近／僅かに外積する	地文に半截竹管状工具による縦位の条線／色調は淡い褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉	床面直上
第40図20 図版18-1-20	浅鉢	口縁	厚0.9	平縁／口唇部が肥大	無文／色調は赤褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期	覆土上層

第25表 191号住居跡出土土器一覧

図版番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第40図21 図版18-1-21	打製石斧	チャート	56.20	34.08	14.22	31.84	下半部を欠損／短冊形／正面に原礫面あり／両側縁に敲打整形痕あり	覆土中層
第40図22 図版18-1-22	敲石	砂岩	116.11	48.77	39.28	357.19	下部を欠損／両側面に敲打痕／正面の剥離面縁が摩耗／裏面に研磨面	覆土中層

(単位: mm, g)

第26表 191号住居跡出土石器一覧

損箇所があるが、突起の単位は全体で6単位と思われる。3は阿玉台式、4～8は勝坂式、9・10は加曾利E1式、15～18は地文に縄文、燃糸文が施される土器である。19は地文に半蔵竹管状工具による縦位条線が施される土器、20は無文の浅鉢である。

[石器] (第40図21・22、図版18-1-21・22、第26表)

21は打製石斧、22は敲石である。

## 192号住居跡

**遺構** (第30・31図)

[位置] 4区。

[検出状況] 住居南東側を検出した。遺構の大部分は調査区外にある。188 J に切られる。南側・東側の床面、立ち上がりを部分的に攪乱される。

[構造] 平面形：不明。南東コーナーは隅丸。規模：不明。壁：85°程度で立ち上がる。主軸方位：N-24°-W。壁溝：上幅18～27cm/下幅5～13cm/深さ13～38cm。床面：直床。硬化面は検出されなかった。炉：検出されなかった。柱穴：P1～P3の3本を検出した。P3は壁溝と重複する。床面からの深さはP1：58cm、P2：70cm、P3：30cm。

[覆土] A-A'断面で9層（14～22層）に分層された。住居覆土は外から内へ流れ込むような堆積を示している。

[遺物] 遺物が散漫に出土した。垂直分布では覆土中層から下層にまとまる。第33図4・8・9・12は壁溝と平面分布が重なるが、壁溝内からではなく、住居覆土中からの出土である。また、P2上に炭化材が検出された。炭化材の樹種同定を行った結果、イネ科であった（付編 自然科学分析107ページを参照）。

[時期] 縄文時代中期中葉（勝坂式期）。

**遺物** (第33図、図版16-3、第19～21表)

[土器] (第33図1～10、図版16-3-1～10、第19表)

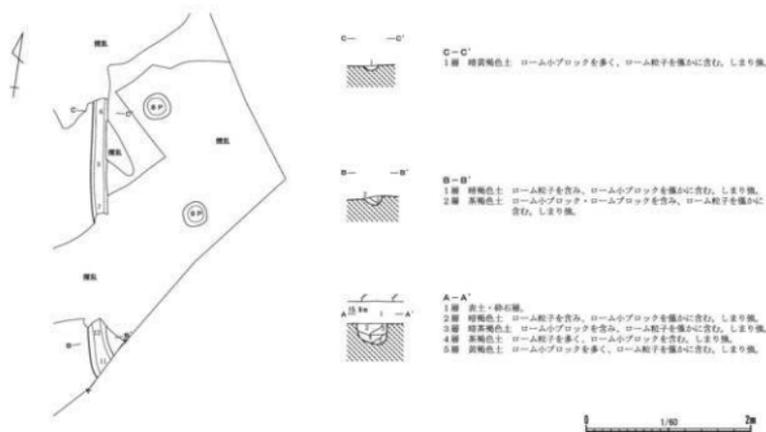
1は阿玉台式、2～7は勝坂式、8～10は地文に縄文、燃糸文が施文される土器である。

[土製品] (第33図11、図版16-3-11、第20表)

11は土器片鉢である。

[石器] (第33図12・13、図版16-3-12・13、第21表)

12は打製石斧、13は磨製石斧である。



第41図 193号住居跡(1/60)

## 193号住居跡

遺構 (第41図)

[位置] 4区。

[検出状況] 住居床面までを攪乱で破壊されていたため、壁溝のみの検出であった。遺構の大部分は調査区外にある。

[構造] 平面形：不明。規模：不明。壁：攪乱により検出されなかった。主軸方位：N-8°-W。

壁溝：西側で一部を検出できた。南西でコーナーに一部差し掛かる。北西は攪乱で破壊される。上幅18~35cm/下幅10~20cm/深さ5~12cm。床面：攪乱により破壊される。炉：検出されなかった。

柱穴：検出されなかった。

[覆土] 壁溝の覆土のみ確認できた。

[遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 不明。覆土の観察から縄文時代とした。

## (3) 土坑

## 810号土坑

遺構 (第42図)

[位置] 2区。

[検出状況] 北東側が攪乱により破壊され、詳細不明である。

[構造] 平面形：不明。規模：不明/深さ12cm。壁：50°~80°で立ち上がる。長軸方位：不明。

[覆土] 2層に分層された。

[遺物] 縄文時代の土器片が出土した。

[時期] 縄文時代中期中葉。

**遺物** (第43図、図版18-2、第27表)

[土器] (第43図1、図版18-2-1、第27表)

1は縄文時代中期中葉の土器である。

811号土坑

**遺構** (第42図)

[位置] 3区。

[検出状況] 南側一部を攪乱で破壊される。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸0.66m/短軸0.49m/深さ16cm。壁：60°程度で皿状に立ち上がる。長軸方位：N-43°-W。

[覆土] 3層に分層された。

[遺物] 出土しなかった。

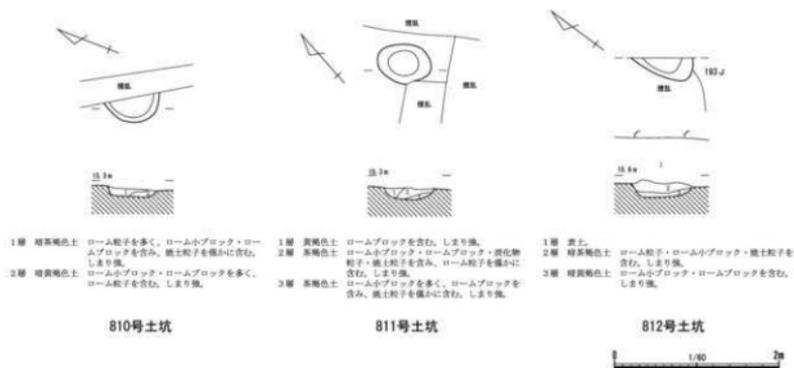
[時期] 覆土の観察から縄文時代と思われる。

812号土坑

**遺構** (第42図)

[位置] 4区。

[検出状況] 南西側を攪乱により一部は破壊される。調査区際での検出のため、土坑の東側は調査区外に延びる。



第42図 土坑 (1/60)



第43図 810号土坑出土遺物 (1/3)

探検番号 図版番号	遺構 種別	部位	法量 (cm)	図形・形態	文様・特徴	胎土	時期 形式	出土位置
第43図1 図版18-2-1	深鉢	口縁	厚0.7	平縁／僅かに外積する	無文／色調は淡い褐色	雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉	覆土

第27表 810号土坑出土土器一覧

- [構造] 平面形：不明。規模：不明／深さ8cm。壁：皿状に緩やかに立ち上がる。長軸方位：不明。  
 [覆土] 2層（2・3層）に分層された。  
 [遺物] 出土しなかった。  
 [時期] 覆土の観察から縄文時代と思われる。

#### (4) ピット（第24・44・45図、図版18—3、第28・29表）

本地点で検出されたピットは計12本（1～12P）である。そのうち、4Pは近世以降であり、それ以外は縄文時代の所産である。

遺物が出土したピットは全部で5本（1・7～9・12P）であった。ここでは、遺物が出土したピットについて詳述することとする。なお、各ピットの内容については、第28表に示した。

##### 1号ピット

**遺構**（第24図）

[位置] 2区。

[検出状況] 一部攪乱を受けている。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸36cm／短軸33cm／深さ46cm。

[覆土] 単層である。

[遺物] 縄文時代中期の土器片が出土したが、小破片のため図示できなかった。

[時期] 縄文時代中期。

##### 7号ピット

**遺構**（第44図）

[位置] 4区。

[検出状況] 西側一部に攪乱を受けている。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸41cm／短軸40cm／深さ46cm。

[覆土] 4層に分層された。

[遺物] 縄文時代の土器片が出土した。

[時期] 縄文時代中期中葉（勝版式期）。

**遺物**（第45図1、図版18—3—1、第29表）

[土器]（第45図1、図版18—3—1、第29表）

1は勝版式である。

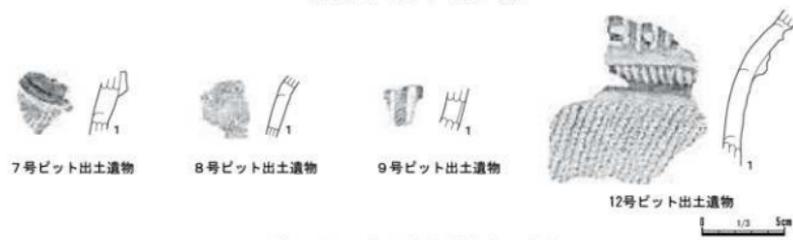
##### 8号ピット

**遺構**（第44図）



- 14層 磁土及び砂石層。  
15層 表土。  
16層 表土及び埋土。
- 4P  
1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。  
2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。  
3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。  
4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。  
5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。  
6層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり強。  
7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。  
8層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。  
9層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。  
10層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。  
11層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり強。  
12層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。  
13層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。  
14層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。  
15層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。  
16層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。

第44図 ビット (1/60)



第45図 ビット出土遺物 (1/3)

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
1P	2区	円形	36	33	46	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材を僅かに含む暗茶褐色土	土器片1点	縄文中期
2P	3区	楕円形か	不明	不明	76	6層	なし	縄文時代
3P	1区	楕円形か	不明	不明	30	5層/189Jを切る	なし	縄文時代
4P	1区	楕円形か	不明	不明	17	4層/189Jを切る	なし	近世以降
5P	3区	不明	不明	不明	25	ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を含む暗褐色土を基調とする/187Jを切る/187JのA-A'断面図(第25図)に掲載	なし	縄文時代
6P	1区	不明	不明	不明	55	4層/191Jを切る/191JのA-A'断面図(第38図)に掲載	なし	縄文時代
7P	4区	円形	41	40	46	4層	土器片1点	縄文中期中葉(勝版式)
8P	4区	隅丸方形	33	31	35	5層	土器片1点	縄文中期
9P	4区	隅丸方形	30	29	31	5層	土器片1点	縄文中期中葉(勝版式)
10P	4区	不整形円形	24	23	37	5層	なし	縄文時代
11P	4区	不整形円形	28	24	28	4層/812Dに切られる	なし	縄文時代
12P	4区	楕円形か	30	不明	64	4層/188Jを切る	土器片1点	縄文中期中葉(勝版式)

第28表 ビット一覧

検出番号 図版番号	遺構名	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 形式
第45図1 図版18-3-1	7P	深鉢	胴	厚0.9	僅かに外積する	断面方形の跡帯をやや弧状に貼り付け/地文にRL単筋縄文/色調は赤茶褐色	片岩・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝版式)
第45図1 図版18-3-1	8P	深鉢	胴	厚0.8	やや外積する	無文/色調は暗褐色	角閃石・石英・砂粒を含む	縄文中期
第45図1 図版18-3-1	9P	深鉢	胴	厚1.0	僅かに外積する	刻みのある跡帯を縦位に貼り付け/隆帯部に沈線/連続爪形文を縦位施文/色調は赤茶褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝版式)
第45図1 図版18-3-1	12P	深鉢	胴	厚1.1	胴部中位で外反する	縦位沈線/縦位沈線間に円形刺突文/刻みのある跡帯を横位に貼り付け/隆帯以下はRL単筋縄文を縦位施文/色調は褐色	角閃石・砂粒・小石を含む	縄文中期中葉 (勝版式)

第29表 ビット出土土器一覧

[位置] 4区。

[検出状況] 上面を攪乱で破壊される。

[構造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸33cm/短軸31cm/深さ35cm。

[覆土] 5層に分層された。

[遺物] 縄文時代の土器片が出土した。

[時期] 縄文時代中期。

[遺物] (第45図1、図版18-3-1、第29表)

[土器] (第45図1、図版18-3-1、第29表)

1は縄文時代中期の土器である。

## 9号ピット

**遺構** (第44図)

**位置** 4区。

**検出状況** 上面を攪乱で破壊される。

**構造** 平面形：隅丸方形。規模：長軸30cm/短軸29cm/深さ31cm。

**覆土** 5層に分層された。

**遺物** 縄文時代の土器片が出土した。

**時期** 縄文時代中期中葉（勝坂式期）。

**遺物** (第45図1、図版18-3-1、第29表)

**土器** (第45図1、図版18-3-1、第29表)

1は勝坂式である。

## 12号ピット

**遺構** (第44図)

**位置** 4区。

**検出状況** 188 Jを切る。半分のみ検出。南側は調査区外へ延びる。

**構造** 平面形：楕円形か。規模：長軸30cm/短軸不明。/深さ64cm。

**覆土** 4層（2～5層）に分層された。

**遺物** 縄文時代の土器片が出土した。

**時期** 188 J（縄文時代中期中葉）を切ることから、縄文時代中期中葉以降と考えられ、出土遺物を加味すると、縄文時代中期中葉（勝坂式期）と考えられる。

**遺物** (第45図1、図版18-3-1、第29表)

**土器** (第45図1、図版18-3-1、第29表)

1は勝坂式である。

## (5) 方形周溝墓

### 36号方形周溝墓

**遺構** (第46図)

**位置** 1区。

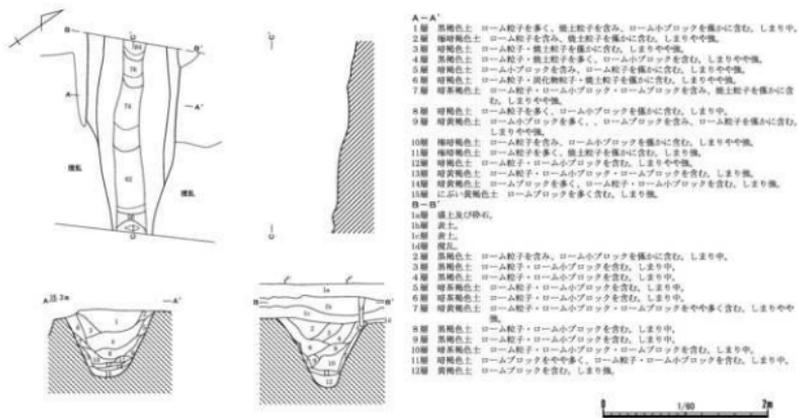
**検出状況** 189・191 Jを切る。本地点調査範囲では、本遺構の北西側と南東側は調査区外であるため、基本的な形状は不明である。

**周溝の構造** 平面形：溝状。規模：B-B'土層断面から、長さ：2.40m/上幅1.20m/下幅0.30m/深さ0.8m。壁：B-B'土層断面から、左右ともに65°で立ち上がる。長軸方位：N-45°-W。

**覆土** B-B'土層断面から15層に分層された。

**遺物** 出土しなかった。

**時期** 弥生時代後期～古墳時代前期か。



第46図 36号方形周溝墓 (1/60)

## (6) 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の遺物、近世の遺物に分類する。

### (1) 縄文時代の遺物 (第47・48図、図版18-4、図版19、第30～33表)

[石器] (第47図1～4、図版18-4-1～4、第30表)

1は石核、2・3は打製石斧、4は二次加工のある剥片である。

[土器] (第47図5～26、第48図27～39、図版19-5～39、第31表)

5～37は中期の土器である。5は初頭の五領ヶ台式土器、6～8は中葉の阿玉台式土器、9～20は中葉の勝坂式土器である。21～31は後葉の加曾利EⅠ式土器、32～34は後葉の加曾利EⅡ式土器、35は後葉の加曾利EⅢ式土器、36は後葉の加曾利EⅣ式土器である。37は後葉の加曾利EⅢ～Ⅳ式土器であり、両耳壺の破片である。

38・39は後期の土器で、38は前葉の堀之内Ⅰ式土器、39は中葉の加曾利B式土器で、粗製土器と思われる。

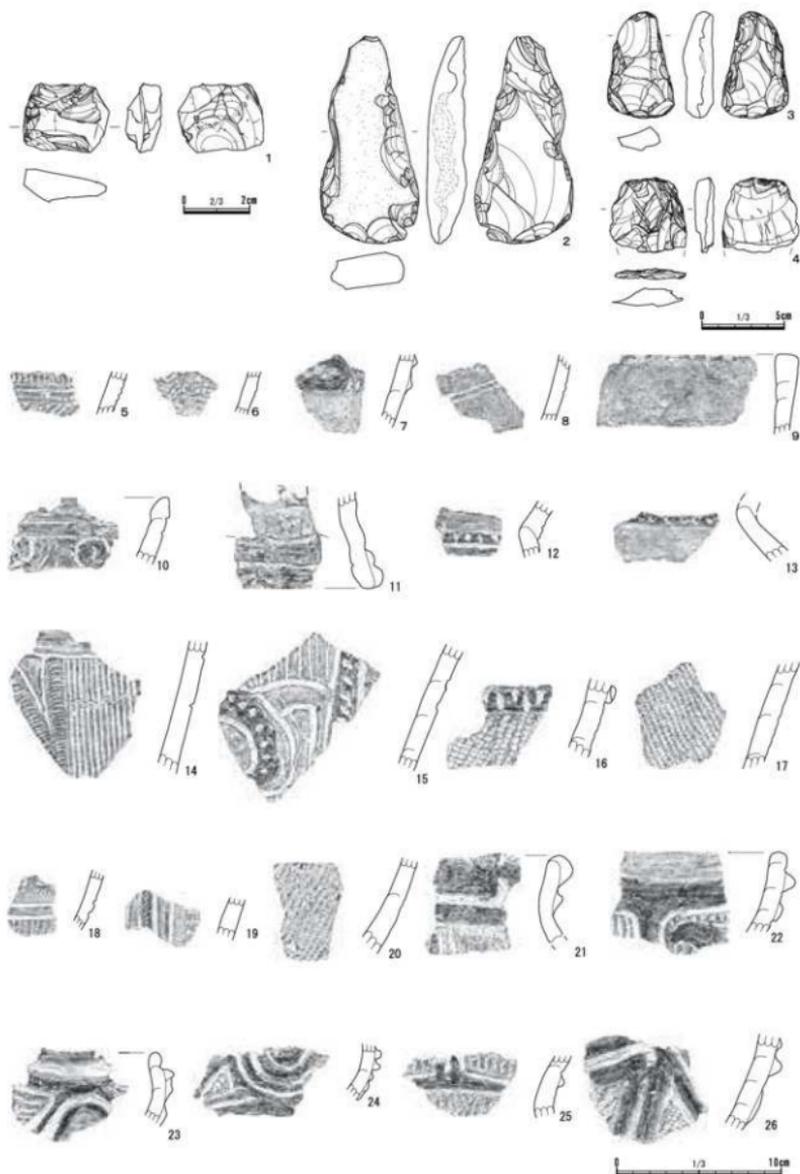
[土製品] (第48図40、図版19-40、第32表)

40は土器片鏃である。

### (2) 近世の遺物 (図版19-41・42、第33表)

[陶磁器] (図版19-41・42、第33表)

41は磁器、42は陶器である。



第47図 遺構外出土遺物I (2/3・1/3)



第48図 遺構外出土遺物2 (1/3)

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第47図1 図版18-4-1	石核	黒曜石	21.49	26.33	11.21	5.40	下部を欠損／裏面にポジティブ・バルブが観察されることから、剥片を石核としている／正面には上端からの剥離面／裏面には下端、左側縁からの剥離面	36方
第47図2 図版18-4-2	打製石斧	砂岩	127.22	60.12	24.51	204.66	完形／楕形／刃部は円刃／正面に原礫面／左側縁の一部に抉りあり／左側縁抉り部、右側縁が潰れ状の敲打面となる	4区 種乱
第47図3 図版18-4-3	打製石斧	砂岩	65.22	41.00	18.66	57.32	完形／楕形／刃部は円刃／正面の一部に原礫面／両側縁に敲打整形痕あり	3区 種乱
第47図4 図版18-4-4	二次加工のある 剥片	片岩	46.18	46.98	12.01	27.74	下半部を欠損／背面構成は上位、下位、右横からの剥離面／裏面上端部に二次加工剥離面／打面は二次加工により欠如／打製石斧の調整剥片か	36方

(単位: mm, g)

第30表 遺構外出土石器一覧

検出番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型	出土位置
第47図5 図版19-5	深鉢	胴	厚0.9	やや外積する	半載竹管状工具による縦位、横位、斜位の沈線文/色調は淡い黄褐色	雲母・砂粒を含む	縄文中期初葉 (五頭ヶ台式)	1区 遺構外
第47図6 図版19-6	深鉢	胴	厚0.7	やや外積する	半載竹管状工具による結節沈線文/色調は赤褐色	雲母・石英・白色砂粒を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	表採
第47図7 図版19-7	深鉢	胴	厚0.9	やや外積する	断面三角形の隆帯を横U字状に貼り付け/隆帯横から連続刺突文/色調は褐色	雲母・石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	1区 遺構外
第47図8 図版19-8	深鉢	胴	厚0.8	やや外積する	半載竹管状工具による横位の沈線文/色調は淡い茶褐色	雲母・石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	表採
第47図9 図版19-9	深鉢	口縁	厚0.9	平縁/直立する/ 口唇部が肥大する	無文/口唇は平組に面取り/色調は淡い褐色	雲母・石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	3区 視乱
第47図10 図版19-10	深鉢	口縁	厚1.1	口縁は僅かに外反する	沈線による横線文、円形文、弧線文/色調は赤褐色	褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	36方
第47図11 図版19-11	台形土器	胴部	厚1.2	僅かに内積する	胴部に2カ所の孔が認められる/ 左側の孔は三角形か/胴部末端に隆帯貼り付け後、横位沈線/色調は淡い黄褐色	砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	1区 視乱
第47図12 図版19-12	浅鉢	胴	厚1.0	胴部中で屈曲する	屈曲部に2本の横位沈線を施した後、沈線間に交互刺突文/色調は褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	36方
第47図13 図版19-13	深鉢	胴	厚1.1	胴部上位で屈曲する	半載竹管状工具による連続刺突文/外面は黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	36方
第47図14 図版19-14	深鉢	胴	厚1.2	やや外積する	上位に2本の横位沈線/縦位、斜位の連続爪形文/半載竹管状工具による縦位の条線を施した後、横位の深沈線/色調は赤茶褐色	砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	36方
第47図15 図版19-15	深鉢	胴	厚1.1	やや外積する	連続円形刺突のある隆帯貼り付け/隆帯脇に沈線/へう状工具による縦位条線文/色調は褐色	石英・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	表採
第47図16 図版19-16	深鉢	胴	厚1.3	僅かに外積する	交互刺突のある横位隆帯/隆帯以下はRL単節縄文/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	表採
第47図17 図版19-17	深鉢	胴	厚1.2	僅かに外積する	地文は0段3条のLR単節縄文を縦位施文/色調は淡い褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	表採
第47図18 図版19-18	深鉢	胴	厚0.7	僅かに外積する	上位から沈線文、横位連続爪形文、2本の横位沈線、RL単節縄文を縦位施文/色調は淡い黄褐色	石英・砂粒・小石を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	36方
第47図19 図版19-19	深鉢	胴	厚1.0	僅かに外積する	刻みのある縦位隆帯/隆帯脇に沈線/縦位に連続爪形文/爪形文横に結節沈線文/色調は茶褐色	黄褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	表採
第47図20 図版19-20	深鉢	胴	厚1.2	やや外積する	地文は0段3条?のRL単節縄文を縦位施文/色調は淡い黄褐色	角閃石・褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期中葉 (勝坂式)	36方
第47図21 図版19-21	深鉢	口縁	厚1.0	平縁/口縁部で屈曲する/ 口唇部がやや肥大する	突起部に弧状文/口縁部と胴部の間に横位隆帯/胴部にRの窓糸文を縦位施文、縦位隆帯/色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	36方
第47図22 図版19-22	深鉢	口縁	厚1.1	平縁/僅かに外積する	隆帯による横円形区画文/区画内に縦位沈線、渦巻状?の隆帯文/区画内側の縁に沈線/色調は茶褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	4区 視乱

第31表 遺構外出土縄文土器一覧(1)

検出番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第47図23 図版19-23	深鉢	口縁	厚0.9	僅かに内湾する	隆帯による区画文、弧状文/区画内にLの帯系文を縦位施文/区画内側の縁に沈線/色調は赤茶褐色	砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	1区 遺構外
第47図24 図版19-24	深鉢	胴	厚0.9	僅かに内湾する	隆帯による同心円文/地文にRL?単節縄文/色調は深い黄褐色	砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	36方
第47図25 図版19-25	深鉢	胴	厚0.9	やや外反する	地文にLの帯系文を縦位施文/2本一対の隆帯隆帯、1本の横位隆帯/色調は淡い橙色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	36方
第47図26 図版19-26	深鉢	胴	厚1.1	僅かに外積する	地文にRL単節縄文を縦位施文/2本一対の隆帯貼り付け/渦巻文/色調は黒褐色	角閃石・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	1区 遺構外
第48図27 図版19-27	深鉢	胴	厚1.1	外積する	地文にLR単節縄文を横位施文/上位に浅い横位沈線/縦位隆帯/隆帯上端に瘤/瘤の両端から横位沈線/隆帯脇に沈線/色調は淡い茶褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	3区 掘乱
第48図28 図版19-28	深鉢	胴	厚1.0	やや外積する	地文にLの帯系文を縦位施文/縦位、横位の隆帯/隆帯上、隆帯脇に沈線/色調は淡い橙色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	36方
第48図29 図版19-29	深鉢	胴	厚1.0	ほぼ直立する	地文にLの帯系文を縦位施文/1本の縦位隆帯/隆帯による弧状文で隆帯中央に沈線/色調は淡い橙色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	1区 掘乱
第48図30 図版19-30	深鉢	胴	厚1.0	ほぼ直立する	地文にLの帯系文を縦位施文/色調は淡い橙色	砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	36方
第48図31 図版19-31	深鉢	胴	厚1.0	僅かに外積する	地文にLの帯系文を縦位施文/色調は赤褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E1式)	1区 掘乱
第48図32 図版19-32	深鉢	口縁	厚1.0	平縁/丸みをもつ/口唇は僅かに外に屈曲する	横位隆帯による区画/区画内にLR単節縄文を横位施文/縄文施文後、区画内側の隆帯脇に沈線/色調は茶褐色	角閃石・白色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E2式)	1区 掘乱
第48図33 図版19-33	深鉢	胴	厚1.2	ほぼ直立する	地文にLの帯系文を縦位施文/3本の横位沈線、1本の縦位沈線/色調は黒褐色	褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E2式)	表探
第48図34 図版19-34	深鉢	胴	厚1.3	ほぼ直立する	地文にRL単節縄文を縦位施文/横位沈線/3本一対の沈線による帯系文/色調は黒褐色	白色粒子・砂粒・小石を含む	縄文中期後葉 (加曾利E2式)	36方
第48図35 図版19-35	深鉢	口縁	厚0.9	平縁/内湾する	隆帯沈線による渦巻文/色調は淡い黄褐色	褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E3式)	36方
第48図36 図版19-36	深鉢	口縁	厚1.2	平縁/僅かに内湾する/口唇部分が僅かに膨大する	地文にRL単節縄文を縦位施文/色調は茶褐色	角閃石・褐色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E4式)	36方
第48図37 図版19-37	深鉢	胴	厚0.7	両耳瘤/内湾する	頸部は無文/地文にLR単節縄文/隆帯による横位区画/色調は淡い黄褐色	角閃石・白色粒子・砂粒を含む	縄文中期後葉 (加曾利E3~IV式)	36方
第48図38 図版19-38	深鉢	胴	厚0.5	やや外積する	縦位沈線/色調は淡い橙色	角閃石・砂粒を含む	縄文後期前葉 (堀之内I1式)	36方
第48図39 図版19-39	深鉢	胴	厚0.7	僅かに外積する	粗製土器か/地文に縦位の条線文/色調は淡い橙色	石英・砂粒を含む	縄文後期中葉 (加曾利B3式)	36方

第31表 遺構外出土縄文土器一覧(2)

標記番号 図版番号	種別	遺存状態	長さ/幅/厚み	法量 (cm)	特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第48図40 図版19-40	土器片鏝	左側縁欠	5.2/4.0/0.9	23.6	袂部1ヶ所/肩縁部の摩耗は顕著/ 隆帯部に2列の結節状線文/色調は淡い橙色	石英・雲母・砂粒を含む	縄文中期中葉 (阿玉台式)	表採

(単位: cm, g)

第32表 遺構外出土土製品一覧

図版番号	種別	器種 (cm)	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
図版19-41	磁器	皿	高3.7	染付/高台あり/内面: 文様あり、外面: 唐草文、團縁/ 口縁部~底部破片	肥前系	2区南瓦	近 世 (18c後半)
図版19-42	陶器	皿	厚0.3	内外面に灰釉/胎土の色調は灰褐色/胎土は精錬されている/ 口縁部小破片	瀬戸・美濃	187 J	近 世 (17c中)

第33表 遺構外出土陶磁器一覧

## 第4章 西原大塚遺跡第227地点の調査

### 第1節 遺跡の概要

第2章第1節 西原大塚遺跡第220地点の調査（8ページ）を参照。

### 第2節 調査の経緯

#### （1）調査に至る経過

平成30年11月、J Aあさか野から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市幸町3丁目7174番（面積1,112.00㎡）地内に分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228-09-007）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

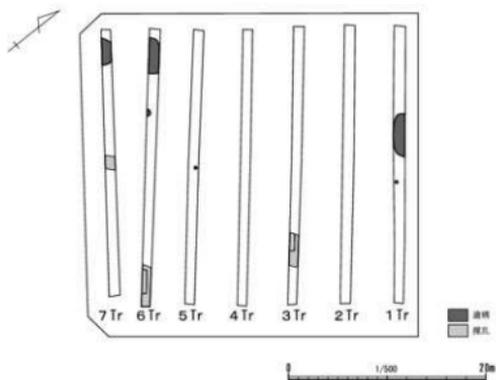
12月4日、教育委員会は、J Aあさか野を通し、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受理し、西原大塚遺跡第227地点として、12月12～14日の3日間で確認調査を実施した。確認調査は、第49図に示すように調査区内に7本のトレンチ（1～7 Tr）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の土坑1基、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡3軒、ピット2本を確認した。調査の全体的内容では、遺構の密度はあまりなく、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡が点在する状況と言える。

教育委員会は、この結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。平成31年1月7日にJ Aあさか野と埋蔵文化財の保存措置について協議を行った。その結果、分譲住宅全11棟建設予定のうち、遺構が検出された区画は、1・2・5・6号棟の4棟分であったが、1・2号棟の遺構検出部分については、十分な文化財保護層が確保できることから、盛土保存とし、7～11号棟については、遺構が検出されなかったことから、慎重工事とし、1・2号棟の一部、3・4号棟については、十分な文化財保護層が確保できないため、発掘調査を実施することに決定した。

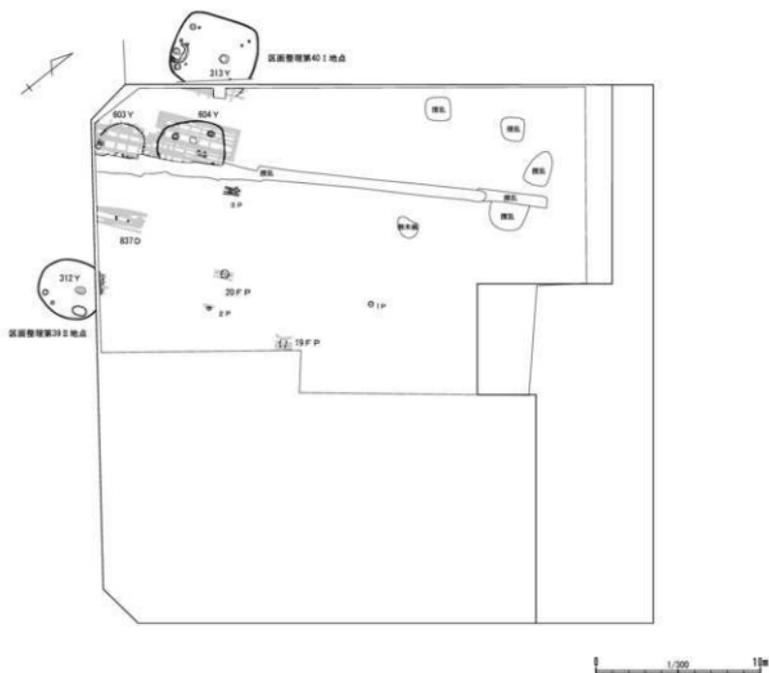
1月29日、工事主体者より志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出されたため、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第2条第2項に基づき、2月26日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

3月5日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

教育委員会は、3月1日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出



第49図 確認調査時の遺構分布 (1/500)



第50図 遺構分布図 (1/300)

し、3月5日から発掘調査を実施した。

## (2) 発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第34表の発掘調査工程表に示した。

- 3月5日 発掘調査を開始する。重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を調査区南西端から開始する。残土置場は慎重工事部分とした。
- 6日 表土剥ぎ作業2日目。同時に人員を導入し、調査機材搬入、調査区整備、遺構確認作業を行い、本日中に調査区南側の遺構検出状況の写真撮影を完了した。弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（313・603・604 Y）の精査を開始する。313 Yを完掘する。
- 7日 表土剥ぎ作業3日目。雨天のため、遺構精査については中止する。
- 8日 表土剥ぎ作業4日目。603・604 Yで床面を検出する。313・603・604 Yの断面写真撮影を行う。
- 11日 雨天のため、現場を中止する。
- 12日 表土剥ぎ作業5日目。本日で表土剥ぎ作業を終了する。調査区北側の遺構確認作業を行い、遺構検出状況の写真撮影を完了した。その後、遺構の精査に入る。313 Yでは、耕作による攪乱を除去し、遺構完掘の写真撮影を行う。603・604 Yでは、土層断面を記録後、土層観察用ベルトを掘削し、遺物及び炭化材出土状況の写真撮影を行う。
- 13日 縄文時代の炉穴（19・20 F P）の精査を開始する。19・20 F Pともに被熱赤化面のみを検出であった。本日中に完掘し、断面図および平面図を作成し、精査を終了する。弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（312 Y）の精査を開始する。完掘および断面の写真撮影を行い、平面図を作成し、調査を終了する。313 Yの掘り方の精査を開始する。603・604 Yでは完掘の写真撮影を行う。
- 14日 縄文時代の土坑（837 D）の精査を開始する。本日中に完掘し、断面図および平面図を作成し、精査を終了する。313 Yでは、掘り方の完掘写真撮影を行い、断面図に掘り方を追加し、精査を終了する。603・604 Yの平面図を作成する。
- 15日 603・604 Yの炉跡の精査を行う。耕作の攪乱を除去し、完掘写真撮影を行う。604 Yの精査を終了する。

	平成31年3月				
	5(1)	10(1)	15(1)	20(1)	25(1)
表土剥ぎ作業	3(5)		3(12)		
縄文時代					
837D			3(14)		
19FP			3(13)		
20FP			3(13)		
弥生時代					
312Y			3(13)		
313Y	3(6)			3(14)	
603Y	3(6)			3(15)	
604Y	3(6)			3(18)	
埋戻し作業				3(22)	3(28)

第34表 西原大塚遺跡第227地点の発掘調査工程表

- 18日 603 Yの掘り方の精査を行う。掘り方の断面を写真撮影し、断面図・平面図を作成し、603 Yの精査を終了し、すべての遺構精査を完了する。
- 22日 埋め戻し作業を開始する。26日に埋め戻しを完了する。

### 第3節 検出された遺構・遺物

#### (1) 概要

本地点からは、縄文時代の炉穴2基(19・20 F P)・土坑1基(837 D)、弥生時代後期末葉～古墳時代初期頭の住居跡4軒(312・313・603・604 Y)、時期不明のピット3本(1～3 P)が検出された。なお、312・313 Yは、西原地区特定土地区画整理事業に伴う発掘調査において、すでに検出されており、大半が調査されているものであった。

#### (2) 住居跡

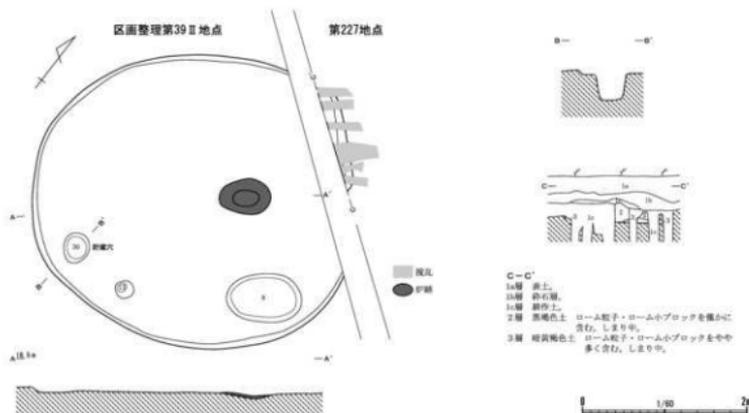
##### 312号住居跡

###### 遺構 (第51図)

[位置] 調査区南西端。

[検出状況] 区画整理第39Ⅱ地点で遺構の大半が調査されており、今回の調査では、北東コーナー付近の一部を検出した。耕作による攪乱が著しい。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸3.83m/短軸3.60m/遺構確認面からの深さ6cm程度。壁：70～80°の角度で立ち上がる。主軸方位：N-55°-E。壁溝：検出されなかった。床面：耕作による攪乱を多く受けているが、残存部分では平坦である。壁際と炉の周辺を除き硬化面が認められている。



第51図 312号住居跡(1/60)



一部を検出した。耕作による攪乱が著しい。

**[構 造]** 平面形：隅丸長方形。規模：長軸5.15m/短軸4.50m/今回の調査では表土剥ぎ後すぐに床面の検出であった。壁：B-B'断面の観察から、70°程の角度で立ち上がる。主軸方位：N-60°-E。壁溝：検出されなかった。床面：今回調査した範囲ではしまりのある床面を確認できた。炉：住居中央からやや東に寄って位置する。長軸57cm・短軸55cmの楕円形を呈する地床炉で、掘り込みの深さは2cm。貯蔵穴：住居南西コーナー付近に位置する。43×39cmの楕円形を呈し、深さは25cm。周囲には幅23cm前後で高さ2～12cmの凸堤が「コ」字状に巡らされている。柱穴：各コーナーにある4本が主柱穴と思われる。赤色砂利層：貯蔵穴のすぐ東横の、南コーナー際から検出されている。115×30cm程の楕円形の範囲をもつ。凸堤に一部範囲が重なる。入口施設：南西壁中央付近に位置する柱穴が入口梯子穴と考えられる。掘り方：今回調査したA-A'、B-B'断面で確認した。10～14cm程度の深さの掘り込みである。

**[覆 土]** 今回の調査では7層(2～8層)に分層される。2～6層は住居覆土、7・8層は貼床土である。

**[遺 物]** 区画整理第401地点で、壺、高環、甕が出土している(佐々木・内野・宮川 2009を参照)。今回の調査では遺物は出土しなかった。

**[時 期]** 弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

### 603号住居跡

**[遺 構]** (第53図)

**[位 置]** 調査区西隅。

**[検出状況]** 全体に耕作による攪乱が著しい。住居南東側は大きな攪乱によって破壊されている。

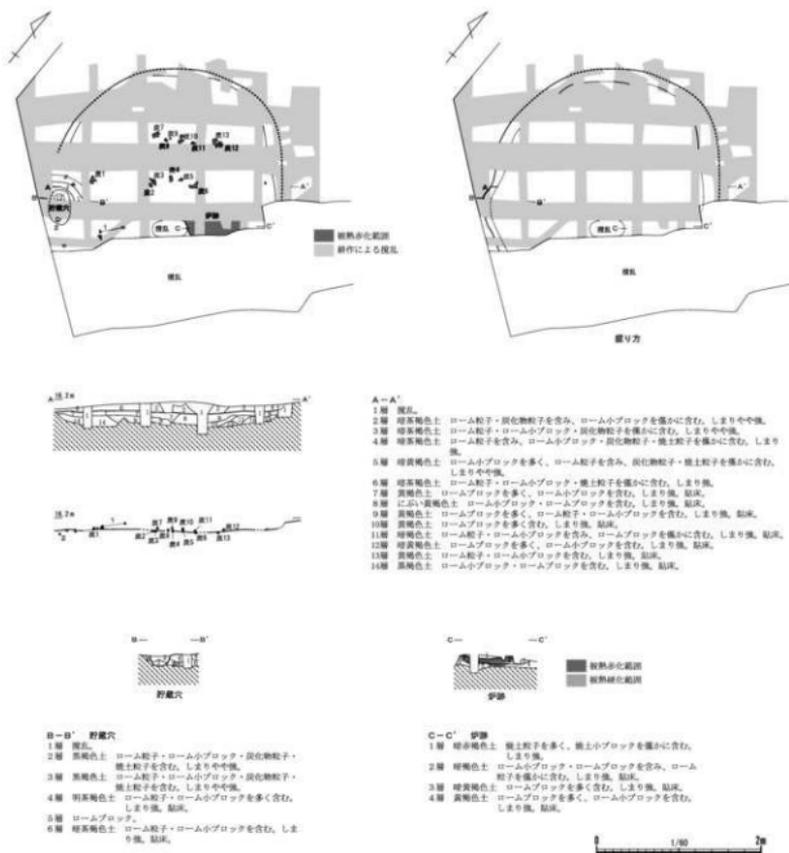
**[構 造]** 平面形：円形。規模：不明。長軸は2.80m程度/遺構確認面からの深さ3～8cm。壁：緩やかに立ち上がる。主軸方位：N-63°-E。壁溝：確認されなかった。床面：硬化まではいかないが、全体的にしまりのある面であった。炉：住居中央からやや南東側に寄って位置する。長軸65cm程度の楕円形と思われる地床炉で、掘り込みは貼床土内で完結する。掘り込みの深さは3cmで、厚さ8cm程に被熱赤化していた。炉の上端・下端は攪乱の影響で確認できなかった。貯蔵穴：住居南西壁際から検出された。42×25cmの楕円形を呈し、深さは12cm。覆土は2層に分層され、黒褐色土を基調とする。幅18cm前後で高さ4cm程度の凸堤が、貯蔵穴北側の上端と隣接して巡らされている。南側の凸堤は攪乱の影響のため確認できなかった。柱穴：主柱穴は検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：確認されなかった。掘り方：住居の一回り内側全体を10～19cm程度の深さで掘り込まれている。

**[覆 土]** A-A'断面で13層(2～14層)に分層される。2～6層は住居覆土で、7～14は貼床土である。

**[遺 物]** 鉢・壺の破片が僅かに出土した。平面分布としては、貯蔵穴およびその周辺からの出土が多い。また、床面上からは炭化材がまとまって出土した。炭化材の樹種同定を行った結果、すべてクリであった(付編 自然科学分析108ページを参照)。

**[時 期]** 弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

**[所 見]** 床面上から炭化材がまとまって出土したため、本住居跡は焼失住居と思われる。



第53図 603号住居跡 (1/60)



第54図 603号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

探検番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特徴	色調	胎土	調整	出土位置	埋存度
第54図1 図版23-1-1	鉢	高19.3 口(16.4)	口縁部は内湾する／内外面に赤彩	胎土は暗赤褐色	砂粒を含む	内外面：上半部は横方向、下半部は斜方向のやや粗いヘラ磨き調整	南側の覆土中(ほぼ床面上)から散在的	30%
第54図2 図版23-1-2	壺	高11.4 底(8.0)	平底／底部を除き外面に赤彩	胎土は明黄色を基調	黄褐色粒子・橙黄色粒子・砂粒をやや多く、角閃石を僅かに含む	内外面：ヘラ磨き調整	貯蔵穴内の覆土上層	底部30%
第54図3 図版23-1-3	壺	厚0.9	胴部文様帯は1R単節斜縄文の上部に2条の自縄結節文がまわる／外面無文部に赤彩	胎土は明赤褐色	黄褐色粒子を含む	内面：頸部はヘラ磨き調整、胴部はヘラナデ／外面：無文部はヘラ磨き調整	覆土中	頸部～胴部破片

第35表 603号住居跡出土土器一覽

**遺物** (第54図1～3、図版23-1-1～3、第35表)

1は鉢形土器、2・3は壺形土器である。

## 604号住居跡

**遺構** (第55図)

〔位置〕 調査区西隅付近。

〔検出状況〕 全体に耕作による攪乱が著しい。住居南東側は大きな攪乱によって破壊されている。

〔構造〕 平面形：楕円形。規模：不明。長軸は4.10m程度と思われる。／遺構確認面からの深さ7～14cm。壁：75°程の角度で立ち上がる。主軸方位：N-34°-E。壁溝：確認されなかった。床面：硬化まではいかないが、全体的にしまりのある面であった。炉：住居中央からやや北東側に寄って位置する。長軸55cm程・短軸不明の楕円形と思われる地床炉で、掘り込みの深さは2cm程度、厚さ4cm程に被熱赤化していた。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：主柱穴は住居北隅、東隅、西隅から1本ずつ計3本検出された。南隅の主柱穴は存在したと思われるが、攪乱が深かったため、確認できなかった。P1は攪乱によって南半分を破壊される。直径は23cm程で、深さは30cm。P2は部分的に耕作による攪乱を受ける。現況で41×35cmの楕円形で、深さは65cm。P3は部分的に耕作による攪乱を受け、現況で45×30cmの楕円形で、深さは68cm。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：検出されなかった。その他：住居中央からやや西付近に被熱による硬化した床面を検出した。範囲は46×35cm。

〔覆土〕 18層に分層される。

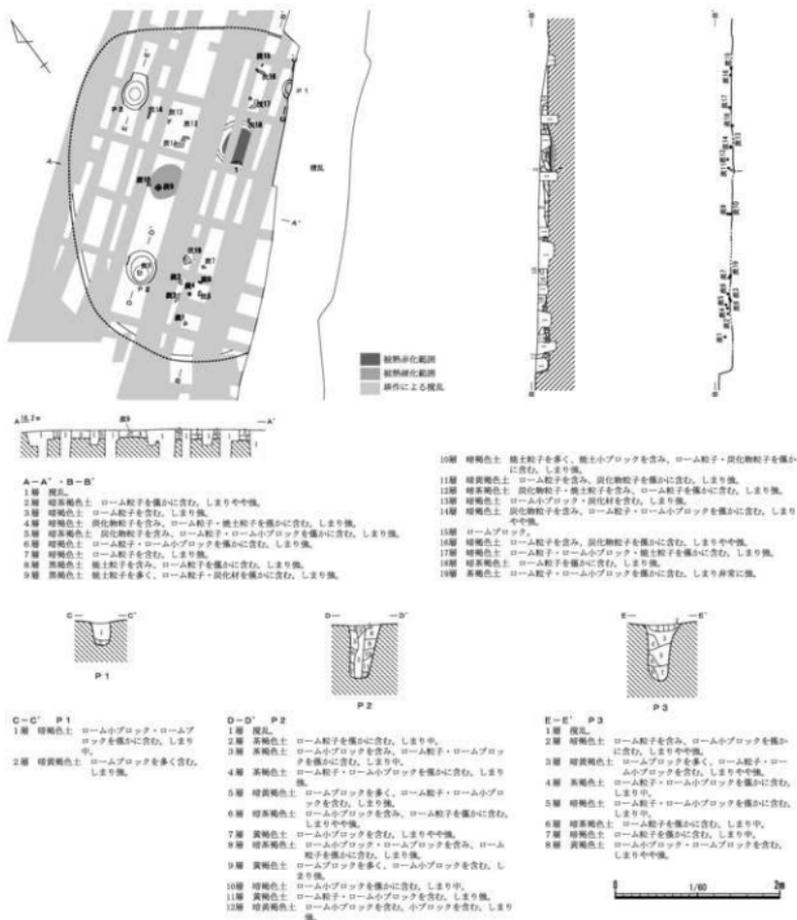
〔遺物〕 壺の破片1点が炉の南西端に立った状態で出土した。また、床面上からは炭化材がまとまって出土した。炭化材の樹種同定を行った結果、すべてクヌギ節であった(付編 自然科学分析108ページを参照)。

〔時期〕 弥生時代後期末葉～古墳時代初頭。

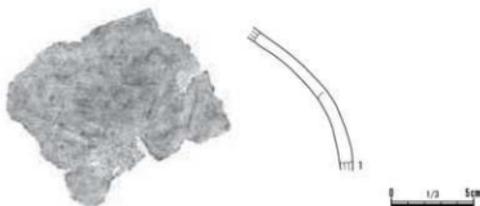
〔所見〕 床面上から炭化材がまとまって出土したため、本住居跡は焼失住居と思われる。

**遺物** (第56図1、図版23-2-1、第36表)

1は壺形土器である。



第55図 604号住居跡(1/60)



第56図 604号住居跡出土遺物(1/3)

探検番号 図版番号	器種	法量 (cm)	特徴	色調	胎土	調整	出土位置	遺存度
第56図1 図版23-2-1	壺	厚0.8	外面は赤彩であるが、内面も赤彩か	胎土は暗黄色を基調	黄褐色粒子・角閃石・砂粒を僅かに含む	内外面：横方向にヘラ磨き調整	炉体土器	胴部破片

第36表 604号住居跡出土土器一覧

### (3) 炉穴

#### 19号炉穴

**遺構** (第57図)

[位置] 調査区南端。

[検出状況] 大部分が破壊され、確認できたのは被熱部分のみである。

[構造] 平面形：楕円形か。規模：不明。壁：不明。長軸方位：不明。被熱赤化範囲は42cm以上×39cm。被熱赤化の厚みはほとんどなかった。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 被熱赤化の様子から縄文時代と思われる。

#### 20号炉穴

**遺構** (第57図)

[位置] 調査区南側。

[検出状況] 大部分が破壊され、詳細不明である。

[構造] 平面形：楕円形か。規模：長軸49cm程度／短軸45cm／深さ7cm。壁：不明。長軸方位：N-50°-W。坑底中央に被熱部分が確認できた。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 被熱赤化の様子から縄文時代と思われる。

### (4) 土坑

#### 837号土坑

**遺構** (第58図)

[位置] 調査区南端。

[検出状況] 大部分が破壊され、詳細不明である。

[構造] 平面形：楕円形か。規模：長軸82cm／短軸は不明／深さ6cm。壁：血状に立ち上がる。長軸方位：N-58°-E。

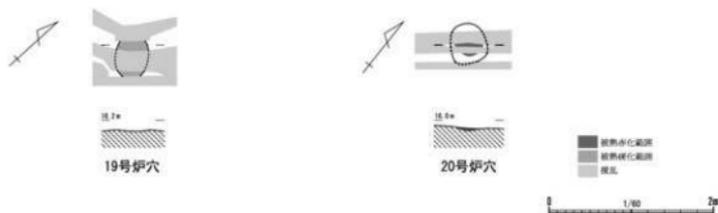
[覆土] 2層に分層された。

[遺物] 出土しなかった。

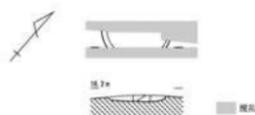
[時期] 覆土の観察から縄文時代と思われる。

### (5) ピット

ピットとして捉えられた遺構は、3本(1～3P)である。すべてのピットで遺物は出土しなかった



第57図 炉穴 (1/60)



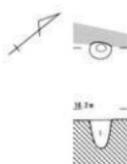
- 1層 赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む、しまりやや強。  
 2層 黄褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子を僅かに含む、しまりやや強。

第58図 837号土坑 (1/60)



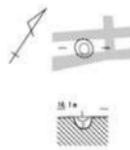
- 1層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまりやや強。  
 2層 明黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む、しまりやや強。  
 3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、しまり強。

1号ピット



- 1層 黄褐色土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまり強。

2号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む、しまりやや強。  
 2層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む、炭化物粒子を僅かに含む、しまりやや強。

3号ピット

第59図 ピット (1/60)

ため、時期については不明である。

### 1号ピット

#### 遺構 (第59図)

[位置] 調査区中央からやや東に位置する。

[検出状況] 切り合う遺構はない。

[構造] 平面形：円形。規模：径33cm/深さ21cm。

[覆土] 3層に分層された。

### 2号ピット

#### 遺構 (第59図)

[位置] 調査区南側に位置する。

[検出状況] 耕作による攪乱で一部破壊される。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸26cm/短軸20cm/深さ35cm。

[覆土] 単層である。

### 3号ピット

#### 遺構 (第59図)

[位置] 調査区西側に位置する。

[検出状況] 耕作による攪乱で一部破壊される。

[構造] 平面形：円形。規模：径22cm/深さ15cm。

[覆土] 2層に分層された。

## (6) 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

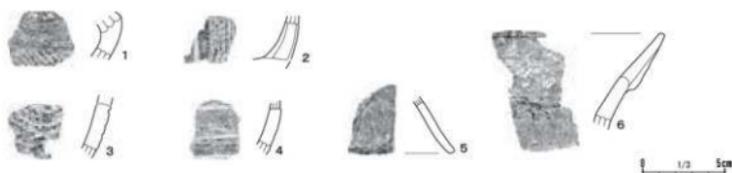
今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器、弥生時代後期～古墳時代前期の土器に分類する。

#### ① 縄文時代の土器 (第60図1～4、図版23-3-1～4、第37表)

1は中期の土器と思われる。2は中期後葉(加曾利EⅡ式)の土器である。3・4は後期前葉の土器で、3は堀之内1式、4は堀之内2式である。

#### ② 弥生時代後期～古墳時代前期の土器 (第60図5・6、図版23-3-5・6、第37表)

5は高坏形土器、6は壺形土器である。



第60図 遺構外出土遺物 (1 / 3)

標記番号 図版番号	器種 種別	部位	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時 期 式	出土遺構 出土位置
第60図1 図版23-3-1	深鉢	口縁	厚 1.0	口縁が内傾する	地文はRLの単節縄文を横位に施文／色調は赤褐色	砂粒を含む	縄文時代中期	遺構外
第60図2 図版23-3-2	深鉢	胴	厚 0.7	底部付近／胴部はほぼ直立する	地文はLの標糸文を縦位に施文／隆帯2本一對の懸垂文／色調は褐色	角閃石・石英・砂粒を含む	縄文時代中期後葉 (加曾利E II式)	遺構外
第60図3 図版23-3-3	深鉢	胴	厚 0.9	やや外傾する	沈線による弧線文／色調は淡い褐色	石英・砂粒を含む	縄文時代後期前葉 (堀之内1式)	遺構外
第60図4 図版23-3-4	深鉢	胴	厚 0.7	僅かに外傾する	RL単節縄文を横位施文後、横位沈線による区画文／色調は淡い黄褐色	角閃石・砂粒を含む	縄文時代後期前葉 (堀之内2式)	遺構外
第60図5 図版23-3-5	高坏	脚台部	厚 0.4	未広がりに関く裾部	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整／端部に横ナデ／色調は淡い黄褐色	砂粒を僅かに含む	弥生時代後期 ～古墳時代前期	遺構外
第60図6 図版23-3-6	甕	口縁	厚 0.9	幅広い複合口縁	口唇を面取り後、LR単節縄文を施文／口縁部にLR単節縄文／内外面：磨き調整、赤彩／色調は淡い褐色	褐色粒子を含み、砂粒・小石を僅かに含む	弥生時代後期 ～古墳時代前期	遺構外

第37表 遺構外出土土器一覽

## 第5章 調査のまとめ

本書は平成30年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第220・222・227地点の発掘調査報告書である。ここでは、各地点における調査成果をまとめることにする。

### 第1節 西原大塚遺跡第220地点の調査成果

#### (1) 旧石器時代の遺構・遺物について

旧石器時代の調査では、16号石器集中地点(16U)・1号礫群(1礫)を検出した。16U・1礫は、本地点の北側に隣接する西原大塚遺跡第224地点でも確認されており、今回は16U・1礫の南側を調査したことになる。

16Uの編年的位置づけについては、出土点数が乏しく、層位的な情報によるもの大きい。16Uの石器は立川ローム第V層上位からの出土で、層位的には安定している。いわゆる立川ローム第V層上部～IV層中・下部(諏訪間・野口・島立 2010)段階に相当する。なお、第224地点で出土しているナイフ形石器は、不定形剥片を素材とし、打面部側を背として二次加工が施され、切出形を呈しており、立川ローム第V層上部～IV層中・下部から出土するナイフ形石器の特徴を有する。定型的な石器が少なく型式学的な検討は不十分ではあるが、16Uの編年的位置としては、武蔵野Ⅱa期(小田 1980)と考えられよう。また、1礫も16Uと平面分布が重複し、出土層位が立川ローム第IV～V層であることから、同時期の所産として考えられる。

本地点の出土した石器は2点であり、いずれも大型で厚手の剥片である。石材はホルンフェルス、チャートであり、石材を異にする。また、今回の調査では、これ以外の薄手の調整剥片やチップは出土しなかった。第224地点側でも剥片、チップは出土していないことから、1礫周辺では石器製作は行われていないと考えられる。すなわち、第6図1・2の剥片は、その場で生産された剥片ではなく、外からの搬入品として理解できる。礫群の規模からしても、小規模な礫群であることから、ごく一時的な滞在であったと考えられ、それが石器製作の有無や石器点数に関連しているものと思われる。16Uと1礫は礫群の使用と道具利用との具体的な関係を探る小規模単位の事例となろう。

#### (2) 中世以降の遺構について

中世以降の遺構としては、土坑23基(813～826・828～836D)・井戸跡1基(9W)・道路状遺構1本(1道)・ピット34本(1～34P)が検出された。また、9W以東には浅く削平された段切状遺構が広がっているとの所見を得られた。ここでは、9Wと1道に注目したい。

##### 1. 9号井戸跡について

9Wは長軸3.74mを測る大型の井戸跡であり、南側は調査区外へ延びる。形態の特徴としては、井戸開口部は円形であり、壁は漏斗状を呈し、井戸跡北東側には逆「L」字状の平面を有する。出土遺物は磁器碗、陶器搦鉢、甕、板碑などである。出土遺物の年代は、磁器碗(第16図1)が18世紀後半

であるが、図版6-3-3の播鉢が14世紀代、図版6-3-2・4の播鉢が15世紀中頃、板碑（図版6-3-6）が紀年銘に「正長二」とあることから、正長2年（1429年）である。中世の遺物がまとまる傾向にあることから、井戸跡の年代は14～15世紀中頃と考えられる。西原大塚遺跡における中世の井戸跡は、西原大塚遺跡第213地点で8Wが検出されている（尾形・大久保・深井・青木 2019）。8Wは規模2.15×1.95mで、9Wより小さく、平場は構築されていない。

なお、市内における井戸跡の例を見てみると、明瞭な平場を有した大型の井戸跡の事例は、今のところ城山遺跡第42地点の22Wの1例のみである（尾形・深井・青木 2005）。22Wはテラス部への連絡は直線的なスロープになっているタイプである。時期については、板碑2点のみの出土で詳細時期は不明であるが、中世の所産のものと考えてよいであろう。

## 2. 1号道路状遺構について

1道は、調査区に硬化面が認められ、道路状遺構として認識された。硬化面の走行方位は東西方向であり、東端で9Wと接し、南へ屈曲する。西端では調査区外へ延びていき、西側の斜面地に向かっていく。掘り方は、硬化面と同様に東西方向に掘り込まれている。特に調査区西端では、西側の斜面地へ向かって下る階段状を呈している。なお、階段状の掘り方の上で超硬化面が検出されている。階段状の掘り方と超硬化面との関連は不明だが、第12図A-A'、C-C'断面を見ると、覆土の様子から埋め戻されたと思われる、階段の埋め戻し後、平坦にし、地盤を固めたと想定できる。1道の出土遺物は中世（14世紀）～近世（19世紀中頃）であり、時期幅を持つ。遺構同士の新旧関係からみると、1道は14世紀とされる833Dを壊し、15世紀後半とされる824・828Dに破壊されている。出土遺物、遺構の新旧関係から、1道の構築時期は14～15世紀中頃と考えられる。なお、図版7-1-1・7は中国製と考えられ、これらを所有できた人物が近くに存在したと思われる（註1）。

## 3. 9号井戸跡と1号道路状遺構の関連性について

9Wと1道との関係であるが、1道はその東端で、9Wに正対して接している状況であった。このことは、1道が9Wと部分的に接しているのではなく、1道が9Wに向かって延びて接しているようである。なお、1道は9Wと接する部分で止まっており、9W以東では1道の硬化面、掘り方は検出されていない。そして、9Wと1道はともに14～15世紀中頃の所産と考えられる。これらのことから、9Wと1道は同時に使用されていた可能性がある。また、9Wが規模や平場を有する点で、市内で検出されている井戸跡よりも特異な事例であることは、1道との関連を考える上でも重要な情報であろう。井戸跡と道路状遺構の関連を指摘する事例としては、毛呂山町堂山下遺跡が挙げられる（佐藤・植田 2013）。堂山下遺跡では中世の推定鎌倉街道跡の脇に近接して2号井戸跡が検出されており、佐藤氏はこの状況を街道沿いの道端に設けられた井戸と推定している（佐藤 2016）。検出状況を積極的に評価し、道路状遺構と井戸跡の関連を機能的に捉えている。本地点の9Wと1道の場合も機能的に評価すれば、遺構の検出状況から「井戸に通じる道」として推測できないだろうか。もちろん文献資料などとの詳細な検討が必要であるが、このように推測していくことは、遺構同士の有機的な関連性を見出し、中世における村落景観の復元につながっていくだろう。

#### 4. 本地点と「大塚千手堂」について

最後に、本地点について、古くから伝わる地名から考えてみたい。「郷土の地名」によると、本地点周辺の西側斜面下は「御坊下」と言われており、解説では「台地の下の田に付けられた字名であるが、台地上には現在柏町にある千手堂の宿坊であった松本坊、杉本坊など七坊があったといわれる」とされている（志木市総務部市史編さん室 1988）。このことから、台地上にある本地点は、宿坊（僧坊）が存在した場所に相当する可能性があり、「大塚千手堂」との関連性が挙げられる。大塚千手堂は本地点から100mほど東北東方向に位置し、『館村旧記』（註2）の「大塚千手堂之事」の記事によると、「松林山観音寺大受院」と称し、天台宗に属し、「七堂大伽藍」をもち、「極楽浄土」を思わせるような尊厳の霊場であったとされている。この「松林山観音寺大受院」は、創建について『志木市の社寺』（埼玉県志木市教育委員会 1985）によると、本尊の千手観世音菩薩が鎌倉末期から室町中期頃の作と伝えられることから、創建もそのころと推測されているが、二度の火災に遭遇しており、一度目は元弘・建武の頃（1331～1336年）に焼失し、その後日蓮宗により再建され、大乘院という日蓮宗の寺院となり、二度目は永禄4（1561年）の柏城没落の際に焼失し、その後は寺の一部である千手堂のみが再建されたという歴史がある。

この「大塚千手堂」関連の遺構は、現在、新邸遺跡第1地点（佐々木・尾形 1986）において、中世の段切状遺構が検出され、その平場面から六文銭を出土する地下式坑や土坑・井戸跡・ピットなどが検出されている。最新では、平成25年度に発掘調査が実施された、中道遺跡第74地点（未報告）から段切状遺構と断面葉研状の溝跡、土坑・ピットが検出され、「大塚千手堂」関連の資料が増加しつつある状況と言える。今回、本地点で検出された遺構・遺物も大塚千手堂を考えるうえで示唆に富む資料であることは間違いのないであろう。

---

## 第2節 西原大塚遺跡第222地点の調査成果

---

### （1）縄文時代中期の住居跡について

縄文時代の遺構としては、住居跡7軒、土坑3基、ピット11本が検出された。今回の調査は、浸透トレンチおよび水道配管部分であり、小規模な調査区を4か所（1～4区）設定して行われた。そのため、住居跡の調査も部分的となったが、そのような状況下で7軒の住居跡を検出し、住居跡同士で重複している例が確認できたことは成果である。

住居跡の時期については、炉体土器、埋甕は確認できず、覆土中の土器からしか判断できなかったが、出土遺物から縄文時代中期中葉～後葉にかけての時期と考えられる。188・190・192 Jが中期中葉（勝坂式期）、189 Jが中期後葉（加曾利E I式）、187・191 Jが中期後葉（加曾利E II式）と考えられる。

西原大塚遺跡は現在、縄文時代中期の住居跡が180軒以上検出されており、その住居跡の分布状況から環状集落であったと考えられている（徳留・尾形・深井 2015）。規模はおおよそ南北290m×東西260mとされ、集落の中心に土坑群が分布し、土坑群を円環状に取り囲むように住居跡が分布している様子が分かってきている（徳留・尾形・深井 2015）。

前述したように、今回の調査地点では、部分的な調査区のなかで7軒の住居跡が検出された。また確

認調査の結果においても敷地全面と言っていいほどに遺構が検出されており（第20図）、未調査区部分に縄文時代の住居跡が残存している可能性は非常に高い。このことから本地点には縄文時代の住居跡が非常に密度濃く分布しているものと思われる。土坑は3基のみ検出されており、未調査部分から土坑が検出される可能性はあるが、住居軒数からみると少ないエリアと推測される。

このような検出状況のもと、徳留氏が示した縄文時代中期遺構分布図（徳留 2015a）に照らし合わせると、本地点は環状集落北側内縁内の住居域に該当する。そして、土坑群との境は集落のより内側である可能性が高い。なお、西原大塚遺跡の環状集落は、中央部分にも住居跡が散見されることから、双環状集落である可能性も指摘されている（徳留 2015b）。今後の調査によって住居跡・土坑の分布傾向や遺構の重複関係を把握し、土器編年に照らし合わせた集落変遷の解明することで、集落形成の様相を明らかにできるとと思われる。

### 第3節 西原大塚遺跡第227地点の調査成果

#### （1）弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の住居跡について

弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の遺構としては、住居跡4軒が検出された。312・313 Yは区画整理時の調査で大半を調査されていた。今回、312・313 Yの残りの一部を調査することで、312・313 Yの全容をほぼ把握することができた。603・604 Yは新たに検出された住居跡である。南東部分を攪乱で破壊され、かつ耕作による攪乱を受けており、遺存状況は非常に悪かった。そのような状況で、住居跡全体を完掘し住居構造を把握でき、炭化材をサンプリングできたことは大きな成果である。

西原大塚遺跡では現在、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡が600軒以上、方形周溝墓36基、掘立柱建築遺構4基が検出されている。これらの遺構は台地縁辺に沿って展開している様子が判明しつつある。本地点は遺跡の南東端に位置しており、508.08㎡の調査面積に対して住居跡が4軒のみの検出であったことから、遺構密度が希薄な場所と言える。弥生時代後期～古墳時代前期の集落の外縁部と考えられよう。

#### （2）603・604号住居跡出土の炭化材について

今回、603・604 Yで床面の直上から炭化材がまとまって検出された。炭化材の出土状況から、603・604 Yは焼失住居であった可能性がある。これらの炭化材について、樹種同定を行った結果、603 Yではすべてクリ、604 Yではすべてクヌギ節であった（108ページを参照）。分析の考察では、弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の住居跡2軒で炭化材の樹種が異なる理由として、住居跡の時期差による用材傾向の違いの可能性、特殊な建物であった可能性などが挙げられている（小林 2020）。西原大塚遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡で、樹種同定を実施し、クヌギ節、クリと判明している例として、区画整理第1地点・第169・211地点（尾形・大久保・深井・青木 2018）で検出された32 Y（クヌギ節33点、コナラ節18点）、第45地点（佐々木俊保・関根正明・上田寛・内野美津江ほか 2009）で検出された214 Y（クリ1点）、215 Y（クリ3点）、228 Y（クヌギ節2点、クリ5点）、第108地点（佐々木・尾形・坂上・青池 2009）で検出された539 Y（クヌギ節27点、コナラ節5点、クリ6点）、540 Y（クヌギ節8点）、542 Y（クヌギ節1点、クリ1点）が挙げられる。少な

い事例ではあるが、クスギ節の利用が主体的であることは言える。クリの利用については、炭化材の点数は少ないが、クリのみ認められた住居跡(214・215・228 Y)、クスギ節とクリの両方が認められた住居跡(539・542 Y)がある。クスギ節とクリを併用している事例もあり、木材利用のあり方は多様であると思われる。今後、炭化材の分布状況、住居跡の構造や規模、住居跡の時期細分、遺跡内における樹種別の住居跡の分布傾向など、樹種同定の分析結果とあわせて考察していく必要がある。

【註】

- 註1 中世以降の遺物については、今回、朝霞市教育委員会の野沢 均氏に鑑定をいただいた。同時に今回検出された遺構についての所見をいただいたため、ここで述べる事項の基本は野沢氏のご教授に基づくものである。
- 註2 『館村日記』は、館村(現在の志木市柏町・幸町・館)の名主宮原伸右衛門仲愷が、享保12～14(1727～1729)年にかけて執筆したものである。

【引用・参考文献】

- 尾形剛敏・深井恵子・青木修 2015『城山遺跡第42地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 尾形剛敏・大久保聡・深井恵子・青木修 2018『中道遺跡第76地点 城山遺跡第91①地点 西原大塚遺跡第211地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第69集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・深井恵子・青木修 2019『西原大塚遺跡第213地点 中野遺跡第102地点 中野遺跡第104地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第72集 埼玉県志木市教育委員会
- 小田静夫 1980「武蔵野台地に於ける先土器文化」『神奈川考古』第8号 神奈川考古同人会
- 小林克也 2020「Ⅱ. 西原大塚遺跡第227地点出土炭化材の樹種同定」『西原大塚遺跡第220地点 西原大塚遺跡第222地点 西原大塚遺跡第227地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第75集 埼玉県志木市教育委員会
- 埼玉県志木市教育委員会 1985『志木市の社寺』志木市の文化財第10集
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1986『新邸遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第2集 志木市遺跡調査会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2009『西原大塚遺跡Ⅰ～Ⅲ 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第13集 埼玉県志木市西原特定土地区画整理組合 埼玉県志木市遺跡調査会
- 佐々木保俊・尾形剛敏・坂上直嗣・青池紀子ほか 2009『西原大塚遺跡第108地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第42集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・関根正明・上田寛・内野美津江ほか 2009『西原大塚遺跡第45地点 発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第6集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 佐藤春生 2016「報告② 鎌倉街道上道と渡河点周辺の中世遺跡～毛呂山町堂山下遺跡と苦林宿周辺～」『埼玉考古学会設立60周年記念シンポジウム 鎌倉街道の風景 発掘でよみがえる埼玉の中世』埼玉考古学会
- 佐藤春生・植田雄己 2013『堂山下遺跡 一第2次発掘調査報告書一』毛呂山町埋蔵文化財調査報告第28集 毛呂山町教育委員会
- 志木市総務部市史編さん室 1988『郷土の地名』志木市史調査報告書 志木市
- 諏訪開晴・野口淳・島立桂 2010「四 関東地方南部」『講座日本の考古学1 旧石器時代(上)』青木書店
- 徳留彰紀 2015a「埼玉県志木市西原大塚遺跡における縄文中期集落研究の基礎的資料」『あらかわ』第16号 あらかわ考古談話会
- 徳留彰紀 2015b「第4章 調査のまとめ 第1節 縄文時代」『志木市遺跡群22』志木市の文化財第64集 埼玉県志木市教育委員会

[付 編]

自然 科学 分析



# I. 西原大塚遺跡第222地点出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

## 1. はじめに

埼玉県志木市に所在する西原大塚遺跡第222地点で出土した炭化材の樹種同定を行なった。

## 2. 試料と方法

試料は、縄文時代中期中葉の192号住居跡から出土した炭化材1点である。

樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柃目）について、カミソリと手で断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行なった。

## 3. 結果

同定の結果、炭化材1点は単子葉類のイネ科であった。同定結果を第38表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) イネ科 Gramineae 図版23-4 1a (No.1)

向軸側の原生木部、その左右の2個の後生木部、背軸側の節部の三つで構成される維管束が散在する単子葉植物の科である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は比較的薄い。

イネ科はタケ亜科やキビ亜科など7亜科がみられる単子葉植物であるが、対照標本が少なく、同定までには至っていない。

## 4. 考察

縄文時代中期中葉の192号住居跡から出土した炭化材は、草本類のイネ科であった。住居跡の屋根材や壁材、もしくは敷物などの可能性が考えられる。

試料No.	出土遺構	遺物No.	種類	樹種	時期
1	192号住居跡	炭1	炭化材	イネ科	縄文時代中期中葉（図版式期）

第38表 西原大塚遺跡第222地点出土炭化材の樹種同定結果一覧

## Ⅱ. 西原大塚遺跡第227地点出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

### 1. はじめに

埼玉県志木市に所在する西原大塚遺跡第227地点で出土した炭化材の樹種同定を行なった。

### 2. 試料と方法

試料は、弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の603号住居跡から出土した炭化材13点と、604号住居跡から出土した炭化材19点の、計32点である。

樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柃目）について、カミソリと手で断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）にて鏡像および写真撮影を行なった。

### 3. 結果

同定の結果、広葉樹のクリとコナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）の計2分類群がみられた。604号住居跡の19点はすべてクヌギ節で、603号住居跡の13点はすべてクリであった。同定結果を第39表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

（1）クリ *Castanea crenata* Siebold. et Zucc. ブナ科 図版24 1a-1c (No.3)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火災状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

（2）コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版24 2a-2c (No.21)、3a (No.17)、4a (No.18)、5a (No.24)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

### 4. 考察

弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の603号住居跡の13点はいずれもクリ、604号住居跡の19点はいずれもクヌギ節であった。いずれも焼けた建築材の可能性が考えられるが、詳細は不明である。なお、

クリおよびクスギ節は、堅硬で割裂性の良い樹種である（伊東ほか 2011）。

同じ弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の住居跡2軒で出土した炭化材の樹種が異なる理由としては、住居跡に時期差があり、用材傾向が異なっていた可能性や、どちらかが特殊な用途の建物であった可能性などが考えられる。

なお、西原大塚遺跡第45地点の調査においても、同じ時期の炭化材でクリが多く出土している（植田2000）。埼玉県内で確認されている弥生時代後期末葉～古墳時代前期の炭化材ではクスギ節が多いため（伊東・山田編 2012）、西原大塚遺跡第45地点から出土したクリ材については、試料の隔りたりによるものか、クリ材を多用する住居があったのか、再検討が望まれていた（植田 2000）。今回の603号住居跡においてもクリ材を多用していた状況が明らかにされたため、本遺跡にはクリ材を多用した住居があった可能性が高い。

#### [引用・参考文献]

伊東隆夫ほか 2011『日本有用樹木誌』238p 海青社

伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学—出土木製品用材データベース—』449p 海青社

植田弥生 2000『出土炭化材の樹種同定』『西原大塚遺跡第45地点発掘調査報告書』184-188p 埼玉県志木市遺跡調査会

試料No.	出土遺構	遺物No.	種類	樹種	時期
1	603号住居跡	炭1	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
2	603号住居跡	炭2	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
3	603号住居跡	炭3	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
4	603号住居跡	炭4	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
5	603号住居跡	炭5	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
6	603号住居跡	炭6	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
7	603号住居跡	炭7	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
8	603号住居跡	炭8	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
9	603号住居跡	炭9	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
10	603号住居跡	炭10	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
11	603号住居跡	炭11	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
12	603号住居跡	炭12	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
13	603号住居跡	炭13	炭化材	クリ	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
14	604号住居跡	炭1	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
15	604号住居跡	炭2	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
16	604号住居跡	炭3	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
17	604号住居跡	炭4	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
18	604号住居跡	炭5	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
19	604号住居跡	炭6	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
20	604号住居跡	炭7	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
21	604号住居跡	炭8	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
22	604号住居跡	炭9	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
23	604号住居跡	炭10	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
24	604号住居跡	炭11	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
25	604号住居跡	炭12	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
26	604号住居跡	炭13	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
27	604号住居跡	炭14	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
28	604号住居跡	炭15	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
29	604号住居跡	炭16	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
30	604号住居跡	炭17	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
31	604号住居跡	炭18	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭
32	604号住居跡	炭19	炭化材	コナラ属クスギ節	弥生時代後期末葉～古墳時代初頭

第39表 西原大塚遺跡第227地点出土炭化材の樹種同定結果一覧



图 版





1. 確認調査風景



2. 調査区近景



3. 表土剥ぎ風景



4. 基本土層



5. 遺構確認風景



6. 16号石器集中地点・1号礫群



7. 石器出土状態



1. 827号土坑（北から）



2. 827号土坑（東から）



3. 813・814・818号土坑



4. 815・821号土坑



5. 816号土坑



6. 817号土坑



7. 819号土坑



8. 820号土坑



1. 822 号土坑



2. 823 号土坑



3. 824 号土坑



4. 825 号土坑



5. 826 号土坑



6. 828・829 号土坑



7. 830・831 号土坑遺物出土状態



8. 831 号土坑



1. 832号土坑



2. 833号土坑



3. 834号土坑



4. 835号土坑



5. 836号土坑



6. 9号井戸跡



7. 9号井戸跡平面



8. 9号井戸跡遺物出土状態



1. 1号道路状遺構東半部（東から）



2. 1号道路状遺構西端部超硬化面（東から）



3. 1号道路状遺構西端部掘り方（東から）



4. 1号道路状遺構西半部（西から）



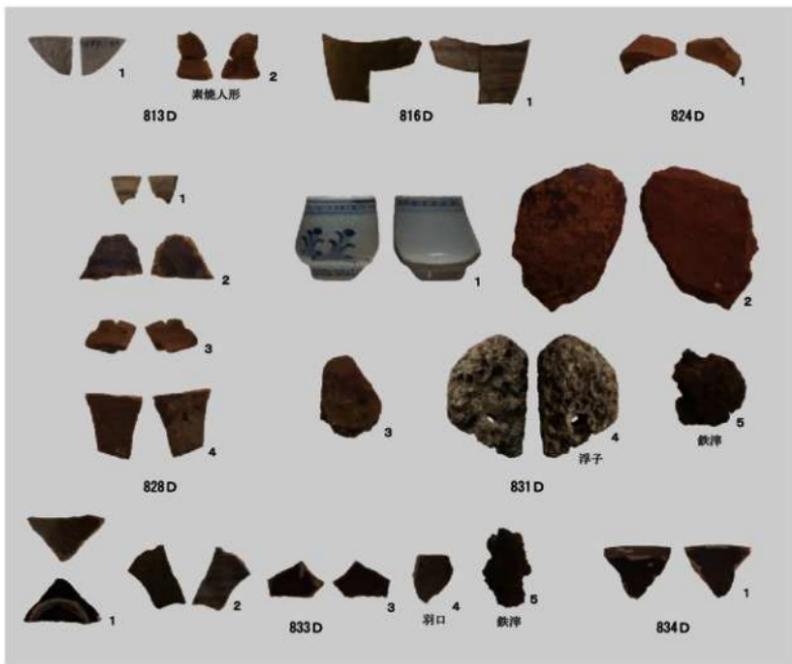
5. 11号ピット



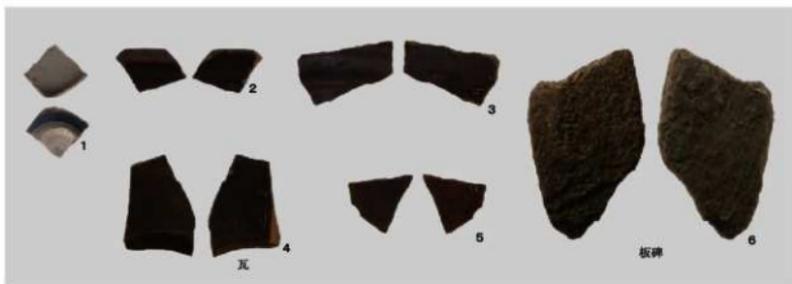
6. 調査風景



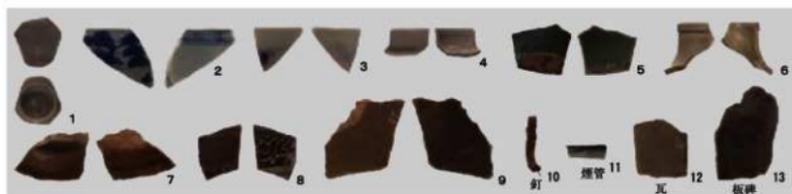
1. 16号石器集中地点出土石器



2. 土坑出土遺物



3. 9号井戸跡出土遺物



1. 1号道路状遺構出土遺物



2. ピット出土遺物



3. 遺構外出土遺物



1. 確認調査風景



2. 調査区近景



3. 表土剥ぎ風景



4. 187号住居跡遺物出土状態



5. 187号住居跡遺物出土状態



6. 187号住居跡



7. 188・192号住居跡遺物出土状態



8. 188号住居跡遺物出土状態



1. 192号住居跡炭化材出土状態



2. 188・192号住居跡



3. 189号住居跡遺物出土状態



4. 189号住居跡



5. 190号住居跡



6. 191号住居跡



7. 191号住居跡遺物出土状態



8. 191号住居跡調査風景



1. 193号住居跡



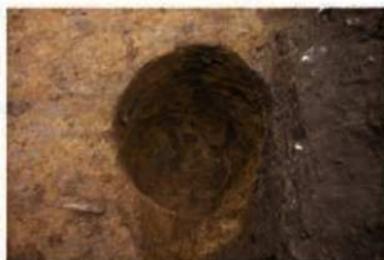
1. 810号土坑



3. 811号土坑



4. 812号土坑



5. 1号ピット



6. 7号ピット



7. 8号ピット



8. 9号ピット



1. 12号ピット



2. 36号方形側溝墓



3. 1区全景



4. 2区全景



5. 3区全景



6. 4区全景



7. 調査風景



確認調査出土遺物 1



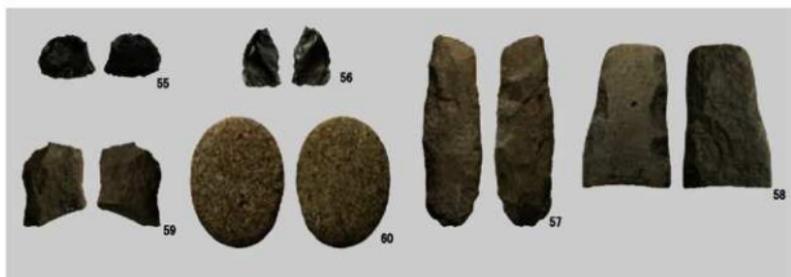
6 T r



187 号住居跡出土遺物 1



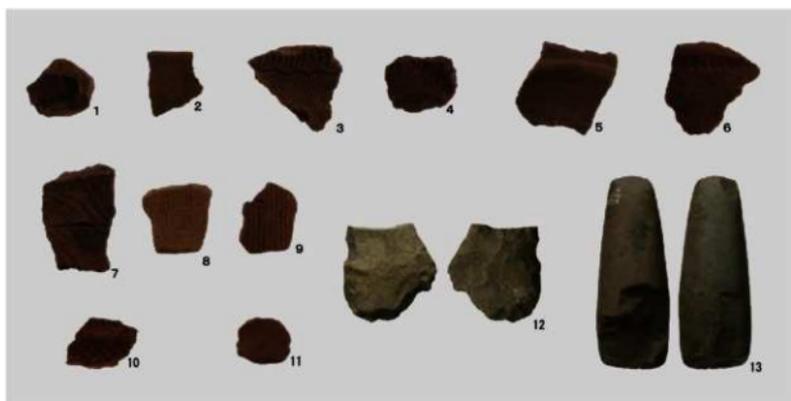
187 号住居跡出土遺物 2



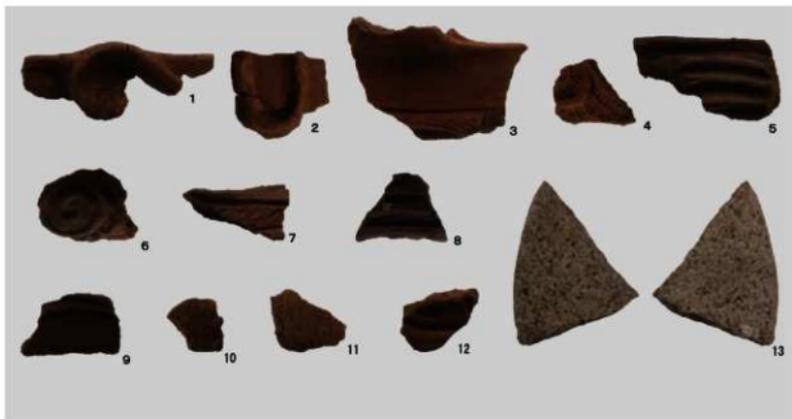
1. 187 号住居跡出土遺物 3



2. 188 号住居跡出土遺物



3. 192 号住居跡出土遺物



1. 189 号住居跡出土遺物



2. 190 号住居跡出土遺物



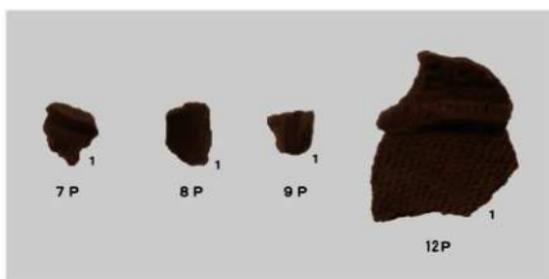
3. 191 号住居跡出土遺物 1



1. 191号住居跡出土遺物 2



2. 810号土坑出土遺物



3. ビット出土遺物



4. 遺構外出土遺物 1



遺構外出土遺物 2



1. 確認調査風景



2. 調査区近景



3. 表土剥ぎ風景



4. 312号住居跡



5. 313号住居跡



6. 603号住居跡遺物出土状態



7. 603号住居跡遺物出土状態



8. 603号住居跡貯蔵穴



1. 603 号住居跡



2. 603 号住居跡炉跡



3. 603 号住居跡掘り方



4. 604 号住居跡遺物出土状態



5. 604 号住居跡



6. 604 号住居跡炉跡



7. 604 号住居跡炉跡被熱断面



8. 604 号住居跡 P 2



1. 604号住居跡P3



2. 604号住居跡



3. 19号炉穴



4. 20号炉穴



5. 837号土坑



6. 1号ピット



7. 2号ピット



8. 3号ピット



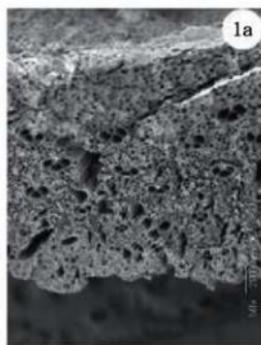
1. 603 号住居跡出土遺物



2. 604 号住居跡出土遺物



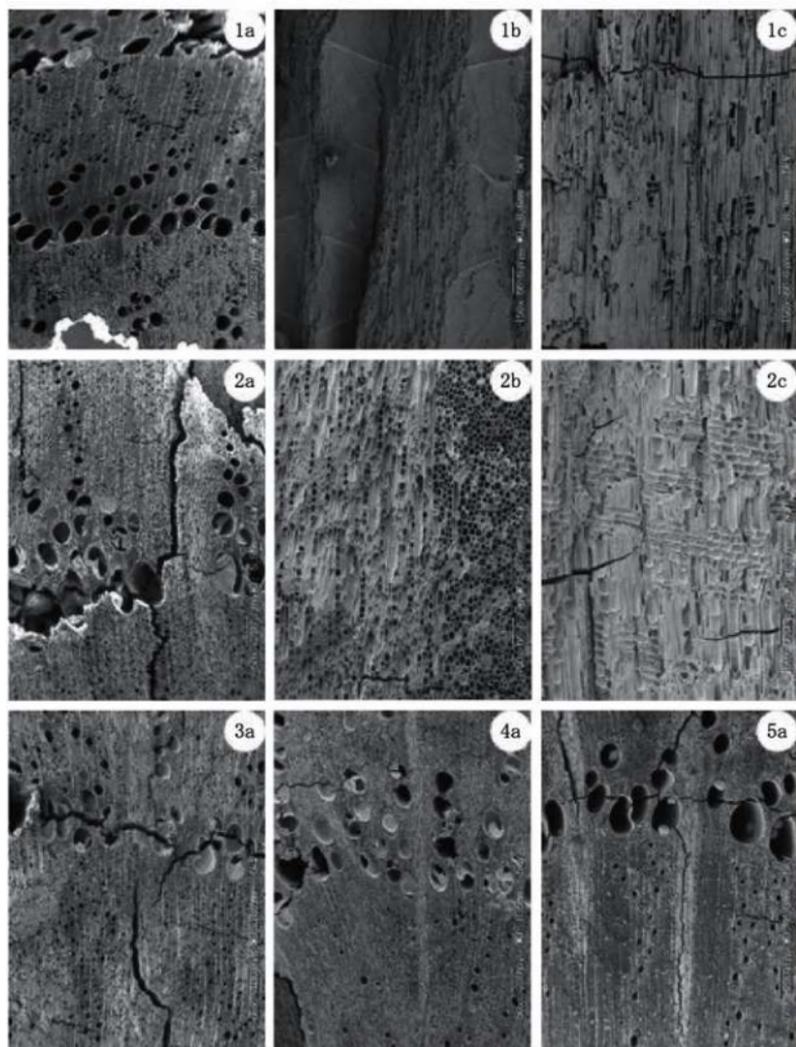
3. 遺構外出土遺物



1a. イネ科 (No. 1)

a: 横断面

4. 西原大塚遺跡第 222 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真



1a-1c. クリ (No.3)、2a-2c. コナラ属クヌギ節 (No.21)、3a. コナラ属クヌギ節 (No.17)、4a. コナラ属クヌギ節 (No.18)、5a. コナラ属クヌギ節 (No.24)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	にしはらおわがひせきたい 220ちひ、にしはらおわがひせきたい 222ちひ、にしはらおわがひせきたい 227ちひ、いぞうふんかさいはつちゅうさほうくしよ							
書名	西原大塚遺跡第220地点 西原大塚遺跡第222地点 西原大塚遺跡第227地点 埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第75集							
著者氏名	大久保 聡 尾形剛敏							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号 TEL 048 (473) 1111							
発行年月日	令和2 (2020) 年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(°′″)	(°′″)		(全体面積)	
にしはらおわがひせきたい 西原大塚遺跡 (第220地点)	しよきしちかひせきやう 志木市幸町 2丁目6285-2、 6286-3	11228	09-007	35° 49′ 39″	139° 33′ 58″	20181031 ～ 20181201	119.56	道路新設工事
にしはらおわがひせきたい 西原大塚遺跡 (第222地点)	しよきしちかひせきやう 志木市幸町 3丁目7292、7293	11228	09-007	35° 49′ 31″	139° 33′ 55″	20181018 ～ 20181107	94.00 (768.02)	分譲住宅建設
にしはらおわがひせきたい 西原大塚遺跡 (第227地点)	しよきしちかひせきやう 志木市幸町 3丁目7174	11228	09-007	35° 49′ 26″	139° 33′ 56″	20190305 ～ 20190326	508.08 (1,112.00)	分譲住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
西原大塚遺跡 (第220地点)	集落跡	旧石器時代	石器集中地点	1か所	石器		道路状遺構の 東端で井戸跡 と接している 状況を確認で きた。	
		縄文時代 中世以降	礫群 陥穴 土坑 井戸跡 道路状遺構 ピット	1か所 1基 23基 1基 1本 34本	礫 なし 陶磁器・土器・土製品(素焼人形) 陶磁器・板碑 陶磁器・土器・鉄製品(釘)・ 銅製品(煙管吸口)・板碑 陶器・石製品(砥石)			
西原大塚遺跡 (第222地点)	集落跡	縄文時代中期	住居跡 土坑 ピット	7軒 3基 11本	土器・石器 土器・石器 土器		縄文時代中期 中葉～後葉の 住居跡は環状 集落内からの 検出と考えら れる。	
		弥生時代後期～ 古墳時代前期 近世以降	方形周溝墓 ピット	1基 1本	なし なし			
西原大塚遺跡 (第227地点)	集落跡	縄文時代	炉穴 土坑	2基 1基	なし なし			
		弥生時代後期～ 古墳時代前期	住居跡	4軒	土器			
要 約		<p>西原大塚遺跡は、縄文時代中期の環状集落や弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡を主体とする遺跡である。今回は第220地点・第222地点・第227地点の3地点分の調査成果を収録している。</p> <p>第220地点では、旧石器時代の石器集中地点1か所、礫群1か所、縄文時代の陥穴1基、中世以降の土坑23基、井戸跡1基、道路状遺構1本などが検出された。道路状遺構は東端で平面を有する大型の井戸跡と接しており、道路状遺構と井戸跡との関連性が注目される。</p> <p>第222地点では、縄文時代中期の住居跡7軒、弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓1基などが検出された。部分的な調査であり、調査面積は狭かったが、縄文時代中期の住居跡が密に分布している様相が把握できた。</p> <p>第227地点では、縄文時代の炉穴1基、弥生時代後期末葉～古墳時代初期の住居跡4軒などが検出された。住居跡4軒のうち、2軒は床面上から炭化材が多く出土しており、焼失住居と考えられる。</p>						

志木市の文化財 第75集

西原大塚遺跡第220地点  
西原大塚遺跡第222地点  
西原大塚遺跡第227地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発 行 埼玉県志木市教育委員会  
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号  
発行日 令和2(2020)年3月31日  
印 刷 株式会社白峰社